263.3

263. 3-111

1200501353112

始

本書の來歷

普通教育に於ける裁縫科教授の効果は他教科に比して其の進歩思はしからざるは識者の常に遺憾とする所なり蓋し複雜なる該教科の性質上已むを得ざるものあるべしと雖畢竟教授法の研究未だ足らざるあるもの一原因たらずんばあらず東京府夙に該教科の改良上進を企劃し客年中管内各小學校女教員を召集し故東京女子高等師範學校教授今村順子女史を講師に嘱託して裁縫科教授法講習會を開催せられたり同女史は該教科教授法の造詣深く其の名聲嘖々たるは今更贅言を要せざるなり而して本講義は頗る懇切丁寧を極め且つは女史獨特の見地を有し實に斯界の寶典として今日又得易からざるも

大正
4. 6. 5
内交

のたり茲に曩きに親しく講習を受けし教員諸氏の希望に依り之を印刷に付することとはなりぬ若し夫れ本書亦該教科教授上裨益する所あらば以て本會開催の趣旨に副はん乎一言本書の來歷を卷首に叙す

大正四年五月

編者識

目次

第一章　緒論……一
第二章　女子の教育と裁縫との關係……三
第三章　裁縫教授の二方面……九
第四章　我邦に於ける裁縫教授の沿革の概要……一六
第五章　歐米に於ける女子手工科教授沿革の概要……二八
第六章　裁縫教授の方針……三五
第七章　裁縫の教育的價値……四二
第八章　裁縫教授の目的……五四
第九章　裁縫教授の材料……五七
第十章　教材の排列……
第十一章　裁縫科の教授細目……六七
第十二章　細目調製上の注意……七〇
第十三章　裁縫教授の方法……八一

第十四章　教授の順序……九〇
第十五章　教授の形式……一一九
第十六章　教授の段階……一二一
第十七章　材料品……一三八
第十八章　教案の必要と其の種類……一五一
第十九章　教案調製上の注意……一五三
第二十章　裁縫教授上の諸注意……一六六
第二十一章　器具の整理に關する注意……一七七
第二十二章　姿勢に關する注意……一八六
第二十三章　教科書と筆記帳……一九四
第二十四章　裁縫科に關する設備……一九八
第二十五章　教授用備品……二一〇
第二十六章　設備上の注意……二二三

目次終

裁縫教授法

東京女子高等師範學校教授　今村ジュン子　講述

第一章　緒論

只今御紹介のございました樣な次第で、今日より皆樣と共に裁縫教授の方法を研究致して見たいと思ひます。裁縫教授と云ふとは近頃まで割合に等閑に附せられて居りましたけれども、實際は、初等教育は、無論でございますが、中等教育でさへもなかなか困難なことでございます。初等教育の方では各種の教科がありますが其の中で裁縫の教授は一番むづかしいと思れます。女子高等師範でも段々研究致して居りますが、矢張裁縫の教授は唯單に教へると云ふことは容易でありますが、十分生徒に了得させて効果のある樣にすると云ふことは非常にむづかしい。他の學科も小學校の子供には五年や六年教へても十分なことに行かないこ

とは無論でありますが、殊に裁縫は其の成績が直ぐと實際に現はれるものでありますから尙更其の結果の不十分であることが餘計分かるのであります。教師も熱心に教へます、子供も決して怠けて聽いて居るのではないが、餘り成績が擧がりませぬ。其れは此の教科の性質でありませうか、或は教授の方法がまだ不完全の爲めで爾かあるのでありませうか。孰れかに其の原因はあるのでありませうけれども、私共も皆樣方と同樣に研究中でありまして、まだ何う云ふ原因が何所にあつて斯うだと云ふ樣な解決が付かないのでございます。僅の間のお話でございますから十分に申上げると云ふことは出來ませぬのみならず、十分お話しやうと思ひましても、私の經驗並に學力が足りませぬために無論不十分なのであります。近頃私は少し身體を惡くして居りますから前以て御許しを願はなければなりませぬことは、少し皆樣の方に聲が通らなかつたり或はお聽きにくひこともございませうけれども、時々腰をかけてお話しする場合があるかも知れませぬ。どうぞ前以て其の段はお許しを願つて置きます。尙さう云ふ次第でございますからお分かりにならぬ所はどうぞ御遠慮なく御質問を頂だきたいと思ひます。講習が終りました後でも宜しうございます。又今日のお話のことを明日にお尋ね下さつても宜しうございます。それに市内の小學校などを廣く拜見致しまして、何う云ふ所に皆樣の御困りになる點があるかと云ふ樣なことなども考へて置くのが必要でございますので、それを前以て準備致したいと存じて居りましたが、此の十日ばかり前から少し身體が惡くつて、昨日などは臥せつて居りましたのでそれも出來ませぬ。隨つて皆樣に不適當な御話もあるかも知れませぬ。此の段もお許しを願いたい。

第二章　女子の教育と裁縫との關係

皆樣方は明治時代のことは御承知でございませうが、お若く居らつしやいますから其の以前のことは多分御承知ないことゝ思はれます。御維新前即ち明治以前の女子教育と云ふものは何う云ふ風であつたかと申しますと、先づ大體に於きまして、高貴の方々は別でありますけれども、中流以下の人にありましては、女子の教育として特別なものはなかつた、主として裁縫を以て唯一のものと致して居り

ましたのであります。女子は日々の家内の掃除などが終りますれば必らず裁縫を致しました。今日の如く各種の教科を學んだ譯では決してありませぬ。唯、幾分か心得になる所の、即ち修身の道を書いてある假名附の書物を少し讀みました位であります。それは極く僅なものでございます。さうして毎日裁縫を致して居りました。さう云ふ教育でありましたが、我國の婦人はよく物の道理を辨へて居りまして、且つ婦德がなか〳〵堅い。さうして何事も實行と云ふことを先に致しまして、餘計なことを口走しる樣なことは女の愼しむ所であると云ふことを心得て居りました。口で言ふことは必ず身に行ふ。それは澤山の人でありますから、中には昔の女子でも不德な者もありましたのでございませうが、先づ多くはさう云ふものでございました。今日の如く種々の學科を學び且つ澤山の年限を學業のために費やし而して後にさう云ふ立派な婦人になつたのかと云ふと、決してさうでない。唯、家庭に於て主として裁縫を學んで居つたと云ふ丈けであります。さう云ふ風に考へますと、裁縫と云ふものは餘程婦人の性質に關係のあるものではないか。裁縫の教授と云ふものは餘程婦人の性質に關係あるものではないかと思ひます。他の諸種の學科を學んで物の道理などを覺える今日にありましても、隨分婦人としては爲すまじき行ひをしたり、世の中に恥を曝したりする人も澤山ございますが、却つて從來の婦人にさう云ふ婦人の手本となるべき人を澤山見出すことが出來るやうな具合でございますから、考へて見ますと裁縫と云ふものは婦人の性格の上に餘程大きい影響があるものではないかと云ふ風に思はれます。

よく外國の人が申しますが、日本の婦人は柔順にして、父母長上に對し又夫に對してよく事へ、犧牲的の念慮が深くつて、父母に對しては素よりのこと、自分の子供自分の夫と云ふ樣な最も親愛する人に對しては自分の命を惜まないで盡くす、自分の健康を損ねても其等の家族の人々のために身を犧牲にして盡くすと云ふ念慮が非常に深い。柔順である上にさう云ふ立派な德を備へて居る。外國人と申しましても、國に依つて違ひ人に依つて違ひますが、よく西洋の人は外へ出て遊んで家庭に居つて家内の整理をするなんと云ふ樣なことは餘り好まないと云ふ傾がありますが、さう云ふことは日本の婦人には見出さない。今日に於きましても

然うでありますけれども、以前は尙然うであつた。婦人は家に居つて家内の總てのことを取扱ふと云ふことが其の仕事でありまして、それを自分の身の及ぶ限りする、子供のために十分力を盡くすとか云ふ風に致して居ります。此の點に於きましては既に外國人も感化して居ると云ふことをいつも聞きます。何う云ふ所からさう云ふ風になるかと言ひますと、矢張辛抱强く、物事に忍耐が强く、自分の氣儘勝手に物事は出來ないと云ふことを辨へて居るからであります。さう云ふ風でありますから、日本の婦人は學力などは少し足らぬ所がありませうけれども、婦人の性質と云ふことに就きましては世界中のお手本になる婦人ではないかと云ふ風に申して居るさうであります。何うしてそんな風になるか。日本の婦人には特に何う云ふ教へがあつてさう云ふ風になるのかと云ふと、從來は格別な教はありませぬ、只今申上げました通り、裁縫と云ふものを婦人の唯一の學科として居つた丈であります。裁縫は單に手先きの仕事と云ふのみでない。普通教育に就きましては比較的裁縫科に重きを置かれませぬ。近來は左樣でもありませぬが、數年前までは普通教育中の一教科として餘り重く見なかつた。けれどもそれは大なる間違であつたと思ひます。

今日は昔と較べてどれだけ婦人の德が優つて來たか、どれだけ婦人の性質が立派になつたか、又働きが如何かと云ふ樣なことを考へても、昔の婦人より多少智慧は增して居りますけれども、其の他の點に於きましては昔の婦人よりも立派になつて居ると申すことは出來ない。それならば今日も唯、裁縫丈を授けて他のことは何も教へないで宜いかと云ふと、段々世の中が進むに隨つて無論さう云ふ譯にはゆきませぬけれども、唯、裁縫のみを學んで居つた時と比較して斯う云ふものであると云ふことのお話でありますが、昔の婦人も決して今日の婦人より劣つて居ると云ふことはないのでございます。つまり裁縫を學ぶために各種の智慧を得ると云ふことには參りませぬけれども、意志が鞏固になるのであります。一朝何か大事の起つたときには單に智慧があつたばかりではいけない、意志が强くなくちやいけませぬ、隨ていろ〳〵大事な場合に遭遇したときには意志が强ければ立派な行ひをすると云ふ樣なことになるのであります。さう云ふ次第でございますから婦人の教育を致しますには、無論只今申上げた通り時勢の進運に伴れてい

ろ〳〵な學科を授けなければなりませぬが、裁縫と云ふものに最も重きを置て教授致したいと思ひます。普通教育に於きまして近來まで割合に裁縫を等閑にして居りました。是は遺憾なことでございますが、多くの人は斯う云ふ風に考へるのであらうと思ひます。普通教育と云ふものは諸種の知識技藝も授けるけれども人間を造くると云ふことが最も肝要である。裁縫などの樣な末技は人間を造ると云ふことに何等深い關係はない。裁縫と云へば一種の技術である。つまり人間を拵らへるのも箱を拵へるのも同じ樣に考へて居る。であるから人間を造ると云ふ點に向つては何等の効力がない。効力がなくもないでせうが極めて薄い。さう云ふ風に考へて居る。其れは甚だ間違ひである。さうして出來た所の今日の婦人はどれだけの立派な人間になつて居るかと云ふことを考へて見なければなりませぬ。でありますからどうぞ皆樣のやうに裁縫教授に從事致して居らつしやる御方は、其の考を以て女子の立派な性質を造つて行かうと云ふ樣にお考へになつてお貰ひ致したいと思ひます。

第三章　裁縫教授の二方面

裁縫の教授には二ッの方面があると私は考へます。多くの人は之を混同して了つて寔に困る。一ッは普通教育に於ける裁縫。一ッは裁縫を專門とする人に教へる裁縫であります。それならば普通教育に於ける裁縫とは何う云ふのであるかと申しますと、普通教育に於ける裁縫は、裁縫を專門とする人の裁縫とは違ひまして普通の家庭に這入る人の裁縫で宜しいのです。裁縫を專門とする人は技術も極めて堪能でなければなりますまいし、又凡て廣く知つて居なければなりますまいし、所謂專門でありますからいろ〳〵違ひますけれども、普通教育に於ける裁縫の方はさう云ふ譯ではない。何もかも廣く教へなければならぬと云ふことはない。技術の堪能であることはそれは望ましいのですけれども、子供の年齡とか或は教授の時間數とか云ふ所から考へますと、普通教育の裁縫と云ふものはそんなに立派に出來ないものに極まつて居る。唯、普通教育を受けた丈で裁縫を終つて其れ以上の教育を受けない人でありましたならば、其れは力が薄い。獨り裁

縫のみならず、何でも然うであります。して、尋常小學丈けの教育を受けて更に其の以上書物も何も見ない人でありましたならば、其れは力は僅かしかない。普通教育に於ける其の方面の裁縫を教授して行きますには、何うしても子供の身體及心意の發達と云ふことばかり考へずと、裁縫は技術でありますから手先が器用にならなければなりませぬ。如何に教授に熱心でありましても、子供と云ふことを目的として授けなければなりませぬから、先生が如何に上手でありましても、子供に出來ないことを教へると云ふことは出來ない。でありますから普通教育では流義などと云ふものを置く譯には參りませぬ。唯、子供と云ふものに斯う云ふことが出來得るか出來得ないかと云ふこと丈け考へる。餘り先生が上手で、さうして子供を能く解しない人でありますと、御自分が能くお出來になるから子供の出來る出來ないに拘はらず教へるやうになる。さうすると子供は尙興味を有ちませぬし能く出來ない。でありますから、流義なんと云ふことをやめて、子供には何う云ふ風にしたら一番分かりが宜いか、出來得るならば自分を子供の身に置て考へる。其れと、只今申上げました通りで、幾度も繰返して申上げるやうでありますけれども、普通教育に置きましては婦人の性質を造くると云ふことが肝要でありますからそれもよく考へて置かなければなりませぬ。つまり裁縫を簡易にする。裁縫の方法を極く簡易にするのでございます。

それから是は普通教育には必要ないことでありますけれども、專門的に裁縫を授けると云ふならば、各〻其の流義もありますから、つまり先生の得意とする所、最も好いとお考へになつた所を十分に授けるが宜からうと思ひます。それが爲めには年限や何かに極まりがなくてもよい。五年で立派に出來るか十年で立派に出來るか、さう云ふことは構はない。何所までも技術を堪能にしようと云ふには一週五時間とか六時間と云ふやうに時間を切るやうなことでは到底いけませぬ。裁縫は比較的やさしいことの樣に思つて居らつしやる方もある。裁縫に關係ない男の方などはさう云ふ風に考へて居らつしやいますれども、皆樣方が實際になさつて御承知の通り裁縫を上手にすると云ふことは容易でない。どうやら手が通れば宜い、即ち裏店の裁縫の樣でもよいと云ふならばそれは出來ませうが、本當に專門家の技術として愧かしくない裁縫術を施すと云ふには決して五年や三年

の修業で出來るものでない。是れ丈は私は幾多の經驗を有つて居ります。年々文部省へ中等教員の志願をする人が澤山ありますが、其の中に就て見ましても、是なら技術家として立派な者だと思ふ樣な人はなか〳〵少ない。さう云ふ人達がどれ丈け勉强したのかと云へば、少なくも小學校若くは女子師範學校などを卒業した以上に尙三年や五年は必らず裁縫のみを熱心に勉强した人に違ひない。其の人が自分の出來得る丈けの精力を籠めて試驗を受けますのです。それでも割合に立派な技術家がないと云ふことを考へますと、裁縫と云ふものは少し位の年限では立派なものにならないことが分かる。他の繪畫とか彫刻とか云ふ樣に、あれ程長い年限も要しないか知りませぬけれども、兎に角一種の技術として立派に出來やうと云ふには隨分長い修業年限を要さなければなるまいと思ふのでございます。さう云ふ風なものでございますから、なか〳〵あの流義この流義と、斯う云ふ風に止めをした方が宜いとか、あゝ云ふ風な止め方は結び目が高くなるとか云ふことを、僅の時間に敎へることに於てやかましく言つても、結局何も出來ない。先生の附いて居る間は其の止め方も思出しませうけれども、もう學校を離れて了ひますと、さう云ふむづかしいことは忽ち忘れて了ふ。小學校の裁縫は皆忘れて了つて効力が無いと云ふ樣な非難も起つて來ることになります。でありますから何うしたら宜いか。私も研究中でありますけれども、中等敎育の方でも流義なんと云ふことはやめて了つて、即ち學校の裁縫と云ふものに致した方が宜くはないか。其れは小學校の方でなく中等敎育でさへもそんな樣に思ひます。なかなかむづかしくつて子供に出來ない。其所を辨へませぬで、唯自分の流義で敎へやうと云ふことになりますと、到底學校を卒業するまでに子供には出來ないと云ふことになります。

今小學校の裁縫は尋常三年から始めることになつて居ります。尋常三年から始めると云ふことが果して適當であるか適當でないかと云ふやうなことも多少疑問であります。定めし皆樣方もさう云ふ疑問を有つて居らつしやると思ひますが、尋常三年の子供は、手の器用さはどの位になつて居るか。簡單な技術ではない。子供の不器用な手に此の複雜な技術を强ゆると云ふことが出來るか出來ないか。早く課して居るがために割合に効果が擧がらないのではないか、云ふ樣な

ことも考へて居ります。昔は滿九歳から裁縫を敎へると云つた樣であります。其れに致しますと今の尋常四年位に當りませう。昔の人の話はいろ〳〵敎育上のことを考へたのではありますまいけれども、滿九歳から裁縫を敎へると云ふやうな風に云つてありますから或は然うかも知れませぬ。先生方は無論各種の流義を御研究なさることは宜からうと思ひます。子供には流義は敎へられないと致しましても、先生方は種々の流義を御研究になりまして、其の中で是が最も宜いと云ふことがあるかも知れませぬ。一體今日の裁縫は餘り時間を取り過ぎる。尤も人に依つていろ〳〵說は違ひますけれども、私の思ひますには、もう少し簡易にしたい。普通の裁縫と云ふものは成丈け簡易にしたい。唯、時間は幾ら費やしても技術として立派なものが出來る樣にと云ふことは宜からうけれども、普通の不斷着を縫ふやうな裁縫は成丈け簡易に致したい。近頃ではいろ〳〵流義がございます。渡邊さんの流義などは東京地方では古くからあつて立派なものでございます。仙臺地方に朴澤流と云ふのがありますが是は餘程簡易な方法でございます。又近來志摩野式と云ふのがあります。是は關西の方で行はれて居りますけれども、つまり是も裁縫を簡易にして時間を減ずると云ふ意味から考へたものであらうと思れます。其の區別は好いか惡いか深く研究して見ませぬから分かりませぬが、唯、御紹介したのでございます。其れから皆樣方も御覽になつたであらうと思ひますが板橋式で定規應用裁縫敎授と云ふのがございます。それは物指を使はないで定規ばかり十二とか十三とか使ふのです。でありますから一箇月も經てば裁縫一通りのことを習ふことが出來るのです。さう云ふ風にいろ〳〵ございますが、兎に角日本の裁縫は、從來の通りであつたならば非常に時間が長くかゝつて困る、出來得る丈け簡易な方法でやりたいと云ふことが世の中の一般の傾向のやうでございます。それは然うかと思ひます。世の中が非常に忙がしくなつて居る。裁縫と云ふものは一ッは緩くりとやつて居る點に價値がある。心を練つたり或は忍耐力を養つたりするやうな側から申しますと、さう器械でばかりガチャ〳〵やると云ふことは不賛成であります。けれども今申上げる通り、世の中が忙がしくなつて居りまして、自分獨り緩くりして居つては世の中に合はなくなつて了ひますから、矢張り時勢に伴れて簡便な方法を取らなければならな

い。それが時勢に合つた裁縫の仕方と云はなければならないと思ひます。

第四章　我國に於ける裁縫教授沿革の概要

沿革と申しても詳しくお話申上げる譯には參りませぬが、何う云ふ風であつたかと云ふことをザッと申上げて見たいと思ひます。沿革などと云ふと大きい問題の樣でありますが、さう大きなことではございませぬ。我國に於きまして裁縫教授と云ふことの始まりましたのは何時頃であつたかと申しますると、古い昔の時代に於きましては、矢張是も教授には違ひありますまいけれども、多くは家庭で習つた。母から習ふとか、或は姉や伯母に習ふとか、又女中やなんぞは主人から教はると云ふ樣なことであつた。衣服と云ふものが古來あつたのでございますから裁縫と云ふこともあつたのでありませうけれども、教授などと云ふのでなくして、只今申上げた樣に、唯、家庭に於て習つた、斯う云ふやうな有樣でございます。畢竟さう云ふことをして居つても宜しいのは、即ち社會が簡單でありまして、衣服の拵方やなんぞも、さう立派でなければならないとか、或は種々の衣服を用ひるとか、今日の樣にむづかしくなかつたからであらうと思ひます。唯、寒暑を防ぐと云ふ丈けのことであつた。無論昔でも容儀などと云ふことも加はつたのでありませうけれども、今日のやうにむづかしくはない。でありますから家庭で母や姉に習ふと云ふ位で用が足りました。

所が段々衣服の作り方がむづかしくなつて來た。何時頃からさうなつたかと云ひますと、御承知の樣に元祿以後(德川時代の中頃)のことであらうと思ひます。其の前でも高貴の方々は十二單だの熨斗目だのと云ふやうないろ〳〵の物をお着けになつたのでありませうが、それは朝廷に出るやうな場合にお着けになつたので、さう云ふのは昔から裝束屋と云ふものがありまして其れが仕立てました。何うしてもそんなむづかしい裁縫になりますと普通の人には出來ない。昔神功皇后樣が朝鮮を御征伐になりまして、其時分にいろ〳〵縫ふ人やら織る人やらを伴れて御還りになつたと云ふやうなことが歷史にございますが、其の後に裝束や何かを縫ふ人も段々出來て來た。いろ〳〵裝束の形なども變化して參りましたけれども兎に角さう云ふものは昔から專門的にやつて居りました。併乍ら一般

の人々はさう云ふものを着る必要がありませぬから、隨て別に裁縫の教授を受けるなんと云ふことは特別になかつたのでございます。所が元祿以後になりましてからは民間の服裝が華美になつて參りましたし、又衣服の數も殖えて參りました。今日では尙更衣服の數は殖えて居ります。最近十五年か十年にどれだけ新規な衣服が出來たかと云ふことをお考へになつても隨分其の種類が殖えて參りました。其所で元祿以後になりまして、今申す通り段々衣服が殖えて參りましたから、隨て裁縫師匠とか仕立屋とか云ふものが必要上起つて來た。なくてはならないと云ふことになつたのです。仕立屋だの裁縫師匠などと云ふものは其れから以後に出來たものであります。併乍ら其の仕立屋に行つて學ぶとか裁縫師匠の家に通つて學ぶと云ふことを一般の婦人が致したかと云ふと、それは今日のやうに教育が盛んでありませぬし又昔のことでありますから、なか〳〵さう云ふことは致さない。女と云ふものは身分に依ては一人で歩く譯に行かない。假令物を習ひに行きたいと思つても自分一人で勝手に外へ出ると云ふことが出來ない時代でありますから、なか〳〵さう云ふ所へ習ひに行くと云ふことをしない。今日では市内に種々の技藝學校や裁縫學校が澤山な人を收容して居りますが、さう云ふ風に、仕立屋とか裁縫師匠と云ふやうな人達が澤山の生徒を收容して教へたと云ふ譯ではありませぬけれども、兎も角も一人の師匠に五人とか十人とか云ふやうな弟子があつたのです。先づ裁縫教授と云ふものゝ一番初めはさう云ふ風であつたらうと思ひます。

徳川時代の末までさう云ふ風でありまして、明治になりましてからは、御承知の様に、明治五年に學制が發布されましたので女子の教育の方針と云ふものが非常に變はつて參りました。其れより以前のことを御承知ないから變るのは當り前だと云ふ風にお考へになるかも知れませぬけれども、學制發布に依て非常に變りました。一人で外へ出ることが出來なかつた女子が、今度は供を伴れて行く譯でもありませず、一人で荷物を脊負つて行くやうになつたのであります。其の時分でも、他の教科は矢張男子に授ける教科と女子に授ける教科と同樣でありました。其の時分の小學校の規則を見ますと、女子小學には尋常小學の教科の外に女子の手藝を加へると云ふやうな法文がございます。尋常

小學の教科と云ふのは男子の學校のことを言ふのです。女子の學校は女子小學と云つたのですから、男子に對照をした言葉です。女子の小學校には女子の手藝を加へる、斯う云ふて居ります。手藝を加へると云つてありまして裁縫と云ふ言葉が其の時分にはなかつた。其の時には女子の學校に裁縫が這入つたから女子の就學する者は皆學校で裁縫を學んだらうと云ふ風に考へられますが、實際はなか〳〵さう云ふ風に行かない。私は明治五年から小學校へ這入つた譯ではございませぬ。明治七八年頃から這入つた。隨分古い。でありますから昔のことは存じて居りますけれども、小學校に明治七八年に這入つたからと云ひましても、裁縫を習つたかと云ふと、小學校では習はなかつたのです。裁縫の先生が其の時分には足りなかつた。でありますから女子小學と云ふものが各地方に立派にあつたかのやうに見えますけれども、なか〳〵さう何所の地方にでもあつた譯ではない。東京とか京都と云ふやうな大都會には女子小學もありましたらうけれども、私どもの育つた所などは女子小學どころではない。男子の小學がたつた一つしかない。其の傍に參りまして男子と共に同じ樣な教科を學んだのです。私共一緒に學んだものは七人か十人位しかない位でございますから、なか〳〵學級を別にする譯には行かない。でありますから、規則の上にはさう云ふ風に書いて手藝と云ふて居りますけれども實際は裁縫です。つまり裁縫を主として云つたものであつたらうと思ひます。無論手藝と云ふことは裁縫を入れても決して不穩當のことではないのでありますけれども、手藝と裁縫と云ふものは今日は全然別れて居ります。でありますから、今皆樣方がお聽きになつたならば、手藝と云へば裁縫はなかつたのであらうと云ふやうな風にしか解釋は出來ませぬけれども、さうではない。編物とか造花とか云ふやうなものは今は普通なものになつて居る。即ち我國の手藝になつて居りますけれども、其の當時は編物や造花と云ふものは日本では見たくもない。あれは皆舶來の技術である。決して昔から造花と云ふものがあつた譯ではない。唯、刺繍だの袋物と云ふやうなものは從來あつたのでございます。併しさう云ふものを教へると云ふ意味でなくして、矢張女子のために裁縫を授けたのであります。其の時分、我國の明治五年の規則と云ふものは矢張皆外國の規則を入れた。日本は維新になつてから萬事の物が改たまつたので

ありまして、昔からさう云ふ學校の規則なんと云ふものはなかつた。凡て今日の學校教育と云ふものは泰西の有樣を取つて其れに依つて規則を立てたのであります。其の時分の規則を見ますと、女子の學校には別になないのでございます。女子の手藝と云ふものは外國には見えない。其れにも拘らず矢張我國では我國の風俗習慣と云ふものが昔からありますから、矢張女子に手藝を授けると云ふ風に規則が出來たのでございます。

所が只今申しました通り、規則には出來て居りましても、一般に世間の女子の就學と云ふものが少ないから一切手藝を教へない。手藝の先生を賴むと云ふやうなことはなかつた。所で、明治十四年になりまして文部省から小學校教則綱領と云ふものが出ました。つまり施行規則みたいなものであつたらうと思ひます。其の中に於ては初めて裁縫と云ふ風に云つて居ります。女子の爲めには別段に男子に授ける教科の外に裁縫を加へる。從來は規則はありましても加へなくつても宜かつたのです。教師もなかつたのです。所が教則綱領が出ましてから必らず裁縫を加へなければならぬと云ふことになりました。其の時分には學校も大分出來て居りました。十年以上も經ちましたのですから、各府縣の學校も澤山に出來て居つた。併し裁縫は今まで課して居なかつたので、今度それを課せなければならぬと云ふやうなことになりましたから、そこで方々の學校では先づ裁縫の教室を第一に造らなければならぬ。次に教師を尋ねると云ひましても、今日のやうに適當な人を得られない。教室の方は少し費用をかければ出來ることでありますから、多少の費用をかけて造ることが出來ましたらう。教員と云ふものは大工が家を建てる樣に、一箇月や二箇月で出來るものでありませぬので、差當り校長さんの奥さんとか云ふやうな方々は多少物をよく知つて居るだらうから教員に賴まうと云ふやうなことにして、間に合せの仕方をしたのです。文部省がさう云ふ風に、必ず裁縫を加へなければならぬと云ふことにしたのは、當時女子の就學と云ふものが極めて少なかつた、女子の就學の少ないのは畢竟裁縫が學校にないからである、女子の就學を多くするには何うしても裁縫を加へなければならぬと云ふ風に考へられまして、假令人數が少なくても何でも裁縫を加へると云ふことになつたのです。それでありますから、他の教科の研究と較べますと、裁縫の方は

十年も後れて小學校に這入つた譯であります。隨て研究もそれだけ後れるし經驗も積んで居りませぬ譯です。他の教科が四十年間も研究されて居るに反して裁縫は三十年位しか研究されて居ないと云ふことになる。もう一つは俄にしたから適當な先生を得られませぬので、裁縫が加はつたからと云ふても其の時から裁縫教授と云ふものをやかましく言つたのです。まだ生徒の名なども學校の先生か何かに附けて貰ふと云ふやうな風でありまして、それが十年間位さうであつたらうと思ふ。さうすると前後合せると二十年も他の教科より後れて居るやうな有樣です。實に情ない譯です。さうして他の學科でありますと校長さんなども始終廻つて御覽になり、好いとか惡いとか批評して下さる。熱心にすれば熱心だと云ふて讃めて下さるし、怠ければ怠けると云つてお叱りになる。所が矢張男の方々でありますから裁縫のことはよく分かりませぬ。怠けながらやつて居やうが、子供の程度に合はないことを教へて居やうが其れは分からない。隨て裁縫に限つては餘り注意して下さらないと云ふやうな風で、裁縫と云ふものは今より十年前位までは普通教育の一教科とは云ひながら丸で違つた取扱をされて居つたのです。校長さんも見て下さらない、指圖もして下さらない、而も教師が十分であるかと云ふと、今の皆樣方のやうに種々なる學科をお學びになつて裁縫の技術も能くお出來になつて居る方々とは違ひまして、資格なんと云ふことは近頃は非常にやかましくなり過ぎたやうでありますけれども、其の當時は資格なんと云ふものは問題に上らなかつた。

兎も角もさう云ふ情ない有樣でありましたが、明治十四年からは小學校の教科に裁縫が加はることになりました。それから規則も二十三年と三十三年に改正がありました。女子には矢張裁縫は大事である、我國從來の習慣が裁縫を主としてやらせたから矢張娘には裁縫が大事であると云ふことを當局者に於きまして日に益々お氣着きになるやうな有樣でございました。其所で規則を見ましても、それ迄と云ふものは高等小學校に於てこそ裁縫が必須課目でありましたけれども、尋常小學に於きましては隨意課目でありました。所が、其れが義務教育の延長と共に尋常小學校に於ても亦必須課目になりました。義務教育の延長になりましたのは明治四十年です。是で女子の一ッの學科になつたと云ふて宜しいので

す。明治四十年から今日まで幾年經ちませう。まだ六七年でありませう。一體裁縫教授は後れて居るとか、或は研究が積まないとか、是は婦人の手に任せて置くから斯う云ふことになる、婦人の手に任せて置かないで男子が進んで是を婦人の手から取上げなければならぬと云ふやうな御議論をなさる方もございましたけれども、それは前からの由來をお考へにならないので、明治四十年に初めてさう云ふことになりましたので大にお氣着きになつたが、物は氣着いた時に直ぐに立派になると云ふことは出來ない。兎も角もさう云ふ樣なことでありまして、尋常科の必須課目になりました。御承知の通り、尋常三年では一時間、尋常四年では二時間、五年六年では三時間と云ふやうなことになりました。それは極めて少ない時間でありますから、出來得るならば時間を増してお貰ひ申したいと私共は思ひます。尋常三年の裁縫と云ふものは、其れは無きには優るでありませうけれども、先刻申上げたやうな次第で、まだ手も不器用であるし、身體も小さい。大きなものを取扱はせることは出來ない。三年では何所の學校でも稍〻運針の練習をする位のものでございます。それでも無いよりは宜しいが、出來得るならば三年の一時間を取つて上の方に入れたいのです。尋常四年の時間を増す。三年をなくして了つて四年に増す。さうして五年六年には一層時間を増したい。裁縫をよく教へれば其の他の教授の時間が減る、裁縫だけ教へても他の教科の時間が減つては困る。それは御尤ですけれども、裁縫をよく教へて置けば他の學科の教授の減つたのを多少補ひが出來得るであらうと思ひます。良い婦人にしやうがために裁縫を澤山教へるならば、矢張良い婦人にしやうがために教へる所の他の學科の時間を一二時間割いても宜いと思ふのでございます。

高等小學校では今日では五時間づつになつて居ります。御承知の通り一年二年が五時間づつになつて居りますが、五時間でも宜しいのです。けれども高等小學へ進む人が多いならば、其の高等小學の五時間があるから宜しいやうに思はれますけれども、併し多數は高等小學までに進まないだらうと思ひます。東京あたりのやうに一體生活の程度も高く學問の必要を感ずる所は別であるかも知れませぬが全國から申しましたならば、尋常小學を卒業して高等小學或は他の高等女學校等に進まない者が遙かに多いと思ひます。義務教育丈けを終つて止める者

が非常に多い。さう云ふ譯でありますから、折角裁縫を國民教育の一教科となさると云ふ丈けの勇氣がおありになつて規則を改められたのでございますならば、うか此の序に時間も少し增して頂きたい。尋常小學校を卒業した丈けでは無論さう立派には出來ませぬけれども、切めて自分の着物を人に縫ふて貰ふことをしないと云ふまでにはならなければならぬと思ひます。裁縫と云ふものは練習に依るものでありますから、十分な技術家になるのでなければ一通りの道を學校で開けて貰ひますれば、初めは自分の着物で練習する丈けでありませうけれども、段々其の以上に、母の着物を縫ふたり父親の着物を縫ふやうになりまして、他日家を持つたときに差支ないやうになると思ひます。

第五章　歐米に於ける女子手工科教授沿革の概要

明治五年即ち我國で學制を發布された時分には外國には裁縫を教へるやうなものはなかつたと云ふことを只今申しましたが、近來は外國にも女子の手工科と云ふものを置きまして、さうして其の教授の研究をして居るやうであります。其の大略をお話し致しませう。歐羅巴と申しましても廣うございます。亞米利加と云つても御承知の通り州に依て違ひますから、一口に亞米利加は斯うだと申すことは出來ませぬ。歐羅巴の中でも、英吉利は英吉利の風があり、佛蘭西は佛蘭西の風があるさうでありますが我國によく似て居りまして中央政府から規則が出て其の規則に依て方々の學校がやつて行くと云ふやうなことが最もよく似て居るのは獨逸であります。獨逸では女子手工科と云ふものを課して居りますが、先づ其の發達の具合、なぜ手工科と云ふものがなかつたのを近來に至つて其れを置いたかと云ふことをザッと申上げて見たいと思ひます。』

御承知の通り日本と外國とは衣食住の凡ての事情が大變に違ひます。現在の所では裁縫などには餘り我國のやうに重きを置きませぬで、多くは仕立屋に賴むと云ふ樣な譯で、つまり分業が盛んになつたと言ふて宜しいでありませうが、其の原因は、一つは衣服の材料にも依りませう。もう一つは富の程度にも依りませう。外國の儘を我國に持て來ると云ふことは出來ない。一體日本の婦人は裁縫ばかりして居るから外の用事が出來なくつて困ると云ふことは何れの主人でも能く

叱言を云ふところであります。併しながら、裁縫を外に出して自分は何もしないで遊んで居るのは結構でありますけれども、一家の經濟などを考へますと、何うしてもさう云ふ風にして居ることは出來ない。又日本の衣服と云ふものは、西洋の衣服に較べて其の原料から違ひます。西洋でも平常は日本で言へば矢張木綿のやうな粗末なものを着て居る。決して紬とか羽二重と云ふやうなものを着て居るのではないけれども、あちらでは毛織物が廉い。我國では御承知の通り毛織物などを十分原料に供給すると云ふ譯には參りませぬ。我國の衣服の原料と云ふものは大方木綿とか或は絹とか云ふやうな物であります。木綿は全洗ひが出來ますが絹物などは全洗ひが出來ない。でありますから始終縫直しなどをする必要がある。西洋ではさう云ふ譯ではありませぬで、マア一度拵へて汚れゝば洗濯をする。且つ毛織物は割合に汚れない。全く汚れない譯ではないが、割合に汚れにくいのです。それは御承知ではありませうが、埃がつきましてもブラシではたけば取れて了ふ。さう云ふ風でございますから始終裁縫をする必要はない。一年に僅か三枚とか二枚とか縫ふには仕立屋に遣つた所が大したことはない。然るに我國の衣服は御承知の通り一年に二枚や三枚縫ふだけでは足りない。別に平均は取つたこともございませぬが、何うしても一年に五枚以上或は綺麗にして着やうと思へば十枚位は縫はなければなりませぬ。さう云ふ事情が違つて居るのでありますから、外國の裁縫と我國の裁縫と一概に比較することは出來ませぬ。分業が盛んで多くは他に出して縫はせると云ふ外國でも、矢張近來は小學校或は高等女學校等に裁縫の教科と云ふものを入れて教授致して居ります。

なぜさう云ふ風になつたかと申しますと、今申した通りで、裁縫と云ふものが我國ほど必要はないでありませうけれども、手工科の教育的價値と云ふものを近來非常に認められたのが一ッの理由であると思ひます。外國でも矢張古へは同じ樣に手工などと云ふものの教育的價値が能く分からなかつたのでございませうが、近來科學の進歩するに隨つて能くそれが分つて參りました。それが一ッの理由であります。先づ獨逸のお話を致して見ますと、獨逸でも矢張我國と同樣に衣服の變遷はいろ〳〵ありませう、隨て裁縫の必要と云ふやうな原因をなすのでありますが、極く早い時代は、即ち八世紀頃までと云ふものは極く簡單であつた。今

日は非常に複雜して來ましたけれども八世紀頃までは簡單であつたから、今日の樣に裁縫の專門家に賴まなければならぬと云ふ樣な必要も認めない。立派な晴着などは何うであつたか存じませぬが、普通の衣服は外に出す必要がなかつた。我國でも前にお話し致した樣に、裝束などは裝束屋に縫はせたのでありませうから、さう云ふことは同じでありませうけれども、一般に就て申しますれば矢張裁縫は家庭で敎へた。母とか姉と云ふ人が敎へた。其れから段々世の中が忙がしくなり分業が進んで參りまして、家庭でばかり裁縫すると云ふ譯に行かなくなつた。又裁縫術もむづかしくなつた。それでありますから最早中世紀頃には皆外に出して縫はせた。上衣などは今日のやうに外に出して縫はせると云ふやうなことが主であつた。それから十六世紀に至りまして、一種の技藝學校見たやうなものが出來た。編物學校と云ふものが出來た。女子の手工科と云ふものゝ內容が大體外國では編物が這入つて居るやうであります。我國では裁縫科と云ふものには別に編物は這入つて居りませぬが、外國では編物とか衣服の作り方とか裁ち方と云ふやうなことを稱して女子手工科と言つて居ります。獨逸の手工と云ふのは編物と裁縫であります。であります從ら編物學校と云ふ名を附けてある。其の學校はつまり一種の技藝學校であります。普通敎育の學校では職業學校とか美術學校とか云ふやうなものでありませうが、段々成績が好いので、是が段々方々へ擴がつた。所が、丁度十七世紀頃に戰爭がありました。御承知の樣に三十年戰爭などと云ふて、歐羅巴に長い間宗敎爭ひの戰爭がありました。それが爲めに折角さう云ふ學校が出來て其の効果を認められて段々盛んにならうとした所で一時其の効果がなくなつて了いました。殆んどさう云ふ種類の一種の技藝學校見たやうなものが十七世紀にはなかつた。其れから十八世紀になつて、歐羅巴が整つて參りました所で更に一種の工業學校とか宗敎學校とか云ふやうなものが出ました。それも無論前に申した通り、特殊の學校で、普通敎育の學校と云ふ譯ではありませぬ。さうして段々其の學校の卒業生なども出て、成程女子の手工の敎授は大變有力であると云ふことを認められた。敎育者の間には矢張古い習慣に捉はれて、ナニ詰まらないと云ふやうな人もありましたらうが、イヤ女子の敎育は決して等閑にすべきではない、矢張內に居つて家政を治めるとか子供を育てるとか

言ふ傍ら斯う云ふことをしなければならぬと云ふ意見があつて教育者の間にも大變認められた。遂に獨逸は十九世紀の終り頃(一八七二年)でありますが、普通教育の必須科目に入れました。女子の手工と云ふものを必須科目に致したと云ふのは獨逸が一番早い樣であります。

次には英吉利でございます。英吉利は今では裁縫が必須科目になつて居りませうと思ひますが其の當時(一八九二年)は隨意科目になつて居りました。今より二十年程前のことであります。隨意科目でありましたけれども、日本にお出でになりまして教育學の講義などをして居らつしやつたヒウシヂョウと云ふ先生がありましたが、あの方は今何所かの縣で視學か何かして居らつしやいまして大變骨を折つて居らつしやるさうですが、英吉利と云ふ國は凡て何事でも愈〻宜いと云ふ所を見て初めて決定をする。法律でも何でも然うださうでありますが、規則を先に作つて善いか悪いかも分からないで、惡るかつたら取消さうと云ふやうな風でなくして、其れを實行して見て宜いと云ふ所で初めて規則にする。手工と云ふものをやつて見て、其れが効力があると云ふことであれば必須科目にしようと云ふのでありまして、初めの内は隨意科目になつて居つた。亞米利加は前から申しました通り州に依つて異なつて居りますが、千八百八十三年頃には必須科目にして居る所もあり隨意科目にして居る所もある。併し女子の手工と云ふものでなくして、男子の手工と殆んど同樣なものを課して居る所もある。さう云ふことで歐羅巴諸國でも亞米利加でも、或は隨意科目にし或は必須科目にして近來は大に研究して居ると云ふこと丈けは確かであります。

第六章　裁縫教授の方針

小學校令施行規則を見ますと其の第十一條に裁縫の要旨を掲げてあります。「裁縫は通常衣類の縫ひ方及裁ち方を授け、兼て節約利用の習慣を養ふを以て要旨とす」とございます。次に程度を掲げてありまして「尋常小學校に於ては運針法より始め漸く通常衣類の縫ひ方、裁ち方、繕ひ方を授くべし」とございます。それから「高等小學校に於ては初は前項に準じ漸く其の程度を進め通常衣類の裁ち方縫ひ方繕ひ方を授くべし」と云ふ風に書いてございます。是に依て考へて見ますと、裁

縫は先づ通常衣類の裁ち方縫ひ方を授けると云ふことが主であらうと思ひます。即ち文字の通り裁縫教授の一番主なる所であらうと思ひますが、其れと節約利用の習慣を養つて、つまり婦人として最も大切なる良い性質を得させると云ふことでございます。通常衣類の裁ち方縫ひ方繕ひ方と云ふ風に並んで居りますが、繕ひ方と云ふのは御承知の通り僅の部分であります。尋常小學校でございましても、繕ひ方の時間と云ふものは何十時間と云ふ樣なも、高等小學校でございましても、繕ひ方の時間と云ふものは何十時間と云ふ樣な澤山の時間をかけることはない。大抵五時間か六時間位を授けることにしてあります。時間の上から言ひますと僅かでありますにも拘らず、初等教育のみならず、中等教育の方でも矢張規則の上では裁ち方縫ひ方繕ひ方、此の三つを並べて同じ大きさのものにして居ります。是は一寸見ました所はおかしい樣に思はれますけれども矢張縫ひ方の一部分であります。繕ひ方と云ふものは特殊な方法はない。糊で貼りつけると云ふこともないので矢張縫ひ方の一部分でありますから、縫ひ方の方に含ませて宜いと思ひますけれども、特に規則の上に現はれて居るのは、矢張之は節約利用の習慣を養ふと云ふことに關聯して最も大切なことに考へなければならぬものであらうと思ひます。でございますから、女子高等師範あたりの規則を見ましても矢張さう云ふ風にやつて居りますから、規則をさう云ふ風に解釋して繕ひ方と云ふものは縫ひ方の一部分である。繕ひ方とか或は躾掛け方と云ふものを同時に課しても宜いけれども矢張其の繕ひ方と云ふことに重きを置いて教授しなければならないと云ふ意味であると云ふことに取つて、さうして普通の學校の規則もさうでありませうが、女子高等師範あたりの規則でも矢張さう云ふ風に解して居る、繕ひ方の大切であると云ふことを現はしたものであらうと思ひます。又此の規則の上に「裁縫は其の材料を日常所用のものに取り之を授くる際に用具の使用方、材料の品類性質及衣類の保存方、洗濯方等を教示すべし」と書いてあります。即ち裁縫は通常衣類の裁ち方縫ひ方を授けることが肝要ではあるが、其ればかりではない。只今申した樣に材料の品類、性質、衣類の保存、洗濯と云ふやうなことも授けなければならないと云ふのでございます。でありますからつまり之は衣服の材料に關する知識を授けると云ふことであります。且つ其の實習を致させるのみならず、衣服に關する諸種の知識を與へるのでござい

ます。

例へば品類、性質等から申しますと、是は細かに言へば數限りもございますまいが、大體を申上げますれば、衣服の材料としては木綿、麻、毛織、絹と云ふやうな類があります、さう云ふものに就ての各〻の取扱方、洗濯の仕方、保存の仕方、並に夫等の各〻の性質、即ち木綿は木綿の心持を以て洗濯しなければならぬとか、毛織は毛織の洗濯の方法がある、絹は絹の洗濯の方法がある。各〻其の方法を異にする。又保存の仕方と申しましても、矢張其の通りで、保存の仕方は一樣ではない。矢張毛織は毛織の保存の方法がある。木綿は木綿、絹は絹と云ふ風に、其れ〴〵區別がある。尙材料の性質等を考へますと餘程是は面倒なことになりますが、今日は尋常小學校でも、六年になりますと兎に角理科と云ふものが這入つて居りますので、幾分か理科的知識を得て居りますから性質などを敎へるには餘程便利であると思ひます。毛織物は暖かいとか、何は冷めたいとか云ふやうなことは、單に毛織は暖かいから暖かいと云ふのでは其必要がないが、毛織物は何故に暖かいか、又絹物は何故に輕いか、又衞生上から見たときには何う云ふものが衣服として最も宜しいとか、又衣服の目的はいろ〴〵ありませうが、容儀を整へるとか、外見を飾ると云ふ樣なことから言つたときには何う云ふものが最も宜しいか、又平生働くときに着るものは何う云ふものが適當であるかと云ふやうなことをいろ〴〵考へて、夫れ〴〵の性質を調べ、夫れ等の知識を與へると云ふことが裁縫家に於て最も肝要である。一家の內に病人のあることもある、或は小さい子供も居る、老人も居る。老人の衣服は何う云ふものが最も適するか、子供の着物には何が宜いか、又病後の人には何うしたら宜いかと云ふことが分からなければ唯〻縫ふと云ふこと裁つと云ふこと丈けを知つて居つたからと云ふて將來家庭に這入つた時の生活上に大した價値はないことになると思ひます。縫ふと云ふことは大切でありまして、決して其れを等閑にせよと云ふのではありませぬが、單に衣服を縫ふと云ふばかりでありましたならば、是は場合によつては人に賴むと云ふことも出來ますが、併し古いものを色上げするとか、又或は大人物（おとなもの）を都合好く裁ち更へて子供のものに直すとか云ふやうに、いろ〴〵衣服に關することで人に托されないやうな、自分自身で考へなければならぬことが澤山ある。家の事情に依り、又生活の程度等も考へてしなけれ

ばならないことがある。さう云ふ細かいことは人に托する譯に行かない。夫れ等の點から考へますと、縫ふと云ふことも無論重要でありませうけれども、亦一家を經營するのに何うしても缺いてはならない所の知識が他に澤山必要であると思ふ。夫れ等の衣類に關する知識は何うしても學校では省く譯に行きませぬ。出來得る丈け將來の生活に便利であるやうに敎へてやるのが當然なことではあるまいかと思ふのでございます。唯、裁ち縫ひと云ふことばかりに餘りに忙がしくありまするために事柄を考へて居る遑がないと云ふやうな有樣ではないかと思ふ。でありますから、小學校の裁縫と云ふものは裁ち縫ひを主にするのみならず、一方に於ては衣服に對する常識を與へると云ふやうなことを考へなければならないと思ひます。

近頃小學校では家事科と云ふものが加はつて居ります。尋常小學ではありませぬが、高等小學では家事科が這入つて居りますから、或はさう云ふ衣服に關する知識などは家事科の領分ではないかと云ふやうにお疑ひになる方がございませうが、家事科と申しても一週一時間位であります。其の上家事科と云ふ學科は御承知の通り極めて內容の廣ひ學科でありまして、なか〳〵衣服のみのことを考へて居る譯には參りませぬ。一週一時間で、食物のことも敎へなければならないし、家の締りのことも敎へなければならない其の他救急法とか、看病の仕方とか、極く大略ながら夫れ等の概念を得させやうと云ふのでありますから、隨て衣服のことは別に裁縫と云ふ敎科が立派にあるから其の方にお讓りしなければならないと云ふやうなことにならうと思ひます。私は常に運針をよくさせなければならないと云ふことを主張致して居りますが、よく皆樣の中には、運針も必要であるけれども小學校は時間がないから中々十分に行きませぬと、斯う云ふ風に言はれる方があります。けれども、縫ふのが忙がしいからと云ふて何もかも皆敎へて了つて、どんなおかしく縫ひましても、運針の技がまだ出來ないでも、唯、形になつたものを何十枚も縫はせるのが普通敎育に於ける裁縫の方針であるかと云ふと、決して然うではないと思ふ。學校に於ける裁縫であります、仕立屋に於ける裁縫とは趣を異にしなければならない。自分は學校の裁縫を敎へて居るので仕立屋の師匠になつて居るのではないと云ふことを常に考へなければならないと思ふ。併

し此等のことは皆様方は既に御承知で立派に遊ばして居らつしやることでございますから或は私の申上げたのが失禮に當り蛇足に近くならうと思ひます。皆様の御授業を拜見したと云ふ譯でもありませず、又東京地方あたりはさう云ふことは極めて少ないだらうと思ひますが、先づ一般の弊はさう云ふ點にあると思ふのでございます。

第七章　裁縫の教育的價値

普通教育に就きまして授ける所の諸教科は、何れの教科でありましても必ず教育的の値打と實用的の値打とを有つて居なければならないと思ひます。前者は即ち修養に屬するもの、後者は實用に屬するものであります。併ながら從來の裁縫科は實用的の價値は無論認められて居ります。我國では昔から裁縫と云ふものは婦人が受持つて、又婦人に托さなければならないことになつて居りまして、裁縫の必要と云ふことは認められて居りますが、教育的價値に至りましては往々疑を有つて居る人がある様に思はれます。夫れが昨日も申しました様に、つまり普通教育に於ける裁縫科と云ふものが比較的重んぜられない原因であると思ひます。何うも教育的の價値は少ないものであると云ふ風に從來考へて居られるのであらうと思ひます。併しながら能く考へて見ますると決してさう云ふものでない。唯教授をする人は、中には教育學の理窟などもよく分からず、人を教へる即ち小學校の生徒を教へるには如何にすべきか、又女學校の生徒を教へるには如何にすべきかと云ふやうなことを心得ずに、唯裁縫なら裁縫或は唱歌なら唱歌と云ふやうに、其の學科が出來さへすれば宜い、心を陶冶すると云ふやうなことは少しも考へずに、唯手先さへ器用になれば宜いと云ふ風に考へて居りまして、縫はせることにのみ重きを置いて居りますから、隨て教育的價値と云ふものが分からない。又教師が立派でないと云ふ譯ではありませぬが兎に角學問上の知識が薄いから教師の話すことも生徒の方に詰まらなく感ずる。又裁縫と云ふことは、校長さん其の他の人が男の方々であるから生徒が一層我儘になる、訓練がしにくいと云ふ様なこともあると思ひます。さう云ふいろ〳〵の理由が集つて居るのでありませうが教育的價値が少ないと云ふことは啻に教師の不行屆であると云ふことばか

りではないが、兎も角もさう云ふ風に考へて居つたので、比較的小學校の裁縫科には重きを置かれないものであらうと思はれます。昨日も申しました樣に、決してさう云ふ譯でなくして裁縫科の教授の方法が旨く行きませぬ。婦人としての性質婦人としての德を養ふ上に於きまして其の効力は實に大きなものであります。殊に近頃ドクトルライと云ふ方が筋肉運動主義と云ふことを盛んに主張致して居ります。皆樣方も他の教育學の書物で御覽になつたことゝ思ひますが、筋肉を運動すると云ふことは最も大切である。從來の教育は心の教育ばかりに傾いて、手や何かの教育は等閑にして居つたがそれは間違である。いろ〳〵科學の進歩した結果、筋肉を運動すると云ふこと、殊に筋肉を運動すると言つても相撲を取るとか體操をするとか云ふやうな粗大のことでなくして、裁縫とか手工とか微妙な運動は殊に心の開發に効力があると云ふことを實驗上確めて、さうして筋肉を運動させると云ふことが大切であると云ふことを盛んに主張して居ります。夫れは細かい理窟がいろ〳〵ありまして唯、私が簡單にお話した丈けでは足りませぬので、尙他の書物を御覽下されば能く分かることゝ思ひますが、其の目的を達するためには裁縫や手工の樣なものが最も適當であると云ふ所から近頃は特に其の値打を高めて居ります。我國は必要上裁縫と云ふことが極く古い時分から教科の中に這入つて居ります。外國では以前はなかつたけれども近來手先の運動は極く大切であるとされて居る。能力の開發と言つて、想像とか判斷とか云ふ能力を開發することを力めて行くと云ふことを從來言つて居るが、同時に筋肉の發達をも矢張圖らなければならぬと云ふことになつて居ります。それで特に近頃裁縫と云ふやうな教科は非常に教育的價値の多いものであると云ふことになつたのであります。

唯、教育的の價値が多い〳〵と申しましても、餘り漠と致して居りますが、其れならば試みに何う云ふ價値があるかと云ふことを玆に數へて見ませう。先づ衣服の形を想像するとか、どう云ふ風に裁てば宜いとか云ふことを考へなければならない。隨て想像力判斷力と云ふやうな諸能力を養ふことが出來ます。次に裁縫と云ふ教科は善良なる模範を與へて其れを觀察させる。理窟も教へ、又善良なる模範に模倣して裁縫をすると云ふことになりますから、夫れ等のために觀察力を

養つて物事を綿密に觀察すると云ふ力を養ふことが出來ます。物を觀るにもザッと觀て居らない、極く注意して觀る。其れが大變に知識を增す。道路を歩きましても、ボンヤリ歩いたのでは車に衝當つたり電信柱に衝當つたりする。其れまでボンヤリして居りませぬでも、中位ボンヤリして居つても、何所の町に何う云ふ店があると云ふやうなことに氣が付かずに行つて了ひます。注意して歩けば何所の町に何う云ふ店があるとか、今通つた人の着物は新規な仕立であるとか、或はまづい仕立であるとか云ふやうなことが分かつて、いろ〳〵知識を得ることがどれだけあるか知れない。觀察力を養ふと云ふことは敎育上最大切なることであります。さう云ふやうなことは他の敎科でも常に申しませうが、唯〻裁縫は夫れ等のことを實際に現はす。觀察の不十分な人は不十分なやうな結果を現はす。又綿密な人は綿密な結果を現はす。でありますから具體的に能く觀察力思考力を增すことが出來ると思ひます。其れから忍耐の氣性を養ふとか、緻密の思想を養ふと云ふやうなことも亦其の一つであると思ひます。忍耐力を養ふには衣服の縫ひ方などは効力があると思ひます。衣服を縫ふと云ふことはなか〳〵面倒なものであります。僅か一分とか一分五厘と云ふ針數が何萬重なりまして初めて一枚の衣服を成すのでありませう。さう云ふ樣に澤山の同一の仕事を重ねて且毎日餘り變つたこともなく大抵同じ樣な衣服を縫ふて居る。其の間になか〳〵辛抱强いと云ふ性質を養はれる。意志が强くなる抔と云ふこともさう云ふ所から來るのであります。

其れから情の方から言ひましても、即ち心理的の感情を養ふことが出來ると云ふことも一つであります。どうしてさう云ふことになるかと申しますと、私共が常に取扱ふ所の衣服の材料と云ふものは皆多くは美術的思想を以て造られたものである。又日々縫ひます所の衣服其のものは無論美術的思想を以て縫はなければならないのであります。美術と申しましても無論繪畫彫刻抔云ふやうな純粹の美術ではないのでありまして、凡て衣服でも或は建築でも一種の工業的のものであります。衣服を裁縫するにしても又家を建てるにしても矢張工業的でありませうけれども、其の間には必らず美的と云ふことが含まれて居る。唯〻手が通りさへすれば宜いと云ふ丈けなら譯はありませぬが、出來得る丈け美しく拵へや

うと云ふのでありますから、衣服を裁縫するには美的思想を以てしなければならぬと云ふことは前に申しました通りで、日々取扱つて居る衣服の材料と云ふものは色取りでも、模様でも或は縞でも、皆それ〳〵専門の型付屋とか或は染物屋とか云ふやうな人々は唯〻無意味に拵へるのではない。型でも縞でも成る丈け美的に人々の好むやうに拵へると云ふことを考へて居ります。若し然うでなければ彼等は決して利益がないのである。成る丈け澤山賣つて生計を立てやうと云ふ人達でありますから、縦へば教育上の考のない人でも、自分の商賣の必要上から成るたけ美的のものを拵へやうと云ふことを考へて居るのであります。であります から裁縫の材料として供給されるものは皆美的思想を以て拵へられたものであります。さう云ふものでありますから隨て心理的の感情を養成すると云ふことは不知不識の間に生じて來る。又時には教師が色の配合とか或は型の説明抔をして上手に色を配合するものもありませう。斯かる場合には巧みなるものは巧みなるやうに賞讃し、おかしいものはおかしいと申して、さうして成る程斯う云ふものはおかしいが斯う云ふものは綺麗であると云ふやうな觀念を與へることが必要であると思ひます。

それから是は私が申しませぬでも無論お分かりでございませうが、裁縫と云ふものは澤山の道具を要するものであります。凡そ小學校に於ける各教科目の中で裁縫ほど種々の道具を要するものはないでございませう。然かも亦中には危ないものもある。例へば鋏のやうなもの、針のやうなものを澤山に使はなければならない。隨て其等の多くの道具を狹い學校の机の上に置きましてしかも其上に稍や大きな材料を擴げて裁縫すると云ふのでありますから、其の間によく物を整頓しなければ非常に混雜を生ずることになる。隨て整頓の習慣を作る必要があります。或は運針用布なども度々使ふと汚れますから洗濯をするとか、鋏や針は錆びてはいけないから其等の始末をする。隨て秩序清潔整頓と云ふやうな良い習慣も裁縫科に於て與へられるものであります。唯〻雜記帳一冊とか鉛筆一本とか云ふやうな場合には餘り整頓の必要はない。道具が澤山あればこそ整頓の必要があるのです。そこで小學校では整頓の方法を教へる。修身などでは無論物はよく整頓しなければならぬと云ふことを諄く言ひませうけれども其の實行

と云ふことに至つては何うしても裁縫家に依て擧がるのであります。修身と云ふものは常に實行を重んずるので、單に德目を記憶して居つたからと云うて其れで修身の道を十分に心得たとは言へませぬ。裁縫はさう云ふことの實行を促かす。自分の心得を實際行ふことを少しも齟齬しないやうにさせると云ふことが裁縫科の特別の價値であると思ひます。

それから衣服の裁縫に依て勤勞の價値と云ふことも能く了解させることが出來ます。隨分面倒な細かい仕事でありますのに、よく忍耐して一日二日三日と致しますれば單衣が一枚出來るとか、襦袢が出來るとか、或は綿入が出來ると云ふことになりまして、成るほど勤め働くと云ふことはどれ丈けのものであるか、生產力はどれだけになるかと云ふやうなことも、其の出來上つたものに依りまして直に具體的に了解させることが出來ます。一日や二日無駄に遊ばうと思へば譯もなく遊べる。一日や二日ではない。一年中でも遊んで居られる。一年中遊んだ所の結果と一年中働いた結果とを比較致しましたならば大變な相違がありませう。其れは裁縫ばかりではない。其の他の知識を得ることでも然うでありますけれども、知識の方になりますと、頭腦の中に這入つて居るからよく分からない。頭でも開いて見ることが出來ますならば、成程此の人は十の知識を有つて居るとか此の人は五の知識を有つて居るとか云ふことも分かりますけれどもまだそれまで實驗心理學は進まないのであります。

それから節約利用の習慣を得させると云ふことは、是は規則の上にもあります位で、先づ裁縫科に於ける目的の一つになつて居ります。無論それは出來ます。例へば短い絲屑でも、小さい布帛でも、或は麻屑の少しばかりでも、それ〴〵適當な所に用ひれば其れ丈けの用に立つものである。唯、人間と云ふものは大きなことばかり第一に思ひます。それは大きいことも無論大切であるけれども、併し大きいことばかりが大切でなくして、小さいことも亦共に大切であるのです。小さいことを捌くのには小さいことに依て捌かなければならない。大きいことを捌くには大きいことに依て捌かなければならない。そんなに大きいことでないのに小さいことで以て捌くと云ふと却つて間違を來たす。凡ての事柄が矢張然うであると思ひます。其の外に無論手や耳の練習が出來ます。是も教育上の價値で

ありますが、手も耳もよく練習すると云ふことは極めて大切であります。衣服の裁ち方縫ひ方抔を實際に學んで生活上必要なる知識技能を得させると云ふことも無論一つの値打であります。また其の外にもいろ〳〵ありますけれども、先づ大體に於ては其等の事柄が教育上の價値であると思ひます。

又教師としては裁縫科に依つて各自の個性を知ることが極めて都合が宜しい。是は教師丈けの話ですが、兒童の個性を知ると云ふことが教育上大變必要であるのです。人に依つてそれ〳〵の性質を異に致します。例へば尋常五年級或は四年級と言ひましても、四年級は皆同じ性質を有つて居る五年級は同じ力を有つて居る譯ではない。五年級のものでも力のないものは四年級のものにおとるものがある矢張人間に身長の高い人と低い人とあるやうに心にも皆それ〳〵違ひがある。でありますから、心の鈍い人、敏い人、或は子供でありましたならば格別なことはありますまいけれども、中にはひねくれた人もあるし、又柔順な人もある。各〻天稟を有つて生まれて居るものでありますから、先づ教師は兒童の個性を知らなければなりませぬ。何の學科の教師でも同樣でありますが、兒童の個性を知つて各〻其れに適當なる樣に教育して行く。學問を教へるときは皆一樣に教へて行くでありませうけれども、訓育と云ふ側になりますと個性に依て訓育して行かなければなりませぬ。さう云ふ事柄に付ても裁縫科と云ふものが一番効果を擧げるのであります。個性を知つて教育しやうと云ふには個性の最もよく分かる教科が有力である。所で裁縫の教師は個性と云ふものが最も分かり易いから裁縫の教師が其の個性に應じて適當に教育することが大切ではないかと思ふ。一體專科の教師と云ふやうなことは甚だ面白くないと思ひます。專科の教師は訓育と云ふことに餘り關係がないかの如くに小學校の子供は思つては居ないか。校長さんや何かは決してさう云ふことを思ひはしますまいけれども、子供の方では專科の教師は本科の教師より程度が低いと云ふやうな誤解を有つて居る。隨て訓育と云ふことに就ては、子供は所謂學科の先生の言ふことは聞くが裁縫の先生の言ふことを聞かないと云ふやうなことがあつて面白くないと思ひます。學科の先生は多くの學科を受持つて兒童に能く接して居るから個性がよく分かるでありませうが、然うでなくして中等以上の教育になりますと大抵專門々々に受

持つて居ります。さう云ふ風になりましては決して學科の先生の方が能く個性が分かり裁縫の先生には分からないと云ふことはない。裁縫の先生と云ふものは、兒童に接觸する時間が一週に五時間とか六時間とか即ち他の學科の時間と同樣であるならば、それは裁縫の先生の方が遙によく個性は分かります。個性が分かる程訓育は出來易い。訓育が出來易いと云ふのは個性をよく知つてそれに適當なるやうに訓育して行くからであります。教師に取りましてはさう云ふことが都合がよいと思ひます。個性をよく現はすものでありますから、それに應じて教育をして行くと云ふことは特に裁縫の先生方に御願ひする。それが肝腎なことであると思ひます。

第八章　裁縫教授の目的

教授の目的は前の教授の方針及教育的價値と云ふ所で申しましたから既に明かになつて居ることゝ思ひますけれども、先づ第一に、教授の目的としては通常衣服の裁ち方縫ひ方を授けて生活上必要なる技能を與へると云ふことであります。

次にそれに副從の目的としては、衣服に關する衛生經濟の思想を與へると云ふことであります。前に申しました衣服の材料の取扱方と云ふやうなことに依つて衣服の經濟と云ふべき種々の知識を與へる。それが副從の目的です。又一ッは美の感情を與へると云ふことであります。それから節約利用の習慣を得させると云ふことが一ッであります。尙女子の特性として何うしても有つて居なければならない所の、清潔とか、整頓とか、秩序とか、或は勤勉とか云ふことをも矢張副從の目的として教授する。つまり只今申した樣なことを教授の目的として授けることが十分に屆いて居りますれば裁縫教授が非難なく出來るのであらうと思ひますが、主要の目的丈けを多く考へて副從の目的を考へないで教授して居ります と、前に申した將來の生活に不便な人間を造くると云ふことになります。學校に居る時分には教師の指導を受けますけれども、獨立して一家を持つと云ふことになりますと、單に縫ふ裁つと云ふこと丈けで其の他のことは少しも分からないと云ふやうなことになりましては生活上非常な不便を感ずる。一家の事と申しますと先づ衣食住が主でありますけれども、其の中で食住の二つはまだ男の人に知

識が割合にあるかも知れぬ。食物のこと或は住居のことなどに就ては隨分男の方が知識がある。殊に住居のこと抔に就ては婦人より男子の方が知識が多いが、衣服に關しては割合に知識が少ない。少ないどころではない。殆んど無いと云つても宜しいのです。それは昔からの習慣でありませう。多くは婦人に任せてある。一家の内には男女一緒に必ず居るものでありまして、男一人で一家を成すと云ふことも滅多にありませぬし、女一人で一家を成すことも亦ありませぬ。其れは時には變則な人もありますけれども、多くは男女一緒に居つて、男は外の仕事をし女は家内のことをすると云ふことが天地間の通則であると思ひます。でありますから、衣服のやうなことは女任せである。男は夫等の知識を少しも有たなくつても其れは婦人に賴んで安心して居られる。隨て男の方は衣服に關する知識は皆無と言つても宜しい位でありますす。でありますから、殊に女は之に關する知識を餘計有つて居りませぬければ、一家を成す場合に就て非常に不便なことになるのであります。

第九章　裁縫教授の材料

前に申しました様に、裁縫教授の目的を達しますには之に要する材料がなければなりませぬ。材料は先づ兒女の心身の發育の度を考へ、又其の土地の風俗とか或は民度とか云ふやうなことをも斟酌致して之を擇ばなければならないかと思ひます。兒女の心身發育の度を考へると云ふことは何れの教科でも肝要なことでありますするし、又材料と云ふものは實際生活を離れてはならない。頭腦さへ拵へれば實際生活の狀態を顧みないで宜しいと云ふやうな教科でないから、何うしても實際生活と合はなければなりませぬ。其故に風俗民度を斟酌すると云ふことを大に考へなければならないと思ひます。

其れならば何う云ふ風に之を擇んだら宜からうかと申しますと、先づ規則の上で大體の程度は極まつて居ります。衣服の裁ち方、縫ひ方、繕ひ方、の教授に於て申しましたやうな、通常衣服と云ふことの解釋の仕方であらうと思ひます。民度が高いとか低いとか、風俗が違ふとか言ひましても、それは一少部分のことであつて、

全體と云ふ譯ではない。何れも日本國民でありますから、朝鮮でありませうと、樺太でありませうと、大體に於ては大した變りはないが細かい點に至りましては、朝鮮は朝鮮の風がある、又樺太は樺太の風があると思ひます。其の樣に大きく言ひませぬでも、例へば市内と郡部とでも違ひませう。皆樣の中には隨分郡部のお方も居らつしやいませうが、市内の心持を以つて郡部にお臨みになると云ふことは或は無理ではないかと思ひます。通常衣服の裁ち方縫ひ方と云ふのでありますけれども、通常の衣服と言つても種類が澤山あります。又昨日もお話を致しましたやうに、種類が殖えて行きます。どう云ふ所までを通常衣服と言つて宜しいか、其の解釋に困るのでありますが中等教育の方になりますと師範學校或は高等女學校等に於ては教授要目と云ふものがありまして大體は其れに遵據して行けば宜いのでございますから分かつて居ります。規則に於ては通常衣服の裁ち方縫ひ方と書いてありますけれども、教授要目が各〻添へてありますから、其れに依つて斯う云ふものを授けて、又土地の事情に依て酌酌すれば宜いと云ふことが分かりますけれども、小學校ではまださう云ふものがありませぬ。唯〻通常の衣服のことを示されてある。所が小學校は裁縫の極く初めを教へる所でありますし、さうして子供は小さくつて不器用であるから最も困難が多いのでございます。其所へ中等教育と同じやうな規則を示されてある丈けでは其の解釋に私共は甚だ困るのです。皆樣方も御同樣に此の通常衣服と云ふことの解釋にはお困まりでありませう。

そこで私の說でありますけれども、小學校の裁縫科と云ふものは前にも申しましたやうに、單に衣服の裁ち縫ひばかりでなく衣服に關する知識を與へる、或は裁縫に依て養はれる限りの德性を養ふと云ふことでございますけれども、それは即ち小學校に於ける裁縫科と云ふものを餘程廣義に解釋したのであります。唯〻從來の裁ち縫ひと云ふばかりでなくして廣い意味に解釋して、女子の將來の生活と云ふことを考へて行きたいと云ふのでありますが、通常衣服と云ふことになりますと、是は又極めて狹義に解釋したいと思ふのでございます。通常の衣服と申しますと吾々の始終着て居るものは皆通常衣服であります。冬の合羽も矢張通常の衣服であるし、又は被布も隨分用ひます。或は又階級に依つては、股引を穿くと

か、半纏を着るとか、腹掛をする。是も或る階級の衣服である。さう云ふ風に、通常衣服と申しましても人々の階級に依り、爲す所の仕事に依り、又自分等に依りましてそれ〳〵異なるのであります。其れでありますから通常衣服と云ふことの解釋に尙困るのです。私が考へますのに、其等のものを悉く引出して、之も通常衣服である、あれも通常衣服であると申しました所が小學校の裁縫と云ふものは出來やうがない。小學校の不器用な子供に對して僅な時間を以て教へ樣がないのでありますから、そこで何う云ふ階級の人でも必ず用ひなくてはならないものを撰んで僅かの數に止めて置きたいのです。雨が降つた時には着るけれども お天氣になれば不用であると云ふやうな合羽などは取除けにして了ふ。それから勞働者、抔は股引、半纏と云ふ樣なものを着ますけれども、普通の家庭に於きましてはさう云ふものゝ必要はない。勞働者と雖もいつも股引とか半纏ばかり着て居るのではない。それは仕事をするときに着るので、仕事をしない時には矢張長い着物を着て居る。そこで何う云ふ階級の人でも必らず用ひると云ふ種類のものを小學校に於ける通常衣服と解釋する。此の解釋の仕方が或は間違つて居るかも知れませぬが、私はさう云ふ風に解釋致して居ります。さう云ふ風に極めて範圍を狹く考へて先づ大體の材料を撰擇したいと思ふのでございます。

そこでどんな材料になるかと申しますと、先づ運針並に裁縫の基本となる種々の技術、是は無論缺く譯には行きませぬ。運針を練習すると云ふこと、衣服を縫ふ基本となる技術、夫等を初めとして、襦袢とか或は大小男女の單衣、袷、綿入、帶、羽織、―羽織抔は是は民度に依りませうが、兎に角帶ぐらゐ迄は何うしても小學校の裁縫として必要であると思ふのであります。其れ丈けのことに十分習熟すれば宜しいのでございますが、矢張尋常小學校に於きましては其れ丈けを十分に習熟せしむると云ふ迄に行かないと思ひます。高等小學を終はつて初めて之に習熟すると云ふことが出來ませう。唯、方法を知つたと云ふことと、方法を知ると云ふことは無論意味が違ひます。方法を知ると云ふこと丈けは無論尋常小學校でも出來ますが、之に習熟すると云ふことは高等小學を終らなければ出來ない。尙其の上に、羽織とか、或は女の袴とか云ふものもありませうが、羽織抔は、其の土地が百姓家ばかりであつて半纏は着るが羽織は餘り着ないと云ふやうな所では却つて半

繩の方を教へるが宜からうかと思ひます。羽織一枚あれば十年も着られると云ふやうな所では、何も小學校で教へて子供の精力を無駄に費やさせる必要はない。尋常小學を卒へたのでは前に申上げた教材丈けでもなか〳〵習熟する譯に行きませぬのでありますから、時間がありましたならば前に申した教材を反覆して習熟さした方が宜い。でありますから、羽織丈けは必ずしも教へても教へないでも宜いと思ひます。それから女の袴なども之も教へても教へないでも宜いと思ひます。近來は小學校の子供が袴を穿きます。それは學校服としてのみならず、隨分、流行と言ひますか或は習慣と言ひますか一つの風俗になつて居りますが、袴を着けると云ふことは決して惡くはない。市内の小學校は皆袴を着けますが其れは決して惡くはない。衛生上から言ひましても、容儀の上から言ひましても、袴を穿くと云ふことは無論贊成であります。小學校で袴を必らず穿かせる所では自分で洗濯をすることが出來なくては困りますから、新たに拵へるのは人に拵へて貰つても洗濯丈けは自分で出來なくちやならない。でありますから矢張袴を穿かせる學校では子供に袴の洗濯を教へることが必要であると思ひます。そんなにむづかしいことでもありませぬから、教へると言つてもさう困難ではない。

併ながら郡部抔に這入りますと餘り袴抔は用ひない所もある。まあ東京府近抔は郡部と言ひましても皆用ひませうが、極く小さい單級小學校と云ふやうな所では袴抔を着けないかも知れませぬ。さう云ふ所では女の袴抔は不用であると思ひます。父親は股引を穿いて田へ出て、せつせと働いて、泥塗れになつて歸つて來る。娘は袴を穿いて悠々と歸つて來ると云ふやうなことは不釣合であると思ふ。矢張さう云ふ所では、娘も大きな前掛けでもかけて學校へ行くと云ふ方が釣合つて居る。或は兄が袴を穿かないで出て行くのに妹は袴を着けて行く。さう云ふことは一體面白くない。そんな風に女の子を育てるから段々虚榮心抔が出て畑に出るのは嫌ひだと云ふやうな考も出るのであらうと思ひます。つまり教育と云ふことは、是れは全體からの話でありますけれども、さう云ふ樣な不調和なことを決してすべきものではない。全體の周圍の事情を見て、さうして何う云ふ風に教育すれば宜いと云ふことを考へて行きたいものであると思ふのであります。其れ故に女の袴なども土地に依りましては必しも必要なものとは認め

ませぬ。前掛の白いのを締めて居れば差支ないと思ひます。狹くつていけないならば襞襞でも取つてかけて置く。それを仕事服と考へるのですから少しもおかしくはないのであります。さう云ふ風に考へて見ますと、小學校で授ける所の教材は僅か十種か十五種位になります。それを出來得るならば二回も反覆するやうに致しますと、却つて確實な知識及技能を得られるだらうと思ひます。それと合せて今申しました服地の種類とか、性質とか、或は洗濯のことゝか云ふ事項をよく調和して教へると云ふ風に致したいと存じます。單に裁縫の知識技術を與へるばかりでなく、又兼て心的陶冶を爲すと云ふことも力めて行かなければなりませぬ。

小學校の裁縫は効力が薄いと言はれるのは、學校で習つたことを卒業後自分獨りで發表すること即ち實現が出來ないからであらうと思ひます。學校では先生に教はつて何うか斯うか纏めて來たけれども、家庭に歸つてから自分獨りですることが出來ない。どうも是では仕樣がないと言つて父兄も不十分に考へるのであらうと思ひます。つまり裁縫のやうな科目は其の發表によつて初めて價値を生ずるのであります。何を習つたかにを習つたと言つて、多くの種類を知つて居ると云ふことを誇つた所が其れは何にもならない。知つて居るだけを十分に發表が出來て初めて裁縫が出來たと言ふことが出來るのです。唯、數を澤山知つたと云ふことは決して誇りにもならなければ其の人の本當の所有になつて居るとは言へない。即ち發表に依つて初めて價値を生ずるものであります。どの教科でも皆然うであります。よく履歷書などを拜見しますと、數々習つて居る。何所へ行つて何を習つたと云ふことが澤山書いてあります。併ながら其の人に接して見ると格別な知識も技能もない。習つた自慢だけ言つてある。さう云ふことが往々あります。今回の講習は皆樣に格別な御利益はないに違ひありますまいけれども、どちらの講習をお受けになりましても、成るべく其の講習で受けたものを自分の所有にすることが肝要であります。澤山の講習を受けなくつても宜しいから、講習を受けたものの丈けは自分のものになさると云ふことを望むのでございます。

第十章　教材の排列

教材の排列の方法は、御承知の通りに、直線法とか循環法とか或は折衷法とか云ふことになつて居りますが、裁縫の方で直線法と云ふたならば何う云ふことであるかと言ひますと、例へば單衣なら單衣と云ふものをズッと通して行くのです。即ち第一に一ッ身の單衣を縫ひましたならば、第二には三ッ身の單衣、第三に四ッ身の單衣、第四に本裁の女物の單衣、第五に同じく男物の單衣、と云ふ順序にして、尙進んで絹の單衣、或は襲ねの單衣と云ふやうに、何所までも眞直に行くのが直線法であります。裕も綿入も皆同じことであります。それから循環法と云ひますのは、第一に一ッ身の單衣、次に一ッ身の裕、次に一ッ身の綿入を縫ふ。それから次には三ッ身の單衣、次に三ッ身の裕、三ッ身の綿入を縫ふ。又次には四ッ身の單衣、四ッ身の裕、四ッ身の綿入を縫ふ。つまり單衣、裕、綿入と順序を繰返へすのです。さうして終には襲ねを縫ふとか比翼を縫ふと云ふやうにするのです。全く循環的に行くのでございます。それから折衷法と云ひますと、或る部分までは直線法でいつたが、次には更に循環法に依つて行く。又最初に一ッ身の單衣から四ッ身の單衣までは直線法で行つて、次に本裁の單衣を縫ふと云ふことをしないで、更に又一ッ身の裕とか三ッ身の裕と云ふ樣なものに戻つて來る。綿入も同じことであります。斯樣にして行くのが折衷法と云ふのです。

それでは何う云ふ風に排列するかと申しますと、矢張私は折衷法に依つて排列して行つた方が宜からうと思ひます。直線法でもいけない、或は循環法でもいけませぬから、矢張折衷法に依つて排列した方が宜しい。今日皆樣方に差上げてありまする教授細目と云ふのは、是は例でございますから必ず此の通りと云ふことは言へませぬが、つまり折衷法に依つて排列したつもりでございます。尙此の細目の各〻の教材の取扱方に付きましては市橋先生からお話しがある筈になつて居りますから、私は唯〻教材の排列の仕方を申上げましたのでございます。

第十一章　裁縫科の教授細目

一體教則に據りまして學科の程度とか或は教授時間とか云ふものは定まつて

居りますけれども、併しそれはざつと定めてあるものですからなか〳〵教則丈けに依つて實際教授をして行く譯に參りませぬ。そこで教授細目と云ふものが必ず入用になるのです。教授細目の編成と云ふことは今日の規則では學校長に任せてある。學校長が學校の種類とか或は土地の事情とか云ふやうなことを考へて細目を作ると云ふことになつて居りますけれども、矢張其の實は各受持の教員が作るのでありませうと思ひます。其故に裁縫科でありますれば無論皆樣方がお作りになる。殊に他の教科例へば國語の細目でも、理科の細目でも、細目を作れば無論校長の手許に出して、校長が御審査下さるのでありますけれども、裁縫に於きましては、校長の御手許に出すことは他の教科と同じやうに出しますけれども、併し校長さんにはよく分からない。そこで大體に於きまして先づ宜しいと云ふことになつて了ひませうと思ひます。然う致しますれば皆樣は責任が重くはないかと思ひます。上に人があつて之を直して下さり批評して下さるならば稍や安心して居ることが出來ますけれども、大體御意見に任せますと言はれますれば一層責任は重くなつて來る。自分が一つ誤れば澤山の生徒を誤まることになります。教授細目の立て方の好い惡いと云ふことに依つて教授の結果が餘程違ひます。細目が惡るければ其の結果が惡るい。結果が惡るいと云ふことは一人の損でなくして多數の兒童の損になることでございますから、餘程愼重に考へて、校長さんとも出來得る丈け相談をしてお貰ひ申し、又批評も聞き或は他の學科を受持つておゐでになる女の先生がありましたならば裁縫の關係はないにしても其の先生方に御相談なさるが適當であると思ひます。一人で考へるより二人で考へた方が宜いことが幾らもあるのです。又學校の仕事であるから、他の關係ない科目の先生方でも、是は女の仕事であるから吾々も眞面目に親身になつて考へなければならぬと云ふやうなお考を以て、矢張御相談相手になつてお貰ひ申したいと思ふのです。さうして學校で細目と云ふものを拵へるのであります。

今差上げてある細目は學期に配當してありますけれども、是は或は週に配當する學校もあるかも知れないと思ひます。それも決して惡くはありませぬ。唯週に配當すると云ふことにつきましては私は多少意見を有つて居りまして、寧ろ學期に配當した方が好いと思ふのです。さう思ひますけれども他の教科に於て皆

週に配當してありますならば、其の學校の方針と云ふものもあるのですから、矢張其の方針に隨つた方がよいと思ひます。他の教科は全部週に配當して居るが裁縫丈けは別物であるから學期に適當しなければならぬと云ふやうなことは成丈け言ひたくないのです。他の教科と同樣に取扱ふと云ふことは決して出來ないものではないのですから、さうして欲しいと云ふお望みならば其れで宜しい。どちらでもあなたの便利の好いやうになさいと言ふならば、それは都合の好いやうに致したい。實際の教授になりますと、大體に於て教材の撰擇をいたして、さうして只今申したやうな順に進むやうに排列しなければなりませぬ。さうして尙其の上に時間を考へて、例へば第一學期なら第一學期にどれ丈けの仕事をする。其の一ッの仕事には何時間を當てると云うやうなことを細目の方と合せて考へなければなりませぬ。

第十二章　細目調製上の注意

細目を作る際にいろ〳〵注意すべき事項でございます。それは第一に教則の示す所に遵ふと云ふことが肝要でございます。何か土地の事情とか學校の都合があるときに教則外のことをさせやうと思へば特別に許可を受けなければなりませぬ。唯〻此の方が勝手がよいから斯うしやうと云ふことは出來ませぬから、先づ大體に於ては教則の示す所に遵ふ。例へば裁ち方などは、今の規則では尋常六年で初めて教へることになつて居ります。所が、其れでは尋常六年に行つて初めて衣服の形を成したものを教へるのでは、其の前には唯〻基本的の技術丈けを教へるかと言ひますと、さうでない。尋常四年の終りから襦袢のやうなものを教へ、五年の終に單衣のやうなものを教へて行くと云ふやうになつて、六年に行つて初めて裁ち方を教へると云ふことになつて居りますが、それでは四年の襦袢或は五年の單衣と云ふものは、まだ其の裁ち方を教へないのであるから甚だ困るのです。裁ち方を教へないで家庭に有合したものを持つて來いと言つても、必ずどこの家庭でも三ッ身を着るやうな子供、四ッ身を着るやうな子供がある譯ではない。さうすると新規なものを持つて來ても裁ち方は學校で教へないと云ふことになる。皆樣方はどう云ふ風に實際に於て教授して居らつし

やいますか。裁ち方は教へないのであるから多分皆様方は裁つておやりになるだらうと思ひます。それより方法はないのです。古いものを持つて來た場合にはそれで宜しいけれども、新規なものを持つて來た場合には教師が裁つてやらなければならない。それは教師の方から言ひますと隨分困るのです。三人や五人のものを裁つてやる譯ではない。いづれ一學級に一人の教師があつて、其れが三百人も四百人もありますならば隨分澤山の數を裁つてやらなければ、ならないので、なか〳〵御迷惑になります。併し五年までは裁ち方を教へないと云ふ規則であるから、之れを教へて子供に裁たせると云ふことが出來ない。なぜさう云ふ規則になつて居るかと言ひますと、いづれそれには考があるのでございませう。若し裁ち損ひをすると大變困るものでありますから、まだ五年あたりには寧ろ裁ち方などを教へないで、惡るければ縫ひ直すことの出來ると云ふもので手の練習と云ふことを主として教へたら宜からうと云ふのであらうと思ひます。裁ち方を教へないと云ふことが無理とは言へない。そこで大勢の子供が教師に裁つて貰はなければなりませぬから、教師の方から言つたならば隨分迷惑な話であるが、どうも仕方がありませぬ。子供の利益ですから――子供の利益と教師の利益と較べたときには、教師の利益を犧牲にして子供の利益を圖らなければならない。それが爲めに或は寢ずに裁つてやるやうなことが生ずるかも知れませぬが、それは仕方がないと思ひます。』

第二には子供の理解に適し且つ能ふべき程度の教材でなければなりませぬ。子供の力で出來る程度の教材でなければならない。凡て子供が物を覺えるためには、其の事に興味を有つて覺えやうと云ふ熱心を起すから覺えるのでありますけれども、理解に適しないものは興味を有たないから熱心の起り樣がない。むづかしくつてならないと云ふやうなものに向つて興味の起る筈がない。でありますから、子供の分かる丈けの程度のものでなければいけませぬ。且つ子供が爲し得べきものでなければなりませぬ。いつぞや、何所でございましたか、裁縫の先生方がお集まりになつたときに、竹早町の或る先生がお話しになつたと云ふことを聞いて居ります。裁ち方などを教師が骨を折つて說明しても兒童の方に聞いて見ると能く分かつて居らないと言ふ。それで學校の先生は、今は分からなくつて

も書いて置けば大きくなつてから分かるから書いて置きなさいと言ふ。斯う云ふ話を聞きました。それは傳聞きでございますから私が間違つて居るかも知れませぬが、さう云ふ教授でありますと子供は少しも興味を起さない。殊に我國の子供は、裁縫と云ふことは、分かつても分からなくても、そんなに嫌ひでありませぬから、興味を有たないでも興味を有つても、マア先生から言はれゝば書いては置きませうけれども、それではいけない。何うしても子供に分かるやうなものでなければならない。分からないやうな教授をして、五年先きか七年先きに分かるなどと言つて、さう云ふことを約束しても無理であると思ひます。

それから日常の生活に最も適切なるものを擇むことであります。それから排列の仕方は難易の順序に依ることは無論でありますが、裁縫のやうなものは、春とか、夏とか、秋とか云ふ季節のことも多少考へなければいけないと思ひます。是は外の教科には餘りないことでありますが、矢張自分の着るものを縫ふと云ふことは興味を起す一端である。或は自分が縫つて妹に着せると云ふやうなことは、何か大きな手柄でもした、熊でも射止めて來た位に考へるかも知れない。非常に愉快を感ずるから、さう云ふことを利用して、さうして裁縫と云ふものは面白いものである結果が直ぐ分かるものであると云ふことを子供が思ふやうにさせたいのでございます。いつでも着るやうなものは、是れはいつ教へても宜しうございますけれども、單衣などは夏でなければ着ないから、成可く夏の少し前から縫はせるやうにする。子供ですから一週間や二週間で出來る譯ではない、一箇月位かゝりませうから、先づ五月頃から教へるとか六月の初めに教へると云ふ風にいたしますと、直に七月になつて其の單衣を着ることが出來る。又綿入を教へるならば、矢張今申したやうな譯で、十一月の袷時分から初めて丁度十二月頃に出來上ると云ふ風にしてやりたいのです。帶などは多くは夏締めますけれども、冬でも帶無しでは居られない。さう云ふ風に餘り季節に關係ないものはいつ教へても宜しいが、季節に關係あるものは餘程注意しなければなりませぬ。冬になつてから單衣を教へるやうなことはいけない。迂かり排列して行くとさう云ふことになつて面白くないのです。

それから他の教科に關係あることが幾らもあります。知識に關した事などを

教へやうとすると全科に關係を有つ。さう云ふ時には無論他の教科の關係を考へなければいけませぬ。でありますから裁縫の先生はなか〳〵忙がしい。いづれ三時間とか五時間とか云ふのでございませうが、出來得るならば他の教科を御參觀なさつて、さうして、他の教科で教へて居る所は何うであらうか、或はかの生徒は裁縫は出來ないが他の教科はどれ丈け出來るかと云ふやうなことを見るのも參考になりますから、成可く他の教科と聯絡をつけたい。又子供の個性を知ると云ふ上から言ひましても矢張時々御參觀になることが必要でございます。それから又私も覺がありますけれども、さう云ふ風に忙しいから、迂か〳〵して居りますと他の一般に關係した所の學問の方が等閑になりまして、それが爲に知つて居つたものも忘れて了ふと云ふことがあります。さう云ふことのないやうにする爲めには、矢張今申したやうに他の教科の教授を觀る必要があります。例へば算術のやうな學科に就て考へましても、括弧の使ひ方がどう云ふ風であると云ふことが、算術の先生と裁縫の先生と合はないと困る。若し間違つたことを致すと教師の力の不足と云ふことになる。此の中にはさう云ふことをお間違ひになる方はありますまいが、隨分高等師範の教生などに就いて見ますと――教生に這入つて來るから、いづれも相當の試驗を受けたのでありますけれども、四年間技藝科に居りますと、自分の仕事が忙がしいために他の學問を自然に怠ると云ふ譯ではありますまいが、出來なくなつて來る。それが爲めに、入學當時は隨分力がありましたのに卒業して行くときには括弧用法などを間違へて居るものなどがある。でありますから、成可く他の學科を見て聯絡をつけて他と違はないやうにしなければなりませぬ。

それから裁縫科に於きましては一つの教材を完結するのに澤山の時間を要します。一つの教材を終るには、他の教科でありましたならば、小學校で言へば多くとも三時間位で一教材を完結致しますが、裁縫科はさうは行かない。無論短かいものもありますけれども、長いものになれば三十時間もかゝることがある。でありますから、迂か〳〵と教材を排列して、難易の順序或は季節などのことを教へないで行きますと、學年或は學期等に跨ることがある。例へば夏だから單衣を縫はせやうとした所が、半分縫つて暑中休暇になつて了つて、一箇月休んで更に又休暇

後に殘りを縫はせると云ふことになる。さう云ふことがあると子供も氣拔けがして了う。又仕上げた所で初めて確實になるのであるのに、それも中途になると面白くないことになる。さう云ふことのないやうに氣を付けなければならない。學年とか學期に跨らないやうに致したい。

それから細目を作るには幾分か餘裕の時間を存して置きたいと思ひます。裁縫は他の教科と違ひまして、一部分省略すると云ふことが出來ない。細目は無論豫定でありますから其の通り確に行くと云ふことは望めない。或は教師が出來やうと思つても生徒の方が割合に出來ないこともありませうし、又臨時の休業などの爲めに出來ないこともあるかも知れない。それは他の教科に於きましても左樣でありますが唯、他の教科であると割合に省略が仕易いのです。例へば國語に致しましても、算術に致しましても、此の學期には臨時の休業が三時間も四時間もあつた爲めに圖らずも豫定と違つて來たと云ふ場合には、例へば讀本であれば、此の章と此の章とは大抵似寄つて居るからと云ふので或る一章を省いて次の章から始めて其の學期は完結してもよい。又算術に致しましても、演習問題を十題課せやうと思つたが時間が不足になつたから五題にして置かうと云ふことも出來る。それ丈け知識の損はあるに違ひありますまいけれども、兎も角もさう云ふ風に省略して行くことが出來る。所が裁縫は其の省略が何うしても出來ない。まるで一教材を缺くならば別でありますけれども、一部分を省略することは出來ない。衽を附けて衿を附けるのだけれども、前週に二時間お休みになつたから衽を附けるのを省いて衿を附けさせやうと言ふ譯には參りませぬ。寔に融通の利かない學科でございます。そこで仕方がないから、第一學期が十五週とか十六週あるならば、それを時間と合はせて勘定致しまして、其の中から一週間分とか二週間分を省いて細目を豫定して置きまして、さうして其の時間は練習と云ふやうなことにでもして置く。或は其の時間が餘るかも知れない。實際に於て少しも休業がなくつて豫定通りに進んだ爲めに二週間餘つたと云ふことになるかも知れませぬが、其所は技術の事ですから、肝要な部分などは幾たび繰返へさせても宜しいし、又裁ち方などの問題を出しても宜しい。又は普通に心得て居らなければならない衣服に就ての話をしても宜しい。殘つた時間の利用法は澤山ある。省略

の仕様のない學科でありますから、さう云ふ風に多少の時間を餘して置きたいと思ひます。

もう一つは複式の細目です。大體の理窟は複式でも單式でも同樣であります が、唯、複式の細目を作りますときには、相互の關係を注意して、教授の力に不同なくしやうと云ふ考で細目を作らなければなりませぬ。複式の級は餘り澤山はございますまいけれども、郡部あたりでは或はありはせないかと思ひます。單級學校と云ふものは、市内には無論ありませぬが、郡部には單級の學校があつて宜しいと思ふ。さう云ふ所では無論複式になりますが、現在の規則では尋常三年から尋常六年と云ふものになつて居る。そこで三年と、四年と、五年六年、此の四つの組を合せて一つの學級にする。さう云ふ場合には教師の教授力が分かれるのです。一人の教師の力が四つなら四つ、三つなら三つに分かれる。さう云ふ場合には成可く教授力を澤山に注ぎたいのであります。どの組に向つても出來得る丈け教授力を澤山注ぎたいのでありますが、一時間の授業でありましても、單式ならば、四十分なら四十分の時間を全部使はれますけれども、複式であれば三つなり四つに分かれるから四十分全部を使ふ譯に參りませぬで、十五分とか二十分と云ふことになりますから、其れをよく考へて、成可く一方には練習のことをさせる、一方には教授をする、又一方には豫習をさせると云ふ樣に致したい。教授力を出來得る丈け有効に使ひたい。複式であるために無駄に時間を費すと云ふことのないやうにしなければならないと思ひます。

今日は細目のお話を致さうと思ひましたが、單級の方の細目は先日差上げて置きました通りでございますし尚其の各、教材の取扱方に就きましては市橋教授からお話し申上げることになつて居りますから其の方は省きます。

第十三章　裁縫教授の方法

一　齊教授

前に申上げました樣に、裁縫科が普通教育の中の一教科となつたのは學制を發布された當時即ち明治五年であります。其の後二十五年と云ふ長い間裁縫科の教授は何う云ふ風であつたかと云ふと、學校の一教科目にはなつて居りましたけ

れども、其の教授法は矢張個人教授(個別教授)でありまして、普通教育中の一教科と言ひましても、教授の有様から見ますると、從來の仕立屋であるとか裁縫師匠が個人的に五人十人の弟子を教へたと云ふ時代と少しも變らなかつたのでございます。近來に至りまして段々裁縫教授が個人的であるのは不都合だと云ふことを認められて、其弊を段々改めまして、裁縫科も矢張他の教科と同樣に學級教授即ち一齊教授を致さなければならないと云ふことになりましたのは本科教授の一つの進歩でございます。尤も單に教育上とか或は便利上から申しましたならば個人教授も決して取るべき點がないとは申されませぬ。個人教授にも利益がありますし又一齊教授にも害があります。各〻得失利害を有つて居りますけれども學校の教授と云ふものは、御承知の通り大勢の兒童に對して同じ時間に同じ教材を授けて行くやうに致さなければなりませぬ。個々別々の教材に就て個人教授をして居つたならば、一人の教師が全般に亘つて教授すると云ふことが出來ませぬ。單に教育上のみから見ますると、人間は各〻個性を有つて居りまして、隨分個人教授の必要な場合もあります。けれども、學級教授としては個人教授は到底成立つものでありませぬから、其れを考へますと、裁縫科に於ても一齊教授でなければならぬと云ふことに近頃考へられましたのは至極適當なことと思ふのでございます。一齊教授と云ふことは無論贊成でありますが、唯〻此の一齊教授には色々不都合な點を生ずることがあると云ふことは皆樣方もよくお尋ねになる所であります。一齊教授にすると何う云ふ不都合があるかと云へば、第一に實際教授に當たる方々のお困りになることは、兒童が遲速を生ずると云ふことです。技術のものであるから單に知識として與へた丈けではいけない、必らず發表しなければならない。其發表をする時分に、器用な子供もあり、不器用な子供もあるし、又手の早い子供もあり遲い子供もあると云ふやうな譯で必ず遲速を生ずる。其の場合は一齊教授は甚だ不都合であると云ふのです。是は多くの方々の疑問となさる所であらうと思ひます。さう云ふことは私も始終經驗して居りますが、全く一齊教授に致しましては遲速を生じて困まる場合が澤山ございます。それを何う云ふ風にして救ふたら宜からうか、其の遲速を生じた場合にどんな方法を施すかと云ふことを考へる必要があらうと思ひます。出來得る丈け教授の方法を巧みにして遲速を

生じないやうにするのでありますけれども、それでも決して遲速がないと云ふ譯に參りませぬ。でありますから、其の遲速を生じたときには何うするかと云ふことを考へなければならなひと思ひます。

先づ下級の子供に授ける教材は多くは簡易なものでありますから、一教材を完結すると言つても、上級の子供に較べますと割合に時間が短かい。例へば襦袢を縫ふよりも袷を縫ふ方が時間が長くかゝると云ふことになる。でありますが襦袢一枚縫ふのでも矢張皆一樣に揃つて縫ひ終ると云ふ譯に參りませぬ。そこで十時間或は十五時間掛かるやうな教材でありましたならば成可く之を區分する。十五時間なり十時間を通してと云ふのでなくして、教材を或る箇所で句切りを付ける。例へば袖なら袖を縫ふと云ふ所で一段落を付け、襟を縫ふと云ふ所で一段落を付ける。さう云ふ風に句切りを付けたい。一部分一部分に就ても多少の遲速を生ずる。二時間も實習を致しますると、或る者は十分も遲れる、或る者は二十分も遲れる、或る者は三十分位遲れるのもあると思ひます。又十分も二十分も早く終るものもあると思ひますが、さう云ふ場合に早く終つたものは少し位の時間は待たしても宜いと思ふ。三分や五分早く終つたからと云つて、それに特別の教材を課する必要はない。それは何の教科でも其の通りであります。作文を致させましても、算術を致させましても、三分や五分位の遲速はある。其の位は待たしても宜しいと思ひます。假りに三十分位早く出來た者がありましたときには、餘り澤山の時間を待たせる譯に參りませぬから、それは復習になることゝか或は運針の練習をさせると云ふやうに、他の教材を課しても宜しい。又二十分も三十分も遲れたものは何うしたら宜からうか。さう云ふものは據所ないから後に殘して置てさせるとか、或はお晝の時間にやらせるやうにする。子供を殘して置くことがいけないと云ふならば、其の旨を家庭に報告して、翌朝少し早く出て來て二十分なり三十分なりの仕事をさせると云ふことに致したい。教師の方から言れますと、澤山の子供を扱ふのですから隨分お世話の燒ける話でありますけれども、さう云ふ風に致さなければなか〳〵揃へる譯に參りませぬ。一齊教授を十分にして行かうと云ふには、其れだけ教師の手數をかけなければならぬ學科であると思ひます。

又もう一ッは、是は學校の授業に關係することでございますから十分に申すことは出來ませぬけれども、技藝の教授は如何に巧みに致しましても、なか〳〵六十人も七十人も小學校の小さい子供を扱ふと云ふことは十分に手が屆きませぬ。でありますから、出來得るならば補助教員を使ひたい。卒業生か何かでまだ緣付かないで居るやうな者を使ふ。固より補助なんですから、無論資格などは大したことは要りませぬ。さう云ふ樣な人でも使つて補助をして貰ふと云ふことも一つの方法であらうと思ひます。併し迚も全く報酬無しと云ふ譯には行きますまいけれども、僅かばかりの報酬をして、練習の積りで使つても宜からうと思ひます。さうでなければ、或は費用などに少しも關係なくしてもつと好い方法と言へば、專科教師と云ふやうな方が別にあつて裁縫を共に擔當なさるならば、其の專科の學科の教師が自分の受持中の裁縫を各〻補助をする補助教員の位置に立つて世話をするやうにしたならば宜からうと思ひます。學校の方では費用が掛からなくなつて、補助をして下さる方は教育上の考を十分に有つて居らるゝ方でございますから、成績が一層擧がると思ふ。併し其の補助と云ふものは必ず自分の意見を立てゝはいけない。固より補助なんですから、裁縫のことだけは凡て裁縫教師の指揮に從はなければならないと云ふことは無論であります。それから、もし其の方法も出來ないならば、優等生に多少補助をさせる意味で、即ち優等生と劣等生とを並べて置く。さうして優等生は早く分かりますから隣りの劣等生を導いてやると云ふ意味に致しても宜からうと思ひます。夫れ等のことは最も簡易な方法であらうと思ひます。前以て校長に其の話をして置く。優等生と劣等生を並べますから席次が變はると云ふ事を申して置けばよい。唯〻申上げるだけで、別に校長がそれはいかぬと言はれることはない。或は又劣等生などと云ふものは一級の中に半分とある譯は決してない。多くても五人か十人位なものでありますから、それが所々に散在して居りますと、教師は彼方此方を廻はつて見なければならない。劣等生であるから特に個人的に教へなければならない。一般的に說明しただけでは劣等生にはよく分からない。分からずにボンヤリして居る。さう云ふのが所々に散在致しますと、教師は甲の箇所にも乙の箇所にも丙の箇所にも歩いて行つて、一人々々に話をなければならないが、さうすれば其れだけの時間を要し

ますから、そこで劣等生だけを一箇所に集めて置いて、其所へ行つて特別に再三再四話をしてやると云ふ風に致しても宜からうと思ひます。其の場合には、教師は豫めさう云ふ時間を造つて置くと云ふことをしなければなりませぬ。尤も一齊教授と申しましても、劣等生と優等生との區別なしに、全般に對して矢張實習中は個人的に注意を向けなければならないことは無論であります。一齊教授は決して個人的に注意を向ける必要がないかと云ふと然うでない。一齊教授を本體として居りましても、斯う云ふ技術的のことは併せて個人教授を施さなければならぬと云ふことは無論でありますから、一般に其の心を以て臨むべきでありますけれども、特に劣等生に對しては十分なり十五分なり餘計な時間を費やすのでありますから、其れだけの時間を豫め積つて教案を立てなければなりませぬ。斯樣に遲速を揃へさせるためには種々な方法があります。其の中の何れをお取りになつても宜しいと思ひますが、出來得るだけ御研究になつて、どれが一番結果が好いか、其の方を取つて頂きたいと思ふのでございます。

下級の生徒は特に然うでありますが、上級の生徒即ち高等二年位になりますと、一教材を餘り細かに區分すると云ふことは或は利益でないかも知れませぬ。十分早かつたとか十五分遲かつたと云ふやうなことでありましたならば、十分早いからと言つて他の教材を課しても大したことは出來ない。まあ糠袋の一つも縫ふと云ふことは出來ませうけれども、子供のことでございますから、さう僅かばかりの時間で纏まつたものは出來ない。據所ないから運針でもさして置くと云ふことになりますが、兎も角も上級の生徒には餘り細かい區分をしないでもよい。矢張一教材を終るごとに、時間は全部終らなくても區分の仕方を粗くして、さうして時間を揃へることに致した方が宜くはないかと思ひます。さう致しまして、或は二十時間とか或は三十時間で終ると云ふ長い時間を要する教材でありますから、其の間に一時間とか二時間とか早く終るものがある。さう云ふ一時間とか二時間とか云ふ纏つた時間になりますと、筒袖を縫ふとか、或は雜巾を刺すとか、或は妹の前掛を縫つてやると云ふやうな餘程實用的のことが出來るやうになります。さう云ふことは又大變に宜しうございまして、勵みにもなることでございますから、上級の生徒には餘り細かに區分を致しませんで、多少纏まつた時間を殘して一

つの仕事をさせるやうなことに致したい。それもまだ全部知らないことをさせると云ふのは面白くないから、復習的のことでなければいけませぬ。

さう云ふ具合にして、裁縫の一齊教授と云ふことは多少しにくい方法でありますけれども、個人教授が學級教授に適しないとは明かでありますから、今申し上げた樣にして一齊教授を成可く巧みにやつて行くと云ふことに致したいと思ひます。

第十四章　教授の順序

裁縫科の教授の順序と申しましても別に特殊なことはございませぬ。矢張一般教授の順序に從ふのです。易より難に進むとか、簡單より複雜に進むとか、或は部分より結合に進むと云ふやうな一般的な順序は無論適用致されるものでございます。でありますが、裁縫科に於て何う云ふことが易より難に入ると云ふやうなことであるかと申しますると、先づ用具の名稱とか、使用法とか、或は運針とか、糸結びとか云ふやうな單一なことから這入るやうになります。さうして段々複雜になつて、服地の名稱とか、性質とか、或は洗濯法とか、保存とか云ふやうなことに進んで行くのであります。夫れ等のことは一般的に言へば他の教科と同じであります。裁縫科と云ふものゝ普通教科と違つて居る點は、衣服の裁ち縫ひと云ふことであります。衣服を裁ち縫ふと云ふことのためには運針の稽古をする。又各種の縫方の稽古をする。或は衣服のむづかしい部分だけを特に拔取つて、即ち要點を特に練習する。さうして要點の練習が終りましたならば之を綜合して全體のものを縫ふ。縫ひ方が段々出來るやうになりましたならば進んで新しいものを裁つ、即ち裁ち方をする。斯う云ふことは他の教科と違つた點で裁縫科特有の教材であります。でありますから、其の裁縫科の裁縫科たる所の各々の教材に就ての順序方法等を大略お話し申上げやうと思ひます。

先づ運針法に就きましては、皆樣も御承知の通り、素縫ひと本縫ひとの二種に分ちます。素縫ひと云ふのは針に三寸か四寸位の糸をつけて二重にして縫ふのです。短い糸が針に付いて居るのですから、縫ふた跡が少しも見えないのでありますす。段々縫つて行つてもズル〳〵拔けて行つて糸が殘りませぬ。糸が殘れば縫つた跡が見えますけれども、糸が殘らないから縫つた跡が見えない。なぜさうい

ふことをさせるかと云ふと、運針と云ふことは裁縫の中では最も簡單な技術であります。けれども、子供の不器用な手から考へるとなか〳〵むづかしい。針を運ぶと云ふことは複雜な仕事に思つて居る。うまく運ぶことが容易に出來ない。それは御經驗上お分かりで居らつしやいませうけれども、右手の拇指と人差指とを交互に離して中指の指貫に針の針孔を當てゝ運針すると云ふことはなか〳〵子供にはむづかしい仕事であります。つまり初めには跡の見えない所の即ち素縫ひをさせると云ふのは、唯〻手の練習を主とするのであります。凡ての目的を幾つも同時に達することは出來ませぬから、先づ手の働きを練習すると云ふことのみを最初の目的にするのです。それがために素縫ひを課します。初めから本縫ひをさせますと、子供はどうしても手の運びと云ふことを考へないで、縫ふた跡のきたなくならないやうにと云ふことを考へます。幾分子供であつても、ひどく抽でありますと、極まりが惡いとか、おかしいと云ふやうな考が起ります。出來得るだけ成可く眞直に縫つて、おかしくなく縫ふと云ふやうな考が起る。それが爲めに指の使ひ方即ち運針の仕方などは少し位何うあつても、唯〻縫ふた跡を綺麗にしやうと云ふことを考へる。それを始めはさせたくない。縫ふた跡と云ふものは段々熟練すれば綺麗になるのですから、初めはそんなことを考へずに、手の運び方が所謂法則に適ふやうに早くしたい。それであるから、特に初めのうちは素縫ひをさせるのであります。さうして針の持方とか運び方と云ふものが稍や熟した時に至りまして本縫ひを課します。本縫ひの方は糸が長くつくから、縫つたあとがチャンと見える。其時分には手の働きが稍や上手になつて居りますから、特に綺麗にしやうと云ふことに力を注がないでも、段々綺麗に縫へるやうなことになる。併ながら手の働きが達者になつたからと言ふて、もう素縫ひを課さないと云ふことでない。矢張斯う云ふ技術と云ふものは始終刺戟を與へないと鈍くなる。私共は皆樣方より餘程鈍くなつて居る。もう年も取つて、そんなに裁縫を毎日セッセと致して居りませぬから餘程鈍くなつて居ります。又皆樣はお若く居らつしやいますし、學校なども卒業したのでありますから、餘程運針などの方はお早い。どうしても毎日やつて居りませぬと鈍くなる。でありますから、稍や上手になつて素縫ひなどは餘りせなくても宜からうと思ふ時分になりましても矢張僅かの

時間は素縫ひをさせる方が宜い。わざ〳〵針箱を出させてやると云ふのではありませぬけれども、縫ひ方の時間の初めには大抵素縫ひを二回位課し、さうして本縫ひを一回位課して、それから實際の縫ひ方をさせると云ふことにする。其の素縫ひも、段々上手になりますと時間を定めて皆が一緒にすると云ふことに致すのです。時計を教師が見て居りまして、時間を極めて置いて全體の生徒が一緒にするのです。それは何時頃からするかと云ふと、今日の所では尋常三年から裁縫が加はりますが、三年位ではまだ運針なども上手に出來ない、隨つて皆と一緒に競爭しやうと云ふことはまだ出來ませぬ。最初の内では出來得るだけ鄭寧にする。時間は幾らかかつても構はない。一尺縫ふために十分も或は十五分もかゝるかも知れませぬけれども、それでも最初の内は宜しいのでございます。時間を早く早くと云ふやうなことを最初から言つては無論いけない。成るたけ鄭寧にさせることを主とする。でありますから、三年位では時間を定めて競爭して縫ふと云ふやうなことはしないで、先づ針使ひの恰好などが宜ければ宜しいとして置きまして、尋常四年位になつて初めて一定の用布で皆と一緒に競爭縫ひをさせるのでありま

す。用布の長さにも依るでありませうけれども、大抵二尺五寸か或は二尺　寸位の用布で宜しいと思ひます。それを一回縫ひますのに、初から終りまで素　ひをして行く。それが尋常四年では大抵三十秒位の時間を要します。それから尋常五年位では二十秒位の時間をかけたら宜いと思ふ。高等一年二年では、凡そ其の同一の用布を一回縫ひ終りますのに十五秒位の時間で宜いと思ふのです。それは尤も一番早いのです。それから教師が時計を見て居て、五秒毎に合圖を取つて行きます。例へば十五秒になりましたときは一と言ひ、二十秒になりましたときに二と言つて、五秒毎に合圖を取りまして、一、二、三、四、五――五まで合圖を取つて行くのです。でありますから一番終りは三十五秒位になります。ちよつと倍の時間になります。それでもまだ出來ないものは普通より餘程遲い生徒でありますから、成可く家庭に於ても練習をさせなければならないと云ふことになります。十五秒で出來る人は最も早いのですがさう云ふ人は少ない。大抵二十秒、三十秒、或は二十五秒と云ふ間が多いのです。何の學科でも同じでありますが、大勢の中ではよく出來る者も僅であるし、出來ない者も僅である、中位の者が一番多い。であ

りますから、二十五秒から三十秒の間に出來る者が澤山あると云ふやうなことになります。さういふ風に致して運針の練習をさせる。さうすると十五秒とか三十秒とか云ふのですから、つまり一回縫ふのに僅か一分の時間も要しませぬ譯です。併しそれには用意などがありますから、全體から言つたら一分間位を要しませうけれども、兎も角も僅の時間で出來ます。

さういふ風に致しますのは、手の練習をさせて始終刺戟を與へるのが主でありますけれども、又一つは教室に這入つて生徒に油斷を起させないと云ふことがある。裁縫教室に這入りますと子供は何となく緩くりしたと云ふ氣になりはしないかと思ふ。是から休むと云ふ氣ではありますまいけれども、他の學科と違ひまして、精神の籠め方が緩くりして、少し油斷するやうな點がありはしないかと思ふ。所が今申したやうに、初めに運針の練習をさせると、是から皆と一緒に競爭するのであるから出來得るだけ早くしやうと云ふ氣になる。又其の時には姿勢の好い惡いと云ふこともよく分かる。裁縫は技術でありますからいろ〳〵の仕方があつて、一齊教授と言ひましても、皆が、縫ふなら縫ふ、紩けるなら紩けると云ふことは出來ない。袖口を縫つて居るものもあり衿を縫つて居るものもあると云ふやうな譯で多少姿勢が違つて居りますけれども、運針の時には皆同じ姿勢を取らなければなりませぬ。さういふ譯でありますから氣分もチャンと致しますし、身體もチャンと致します、是から精神を籠めて皆と一緒に競爭しやうと云ふやうな氣になりますから、餘程勵みになつて授業上大變に都合が好い。併しそれは附けたりの利益でありまして、手の運びを達者にすると云ふことが無論主要の目的であります。さういふ風に運針をすると云ふ習慣が付いて居りますと、遲い子供は自然と家庭に於ても復習をするやうになる。復習と言つても、運針などは簡易な仕事ですから、日暮などに燈火が無くつても出來るし、針さへあれば自分の前掛けでも何でも縫つて居れば其れが運針の練習になります。運針が上手になりますと衣服を縫ふには大變好い。早くも出來ますし、又縫ふた跡が立派で綺麗です。運針が抽（た）であると、縫つても口が開いていけない。何うしても仕立上を綺麗にしやうとするには運針が上手でなければならない。殊に早くしやうと云ふには運針が上手でなければならない。何うしても運針が裁縫の基礎を成すものであります

から、是には大に努めなければなりませぬ。

運針を力めると云ふことは只今申上げた通りでありますが、運針の爲めには割合に澤山の時間を要しまして、子供が之を練習すると云ふことが亦なか〳〵むづかしいものでありますから、或人は斯う云ふことを申します。近頃は何でも機械の世の中であるから、そんなに運針などに力を籠めなくつても、出來得るならば機械を用ひた方が宜くはないかと、斯う云ふことを言はれます。それは尤もである。若し日本に運針の機械がありましたならば其の機械を使ふと云ふことも宜しいでありませうが、今日の所ではまだ日本で運針の機械と云ふものはない。段々考へて居る人は二人や三人ありますけれども、完全に出來たものはまだ私は一つも見ない。蒲團屋などで、眞直に縫ふだけのために使つて居る所があると云ふことでございますけれども、私が見ましたのは山崎と云ふ人の機械です。丁度手ミシンのやうな機械でありますが其れが一番都合がよいと思ひました。併しそれでも極く長い間を縫ふとか、或は曲線に縫ふと云ふ場合には割合に不便でありまして、十分實用に足ると云ふ風には思へませぬ。それでも尙十分でなくつても使つて見たいと思ひましたけれども、矢張使ふ人が少ないのでありますから、考案はしたのですけれども、澤山機械を拵へて販賣すると云ふまでには至らない。隨て今の所は無いと云ふことでありますから使ふことは出來ませぬ。又三四年前に小出新次郎先生が機械をこしらへたと云ふことが雜誌に書いてありました。廣告を見ましたけれども、何所か損じて直しにやつてあると言つて實際に賣ることは出來ないと云ふ話でございます。さう云ふ風で、どうも日本の運針の機械の完全なものは見當らないやうでございます。又機械がありましても、それが極く廉いものであつたならば小學校で使用することも出來ませうけれども、只今のものは矢張十八圓とか二十圓とかするさうで、手ミシンと同じやうなものであります。さういふものでありましたならば一般に使用すると云ふことは出來ない。小學校で六十人も七十人も澤山の子供が居つて、それが各〻自分の手の代りに機械を使はうと云ふならば一人に對して一臺づゝなければならない。でありますから、一人が一臺を有つとすると、五十人ならば五十臺、六十人ならば六十臺の機械がなければなりませぬ。一圓とか五十錢とか極く廉ひものでありますなら大した費用

にもなりませぬけれども、なか〳〵高價のもので、二十圓前後のものでありました ならば、各小學校が各〻生徒數だけ備へると云ふことはむづかしい。又校費でそれが出來ないとして兒童の支拂と云ふならば尙出來ない。又兒童が其の機械で縫ふことを習つて、今度家庭に這入つたときには、學校の機械を持つて歸ることは出來ないから、家庭で使はうと思へば特別に買はなければならない。從來手で出來て居つたものが今度は機械がなければ出來ない。丁度今の西洋婦人は然うです。ミシンの機械やなにかは便利であるけれども、手が不器用である。それでなくつても一體不器用であるのでありませうが、機械を使つたから餘計不器用になつたと云ふ譯ではありますまいけれども、僅なことでも自分に出來ない。よく學生や何かは然うです。外國の學生でも餘り裕かでない者もありますから、帽子なども冬になれば冬の裝飾をして冬帽子にするとか、又夏になれば夏の裝飾をして夏帽子にすると云ふやうなことも致すさうでありますが、さう云ふことも自分で出來ない。日覆ひなどをかけることもなか〳〵手が不器用だから容易に出來ないさうであります。さういふ所から言へば、日本の留學生などは手が器用であるから譯なく出來る。さういふ次第で、餘り機械の力ばかりに賴ると手の働きが鈍くなつて來る。兎に角今日の民度ではなか〳〵各家庭で皆機械を使つて裁縫をすると云ふやうなことはむづかしひ。尤も現在だけの考で教育をする譯ではありませぬけれども、近い所では、即ち今より三十年或は四十年位後までは、なか〳〵各家庭が皆富んで、國も富んで來て、學校でも家庭でも十分な設備が出來ると云ふまでには至らないと思ふのであります。さういふ風に考へますと、假令機械がありましても、それを使ふことは出來ない。それは商賣人などが利益勘定で使ふのは宜しいと思ひます。例へば一枚縫ふのに手で縫へば十時間かゝるが機械を使へば五時間で終る。さうすれば工賃が餘計取れて、つまり收入が多くなると云ふ譯であるから、機械の爲めに多大の費用をかけても宜い。求めてそれを使つた方が宜いと云ふことになりますが、併し普通教育ではさういふことを考へなくても宜しいのです。唯〻手を器用にするとか、或は精神的の教育をするとか云ふことを考へれば宜しいのでありますから、經濟上の狀態や民度などのことは少しも考へずに、唯〻機械が最も必要だと言つてお勸めする譯には私は行かないと思ふ。殊に裁縫

などと云ふものは、矢張落着いて運針をしたり、落着いて縫つたりして居る間にいろ〳〵心力を陶冶すると云ふやうに即ち精神教育の上に於て大變利益があると思ふのです。唯、機械でガチャ〳〵やつて、一尺縫ふのに一分間で出來たが手で縫へば二分かゝるから其の方が損だと云ふ風に勘定ばかりして居る譯には行かない。面倒なことをよく耐へてして行くと云ふ所に於ていろ〳〵の効果を見られるのです。縱んば完全な機械が出來ましても、普通教育に於て機械を使ふと云ふことは實際上出來るものでない。又或は經濟の點に於て宜いにしても、さういふことが教育上利益であるか利益でないかと云ふことを深く攷究した後でなければ早速に其れに贊同することは出來ないのであります。又現在日本で運針の機械がなかつたならばミシンの機械を使つたら宜からうなんと云ふやうな說を出して居る人もあります。ミシンの機械を使ふと云ふことは、其れは襦袢とか木綿の單衣とか云ふやうなものであつたならばまだよいかも知れませぬが、絹物などは迚もミシンを使ふことは出來ない。弱いものでありますからミシンでは强過ぎて困りますし、又もう一つはミシンは餘程解きにくい。シンガーなどは、能く解けるとかいろ〳〵なことを申しますけれども、實際やつて見るとなか〳〵解きにくい。ミシンを解くために澤山の時間を費やすならば、少し位早く縫つたからと云つても矢張利益はない。さういふ風でありますから、餘程愼重に考へて、人が斯う言つたから成程それが宜からうと云ふやうに直ぐに贊同することは出來ないのです。段々進步はして行かなければなりませぬけれども、よく考へてから後に進むやうにしなければいけない。道理も分からずに、好い加減に說を立てる人に向つて直に贊同する譯には參りませぬ。

次には部分縫でございます。衣服の全體を縫ひますには澤山の時間を要します。一枚の衣服を縫ふのに小學校では何十時間と云ふ澤山の時間を費やします。所が、今日の世の中はなか〳〵忙しうございまして、學校でもいろ〳〵の教科を課しますから、そんな何十時間も費やすやうなものを何枚も縫ふと云ふことは容易に出來ませぬ。普通教育の時間ではなか〳〵出來ない。昔は裁縫なら裁縫のみを主として致しましたから十枚でも二十枚でも或は三十枚でも縫ふことが出來ましたけれども、今日では到底さういふことは出來ませぬ。所が裁縫の技術と云

ふものは、御承知の通りなか〳〵一遍縫つて其れで事が足れると云ふものではない。むづかしい所は矢張三遍も五遍も、或は時に依つては十遍も練習して初めて其の技術を得るものであります。昔は、今申上げた通り、時間が澤山ありましたから五枚も十枚も重ねましたけれども、今はそれが出來ない。據所ないから、衣服の中でもむづかしい部分と簡易な部分とありますから、其のむづかしい部分を引拔いて、其の部分のみを再三練習させる。然う致しますれば、つまり全體の物を三遍なり四遍なり練習したと同樣なことになる。全く同樣と云ふ譯には參りますまいけれども略、それに近い結果になる。其所で部分縫ひと云ふことが必要になるのです。つまり部分縫と云ふものは時間の經濟から起つたのです。

部分縫に要する用布は何う云ふ風に定めたら宜いか。小學校の教材としましては、昨日其の大體を申上げました樣な譯でありまして、衣服にも長いものも短いものもある、或は男物も女物もあるのであります。夫等の各〻のものに相當した部分縫用布を用ひると云ふならば數が澤山要りますから、さうでなしに、どの衣服にも用ひられる大きさの布を選らんで部分縫用布と定めるのであります。それでありますから、時に依つては少し長過ぎるかも知れない或は短過ぎるかも知れない。寸法の不適當な所はあるかも知れませぬけれども、部分縫の趣意と云ふものは、技術を與へると云ふことが目的でありますから、寸法は假令一尺あるべきものが八寸しかなくつても、別に技術に關係すると云ふ譯でもありませぬから、それで、どれでも凡そ間に合ふやうな用布の大きさを擇んで、それを部分縫用布と定めるのです。先づ私の考ます所では、凡そ長さは大幅の二尺五寸のものが二枚と、半幅の二尺三寸のものが二枚と、四ッ割幅の一尺八寸のものが二枚と、大體此の六枚で宜しいと思ひます。此の部分縫用布は決して新しいものを持つて來させる必要はない。着物の古いのでも宜しうございます。短いのは前掛の古いのを持つて來ても宜い。或は家庭の都合に依りまして、二尺五寸と云つても二尺位しかないと云ふならば五寸だけ接いでも宜しうございます。横に接ぎましても縱に接ぎましてもそれは宜しいのです。家庭の事情に依つては新らしく買ふことが出來ないと云ふことも幾らもありますから、決して新しく買はなければならないと云ふ譯ではありませぬ。古いのを集めて寸法だけ纏めて持つて來させても宜い。

家庭で纏めることが出來なければ學校で纏めてやつても宜いと思ふ。兎も角さういふ風に六枚の用布を定めます。さうして其の二尺五寸のもの並に二尺三寸のものは、一枚は、無地で宜いが、一枚は成可く縞のものを持參させる。それはなぜかと申しますと、部分縫ひにも使ひ又運針用布にも使ひたいからであります。運針にはなぜ縞の布が宜いかと申しますと、運針が習熟した後であれば無地でも宜いけれども、まだ尋常四年五年と云ふやうな下級の子供は、運針を致しますのに一ッの標準がなければならない。無地のものを眞直に縫ふと云ふことは大人でも困難であります。其所で成可く縞のものを持たせて、其の縞に沿ふて練習させるのです。さもなければ、眞直に縫ふには篦で線を付けるとか、折るとか、餘計な手數をかけなければならない。それをしないために縞に沿うて運針をさせる。さう申しましたならば裁縫の材料はいろ〳〵ある必ず縞ばかりではないぢやないかと仰しやるかも知れませぬけれども、併し無地のものを縫ふときは、皆樣でも或は折目を付けてお縫ひなさることもあらうと思ふ。段々無地のものでも眞直に縫ふやうに稽古をさせるのは無論でありますけれども、初めからさういふことを望むのは無理でありますから、折目などをつける手數を省くために縞の用布を使ふ。チャンと手の極まりが出來ました所で無地の用布も與へて運針をさせる。でありますから、運針用布は二枚の中一枚は必ず縞でなければならないと云ふことになるのであります。さうして其の六枚の用布は、初等教育では無論、中學教育に進みましても、尙それを洗濯したり火熨斗をかけたりして使はせます。是は獨り部分縫ひのみならず、外のことにも使つて行くと云ふことが出來ます。さういふ風に致しまして、用布に依て衣服の要點を引拔いて縫はせる。再三練習した後に縫ひ方をさせると云ふことになります。

縫ひ方に於きましては、部分縫ひを最初にすることは前に申しました。最初に部分縫をして、次に仕立上寸法を教へ、標附け方を教へて、それから後に實習をさせる。斯う云ふことを申しました。所がまたさうでなしに、縫ひ方を實習するときに、其の實習中に挿んで部分縫をさせると、云ふ說もあります。それも宜しいと思ひまして、必ずしも惡いと云ふ譯ではありませぬが、縫ひ方を實習して居る間に部分縫を挿むと云へば何う云ふ風にするか。例へば單衣を縫ふときに、衿附けなど

がむづかしいと云ふならば、衿附けの部分縫をさせる。或る所まで縫つて參りまして、衿附けをするときになつて、部分縫用布の方で衿附けをする。それから實物の方をさせる。即ち今手習をしてすぐお清書をすると云ふことになるのです。又袷を縫ふのに裄がむづかしいとすれば、矢張或る所まで實物でやつて參りまして、愈〻裄をこしらへやうと云ふときになつて部分縫用布の方で裄を習つて、其れから實物の裄をこしらへる。斯う云ふことになる。此の方法も隨分宜しいやうでございます。けれども亦一方から考へて見ますると、小學校の教材は時間が長くかゝる。凡て子供は成可く結果を早く見ることを喜ぶ。結果の遠く見えるものは寔に子供の興味を引き難い。裁縫のやうに時間が長くかゝつた後に結果を見るものは割合に興味を引かない。併し我國の子供は其れ程裁縫が嫌ひでない。外國の子供などは裁縫の嫌ひな子供が澤山あるさうでございまして、苦心していろ〳〵教授の方法を案出して居ります。兎に角兒童の性質から言へば、結果の早いことを喜ぶ。部分縫を其の間に挿みつゝやつたならば、例へば十時間で仕上るものが十五時間も或は其以上かゝると云ふこともないとは言はれませぬ。間に挿むのですから、三時間でも四時間でも部分縫を挿んだだけは長くなる譯であります。さうでなくしても結果が遠くつて困つて居るところを、尙一層時間をかけることになりますから、子供は倦きを來たす。又餘り長く時間をかけると品物がクシャ〳〵になると云ふ嫌ひもある。さういふ次第でありまして、單に理窟の上から考へれば、部分縫を間に挿むと云ふことは、今手習をして直ぐにお清書をするやうな譯で至極宜しいやうでありますけれども、他の事情を考へますと如何であらうかと思ふのです。けれども皆樣方のいろ〳〵御研究の上で、或は挿んだ方が宜いと云ふことになるかも知れませぬ。一ッや二ッ極く肝要な部分は或はさう云ふことをしても宜しいかも知れませぬ。袖口とか裄とか云ふ肝要な部分にさういう風にして偶には挿むことも宜からうと思ひますけれども、それを本體にすると云ふことは如何でございませうか。

次には縫ひ方でございます。衣服の縫ひ方と申しますのは、先づ部分縫に依つて要點を授け、それから仕立上寸法、それから標附け方、或は縫ひ方順序の方法だけをまづ知識として授けて置きます。さうしてから後に實習をすると云ふやうな

順序になります。仕立上寸法などを教へますときに、唯、空に書いて教へるやうにして居るやうでありますが、それでは子供には分かりにくい。皆様方はさういふことはなさりますまいけれども、他の地方では隨分さういふこともございますから、然うでなくして成可く空に教へないで、實物と對照して教へるやうに致したい。假令袖を何寸にするとか、袂の圓形は何うとか、袖口は何うと云ふやうな風に、教へましても、それが唯、寸法だけを記憶させると云ふのでなく、矢張袖付けと云へば何所から何所まで、袖口と云へば何所から何所までと云ふ風に、よく實物と對照して教へる。或は掛圖のやうなものでも宜しうございませうが、さういふものと對照して教へる。斯様に致しますと、唯、空に教へるのでなくして確に覺えます。殊に寸法などと云ふものは數ですから、非常に記憶しにくい譯です。或は一ッ身を教へて、今度三ッ身を教へるならば、一ッ身の時の寸法と三ッ身の時の寸法とを比較して教へるやうに致したい。さういふ點を注意するのであります。

それから縫ひ方の實習をして居る間は無論机間巡視をすると云ふことは御承知の通りでありますけれども、何れの教科でも同じことでありまして、算術を教へるのでも、練習問題を課したときには必ず教師は机間巡視を致しますが、技術のものは一層此の机間巡視に力めなければなりませぬ。子供ですから間違つて聽いて居る者もあるし、又間違はなくつても非常に拙に縫つて居る者もある。さういふ場合に、例へば衿を附けて居るときに、前に衽の附け方が悪かつたから直させやうとすれば、衿を解いて衽を直してから更に衿を附けると云ふことにしなければならない。其の時間と云ふものが大變な損です。それで無くてもなか〳〵不器用であるのに、折角附けた衿を解いて、衽の悪い所を直して、更に衿を附けなければならないと云ふやうなことになりますと、三十分も、四十分も、或は一時間も損をすることになります。教師は力めて机間巡視をして、さういふ間違のないやうにしなければなりませぬ。私は或地方で見ましたが、實習の時に少しも教師は構はない。机間巡視も何も頓着せずに自分は自分の仕事をセッセとして居る。さういふことは皆様方にはないが、昔の裁縫には偶にはあつたのであります。私共は小學校では習ひませぬで、地方の師範學校で習ひました時に、矢張實習をして居る間は先生が御自分の仕事を爲さると云ふやうなことも時にはありました。小學校

あたりでも偶にはさういふ方がありますが、子供は皆初級に屬するものでありまして、上手抽と云ふことも分からず、何うすれば上手か、何うすればおかしいか分からない位でありますから、教師は十分に机間巡視を力めて個人的に注意を向けると云ふことが肝要であります。

次には裁ち方でございます。是は矢張皆様方のなさる通り、先づ初めは用布の丈と云ふものを教へて置きます。從來は初めから問題を出す。例へば一ッ身をこしらへるのに一丈なら一丈で身の丈を幾らにすれば幾らになると云ふやうに初めから問題を出して問をすると云ふやうな教授の方法でありましたが、其れは大變おかしい。一ッ身と云ふ觀念も何もない所の子供に向つてそんな問題を出すのは間違つて居ります。でありますから、初めは、一ッ身と云ふのはどの位の用布が要るか、又本裁はどの位の用布か要るかと云ふやうな具合に、先づ用布の丈を教へる。それから袵とか袖とか云ふものゝ寸法を教へて置きまして、次に裁ち方の圖を掲げて裁ち方を教へるのです。それから次には積り方の算方を教へる。それが能く分かりましたならば、次には應用問題を出して生徒の應用の力を試みるのであります。一體ならば積り方を教へ、裁ち方の順序方法等を教へましたなら、直ちに裁方の實習をさせても宜しいのであります。縫方實習、裁方實習と言つて宜いのでありますが、即ち實際に裁つて縫ふと云ふことにしても宜しいのでありますが、我國の反物は、御承知の通り幅でも丈でも實に不規律でありまして、呉服屋で布を買ひましても、八尺と云ふものが或は八尺五寸あることも或は一丈あることもある。幅でも、學校の裁縫は木綿幅を九寸として教へるのでありますが、實際は九寸五分あるものも、九寸三分あるものもある。或は晒しのやうに八寸位のものもある。さういふ不規律でありますから、實際に於ては丈や幅のいろ〳〵異なつたものに就て應用を十分さして見た上でなければ實際の裁ち方に這入る譯には行きませぬ。夫れ故に積り方の算方を教へまして、幅の狹いもの或は廣いもの、丈の長いもの短いものに就て應用をさせる。幅の狹いときには何所を詰めれば宜いとか、廣い時には何うすれば宜いと云ふことが子供によく分かつた後に裁方の實習をさせると云ふことにならなければいけませぬ。

裁ち方の實習は古いものでは出來ませぬ。縫ひ方は古いものを持て來て縫ふ

と云ふことが出來ますけれども、裁方になりますと何うしても古いものでは間に合ひませぬから新しいものを持つて來なければなりませぬ。所が新らしいもののない家庭も隨分あると思ひます。其所で、新らしいものがなかつた時には裁ち方の實習は何う云ふ風にするかと云ふと、據所ありませぬから、紙を用ひて練習をさせるより外仕方がありますまい。紙で練習させると云ふことに致しますると、其の寸法は實物通りにして好いか、或はさうでない方がよいか。布ならばしなやかであるから取扱ひ易いが、紙はゴワ〳〵して居るからなか〳〵取扱ひにくひ。それで紙の時には實物の二分の一に短縮した方がよからうと思ひます。それには何うしたら宜いかと、云ふと、一枚の半紙を二つに切ると丁度四寸五分か六分になつて、即ち二分の一の寸法になるから、九寸とか九寸二分と同樣な寸法に相當する。そこで此の半紙を繼いで行きますと、凡そ十一枚程あれば二丈八尺即ち普通の反物の長さになる。半紙でなくて或は粗末なロール半紙かなにかの卷紙でも宜しい。或はお清書などをした反古を集めて用ひても宜しい。眞黑になつたものではいけませぬけれども、一度位字を書いたものなら差支へない。常にさう云ふ裁ち方の稽古をするために紙などを繼いで置きましてそれを使ふやうにしたら宜からうと思ひます。』

又裁ち方の一ッの方法として或る人は斯う云ふことを考へました。裁ち方をしやうと云ふときに、最初に反物を一反持つて來させて、其の一反の反物で總ての衣服の裁ち方を授ける。それは大變宜い方法ではないか。一反の反物で子供のものも大人のものも、或は袴も羽織も裁てると云ふことであるから大變好い。それは何う云ふ方法であるかと云ひますと、反物でいろ〳〵なものを稽古をしなければならないのであるから、裁ち切つて了ふのでなくして、即ち本當に切らずに、裁ち切らうと云ふ所にチャコを引く。例へば袖丈が一尺五寸と云ふならば三尺の所へチャコを引く。又袴も二ッだから其所へチャコを引く。又次に外のものを裁つ。即ち羽織を裁つ時には、其のチャコを消して了つて、さうして羽織の寸法に依つてチャコを引く。つまり帳面に書くのを布に書くのと同じことであります。さういふ風にすれば一反のものを切りもしないで稽古が出來る。大變好い方法だと云ふのです。併しそれは私は面白くないと思ふ。裁つと云ふことは縫ふと

云ふほどに技のむづかしいものではない。裁ち方の方は寧ろ知識に屬することであつて、よく考へて間違ひないやうに鋏を入れると云ふことが裁ち方の稽古である。チャコを引いて、それが惡るければ消して了つて更にチャコを引くと云ふことは面白くないと思ふ。其の點から考へると、チャコを引く裁ち方は餘り取柄がないやうに思ふのであります。でありますから、やはり紙などを用ひて裁つ方がよい。無論實物でするのと比較して見ると不完全でありますけれども、兎に角鋏を取つて實際に裁つ。さうして褪が違つたとか、衿肩を大きく開けたとか、或は下前に附ける衽を上前の方に裁ち違ひをしたとか云ふことのないやうに練習することが目的である。若し其の目的を缺く方法でありましたならば裁方教授に於て少しも取柄がないと思ふ。それでありますから、チャコを引くと云ふ方法は面白くない。さう致しますと、前に申しましたやうに實物のない場合には紙で裁つより外仕方がない。

又實際教授をなさるお方は、實物の有る生徒もあり、無い生徒もあつて實際困る。斯う云ふ風な話もあります。實物を裁つと云ふことは紙に裁つ時より餘程時間が長くかゝります。取扱ふものが大きい。さういふときには又遲速を生じて困る、と云ふやうな考へでありませうが、其の時に紙を裁つ子供には二枚課してもよくはないか。さうすれば多少違つた應用的の問題を拵へて置きまして、一枚裁つて了つたならば次に斯う云ふものを裁つと云ふ風にしても宜しいかと思ふ。一度裁つたらもうそれで十分であると云ふものでないから、多少違つたものをもう一題させると云ふことは決して不可能でない。さうして矢張時間を揃へて行くと云ふやうなことにしたら如何でありませう。紙にいたしますと二分の一に裁つ。斯う致しますと物差の關係です。一體從來雛形の物差と云ふものがありますけれども、それは使はない。御承知でもありませうが、明治三十九年に文部省からして其れを使つてはならないと云ふ通牒が普通教育を致す各小學校或は師範學校などに參りまして、其の後は使ふことが出來なくなつた。或は皆樣方の中にはお使ひになつた方もあるかも知れませぬが、近來は殆ど使ひませぬ。つまり雛形の物差を使ふと云ふことは距離の觀念を混亂するから使つてはならないと云ふことになつて居るのであります。二分の一のものであつたら是は二分の一だ

と云ふ風に子供に心得させますから、距離の觀念を混亂することがない。鯨尺の二分の一と云ふ場合には一寸間違ひ易いから、一分の所へもう一ッ五厘づゝの目を盛つた物差があります。或はそれが兩方あつて紛らはしいから片方だけ五厘づゝの目を盛つても宜しいがさう云ふのは見えませぬ。兩方に五厘づゝの目を盛つたのは見ましたが、片方だけ五厘づゝの目を盛つてあつて、片方は一分の目が盛つてある。さういふものを使へば大變便利であると思ひます。さういふものを使つて紙で裁つ場合に、五厘づゝを一分と考へさせると云ふことに致しましたならば、勘定も間違はず、最も簡便な方法ではないかと思ふのです。餘り小さく短縮致しますと却てよくないことがある。五厘位の違ひならばそれは大抵な人に分かりますけれども、十分の一なんと云ふことになると隨分分かり易い。分かり易いけれども、一寸を一尺と考へるなんと云ふことであると、少しばかりの差は分からなくなる。コンパスでゝも量かつたら分かりませうけれども、コンパスで量かつて裁ち物をして居る譯にも行きませぬ。さういふ次第でありますから、矢張二分の一位に短縮するのが最も適當であると思ひます。

第十五章　教授の形式

教授細目が定まり又時間割等も定まつて愈〻教授を始めやうと云ふことになりますと、教室に於ける教材の取扱方即ち教師と生徒との間に行はれる所の教材授受の作用が其所にある譯であります。それを教授の形式と申すことは皆樣方も大抵御承知であらうと思ひます。教授の形式は、之を大きく別れば注入的と開發的との二樣になります。教授の形式を或は教式とも申します。注入的教式には提示式とか、示範式とか、講演式とか云ふのがございます。開發的教式の中には發問式とか、對話式とか云ふことを普通に申します。つまり其の五つになりますが、之を約めれば矢張提示式、講演式、發問式の三つにすることが出來るのであります。提示式の方では、實物とか、標本とか、或は模形とか、繪畫抔を提示致して兒童の直觀に訴へるのです。固より提示する所の其等のものは明確でなければならない。而かも複雜なものは複雜なもの、簡單なものは簡單なものと各〻繁簡度を得なければなりませぬ。提示式は裁縫の教授などに於きましては多く用ひられる教式で

あります。それから講演式は教師が講演を致して兒童或は生徒が聽いて居るのです。矢張裁縫教授に於きましても、教材の種類に依つては講演式を用ひる場合が澤山でございます。他の國語の講義などのやうに講演をすることは少ないのでございますが、然し全く無いと云ふ譯ではありませぬ。其の場合には言語が明瞭で子供に理解し易く又記憶し易いやうに講演をすることは無論肝要であります。それから發問式の方は、是は文字の通りでありまして、教師が問を發して兒童が答へると云ふのであります。是は問の意味が明瞭であり且つ問の中に答の含まないやうにする、或は問が兒童の力に相應して居らなければならない。兒童が思考の値打のある問でなければならない。此の問答教式は一般の學科に共通することで、どの學科に於ても最多く用ひられる教式でございます。

斯う云ふ風にいろ〳〵な教式がありますが、實際の教授の場合に於きましてはどの教式のみを使ふと云ふことはなくして、此の三ッの教式を混用して、或る場合には問答式に依ることもあり、或る場合には提示式に依ることもあります。唯、其の教科の種類に依りまして、提示式が多いとか、講演式が多いと云ふことはありませうけれども、實際の場合に於て多くは混用するものであります。教式に於きましても裁縫科の教式は特に斯う云ふことでなければならないと云ふことは、今教式のところで別にお話することはありませぬ。斯樣な種々の教式があつて之を混用すると云ふことを申上げるだけのことであります。

第十六章　教授の段階

教授の段階の定め方は、御承知のやうに教授の實際に最も關係の深い而かも大切なことであります。教授の理論は澤山ありますけれども、實際の教授に於きまして最必要を感ずるものは此の教授段階を定められることである。でありますから、此の段階の研究は學者或は教育者の間にいろ〳〵行はれて居ります。隨て其の命名した所の名稱も一樣ではない。段階の詳しいお話をする必要はありませず又さう云ふ遑もありませぬ。時がありましたならば、なか〳〵面白いことが澤山ありますから御研究なさつたら宜からうと思ひます。

裁縫科の段階はそれでは何う云ふ風に定めたら宜からうかと云ふことになり

ますが、一體裁縫と云ふものは御承知のやうに技能的の教科であります。單に裁縫は何う云ふ性質の教科であるかと云ふならば技能的教科であると云ふ風な答を致します。併しながら各教材の内容をよく調べて見ますると、裁縫は技能の教科ではありますけれども、其中には單に知識丈を授與すると云ふやうな教材も隨分澤山あります。單に技能を與へずに知識のみに止めて置くと云ふやうなものも隨分ある。一例を言ひますると、材料の品類、性質を教へる。毛織物とか或は木綿とか云ふやうな品類を教へる。毛で織つたものをいろ〳〵提出して示す。又絹で織つたものを見せると云ふやうな場合は其れを實習すると云ふ譯ではない。唯〻示して知識として與へるだけのもので、それが實習の値がある譯でもない。又毛織物の性質を教へるとか、或は絹物の性質を教へると言ひましても、それは實驗して見せるのでありまして、例へば絹は保溫の力が多いとか木綿は毛織よりは保溫の力が少ないとか云ふことを實驗して示すことはありませうけれども、それを實習して何うと云ふことはない。裁縫の教材と云ふものは皆悉く實習する技能的のものばかりではない。でありますから私は教材に最適當な教段を定めるならば是を二樣に定めたいと思ふのであります。

即ち單に知識的の教材を要する場合には一般に知識的段階に依るのであります。其の段階も細かく分けるのもあり細かく分けないのもあり、いろ〳〵ありますが、裁縫の段階としての作用は、豫備、提示、應用と、此の三段にしたい。それから主として技能を授與する場合には、實習、準備、示範と、此の三段にしたい。此所で豫備と準備とはどちらでも宜しいのでございますが、技術を主とする場合には外形上の準備が必要であります。道具を出すとか、指貫を箝めるとか云ふやうな外形上の準備でありますから、豫備と準備と區別して唯〻段階の名を異にするだけであります。實際は豫備と云ふことは、豫め備へると云ふのでありますから、文字の意味から言つたらどちらでも宜しいと思ひます。名を異にして置きますのは外形上の準備を主としてさせると云ふ意味からであります。さうすると前の知識に屬する方の教材を授與する場合には、豫備の段に於きましては一般の知識的教科と同じでありますから、目的を指示するとか、舊觀念を喚起するとか云ふやうなことをして、此の場合には多くは問答教式を使ふ。さうして兒童の思想を整頓する。

次に提示の段に於きましては、是れから授けやうと云ふことを說明するのでありますから、其の時には、實物とか、模型とか、繪畫、標本などを持つて來て、兒童の直觀に訴へまして、出來得るだけの方便物を使ふ。且つ教師がそれに說明を加へて十分了得させる。即ち教式の上から言ひまして此の場合では提示式を使ふ方が多いと思ひます。さう致しましたならば、尙前に教へた事柄と比較して其の異同を確かにし、要點の問答などをして知識を確實にすると云ふことが之れが一般の知識的教材の仕方と同樣であります。次は應用の段に於きましては、前に教へた原理を擴張していろ〳〵應用させると云ふことが主であります。前に一ッ身の裁ち方を教へたならば、丈を長くするとか、幅を廣くすると云ふやうな問題を出して應用を試みるのであります。若し一ッ身でも形の全然違つたものならば應用することは出來ないだらうと思ふ。例へば普通の裁ち方で一ッ身を教へて置いて、それを半幅のものに對して應用することは出來ない。即ち裁ち方の形式が全で違つて居るのであるから出來ない。さういふ場合が澤山あります。一ッ身に限りませぬ。三ッ身でも普通の三ッ身の裁ち方を教へて置いて、之れで片面ものゝ裁ち方をなさいと云ふやうな應用は子供には出來ませぬ。袖を取るやうなことは同じでありませうけれども、其外の點が違つて居りますから應用させると云ふ譯に行かないのであります。唯、前に教へた範圍內に於て擴張して授けると云ふ丈が應用に屬する問題であります。

昨日は教段の中の知識的のことを授ける場合は何う云ふ風にするかと云ふことを申上げました。今日は其續きで、技能の授與を主とする場合にはどんな教段に依て、其の働きは何う云ふ風にするかと云ふことを申上げます。此の場合には、昨日も申したやうに、準備、示範、實習と云ふことになるのであります。其の準備と云ふのは主として外形上の準備である。多少說明も加はるのでありますけれども、先づ其の日の教授に必要な道具とか用布などを揃へる、或は姿勢を正しくすると云ふやうな準備をする。縫ひ方を始めやうと云ふときに、鋏がないとか、針が不足だとか、或は相當した糸がないとか云ふやうなことになると、隣から鋏を借りやうとか、友達から糸を借りやうとか云つて、自然教室が混雜になりますから、仕事をしやうと云ふ前にチャンと整理して置かなければならない。仕事をするに少し

も差支へのないやうに自分で準備して置く。時に依ては教師が思想を整頓をして即ち知識を整理する必要もありませうし、或は其れがなくつて前の續きを縫ふに留まることもあるかも知れませぬ。例へば前に片袖を縫ふ。其の次の時間に道具を揃へて又片袖を縫ふと云ふことがある。其の度毎に詳しく話をしたり問答したりして縫ふと云ふことはしないでも宜からうと思ひます。前の續を縫ふときに子供の記憶は何うだらう一度記憶を試して見やうと云ふ場合には、それは問答することも説明することも必要でありませうけれども、さうでないときには、餘り教授の度毎に問答したり説明して居りますと實際の仕事が後れて仕方がない。隨分教生などの授業を見るとさう云ふことがございます。教生は自分の稽古であるから據所ありませぬけれども、問答や説明が多過ぎる爲めに却て實習の時間が遲れて困ると云ふことがあります。從來の裁縫教授は説明などはない。殊に仕立屋の師匠なんと云ふ人は、自分の縫ふところを見てお覺えなさいと云ふやうな教へ方であつた。其れは宜しくない。けれども又近頃は餘り理窟の方が勝ち過ぎる。皆様の教授には決してさう云ふことはありますまいけれども、高等師範あたりの理窟の多い學校では、餘り理窟に偏つて其れが爲めに實習の時間を殺がれると云ふことがあります。どちらも惡るい。餘り理窟に偏つて實習を等閑にすると云ふことは裁縫科の主要の目的を殺ぐ譯になるから其れは困る。又説明すべき所を説明しないで、唯子供に自由に縫はせると云ふことも宜しくない。孰れも宜しくないのであります。先づ裁縫は矢張實習に重きを置かなければなりませぬ。理窟ばかり如何に巧みに言ひましても手が廻らなければいけないから、成可く實習の時間を多くしたい。例へば四十五分あるなら其の三分の一を説明に費やすと云ふことは多いと思ひます。十分間即ち四分の一位説明をして、あと四分の三位をば實習に費やす。斯う云ふ風でなければいけませぬ。如何に初等教育と言ひましても、實習を等閑にして説明のみを餘計にすると云ふことは宜しくない。其の結果と申す譯でもありますまいが、小學校の生徒や女學校の生徒は、口ではなか〳〵上手に言ふけれども手が叶はないと言はれて居る。まあ口の方が餘程發達して居る。技術より口ばかり發達しても宜しくないから、成るたけ實習に時間を與へると云ふ考を有たなければならないと思ひます。それであり

ますから、不用の問答などをして餘計な時間を費やしたくないのであります。

次に示範と云ふ教段になりますと、其の作用は實物とか、標本とか、或は繪畫のやうな模範を示して子供の直觀に訴へる。知識を授與する場合でも、矢張繪畫とか標本は必要でありますけれども、殊に示範のときの繪畫標本と云ふものは、其の者を直ちにお手本とするので、大體の形狀を會得させるとか、大體の觀念を與へるため或は感情を惹起すために見せるのと譯が違ふ。圖畫のお手本と同じやうに、其れを直に模して自分も旨く縫はうと云ふのでありますから、其の模範は極めて善良なものでなければなりませぬ。大體の觀念を與へるだけに止まるならばザッとしたものでも宜しうございます。標本でもザッとしたもので形さへ出來て居れば宜いが、それは然うでない。お手本にするのであるから粗く縫つてあるならば子供も粗く縫ふでありませうし、留め方がぞんざいであれば子供も其の通りでぞんざいにする。お手本とするのですから、其の積りで標本を拵へて與へなければなりませぬ。無論標本の通りにするには何うすれば宜いと云ふ要點を詳しく說明してやらなければなりませぬ。技術と云ふものは、いろ〳〵手の使ひ方即ち手つきと云ふものがある。何う云ふ手つきをしてやれば旨く出來ると云ふやうなことがあるさういふことは標本では見られませぬ、又口でも言表はし難い。でありますから、教師の手つきを實際にして見せるより仕方がない。斯う云ふ手つきをすれば成程旨く出來ると云ふやうな手の振りを見せると云ふことも必要でありませう。でありますから、此の段に於きましては標本や實物或は繪畫などを示すばかりでなく實際にして見せることが必要である。尙十分に說明を加へると云ふこともあります。それがよく分かりましたならば、次には實習と云ふことになります。實物に就て與へられた所をお手本にして實習させる。唯、口で言ふところを聽いただけでは忘れることがあるから、矢張お手本を前に置いて模倣させるのです。尤も說明をするときには手本と比較をして說明しなければならないと思ひます。

さういふ風に主として知識のみを授ける場合と技能を授ける場合と教段を異にすると云ふことに致しますれば、其れは各教材には適切になるが、さういふ風に一教科で段階を各〻異にするのは煩雜であると云ふやうな論もあるだらうと思ひ

ます。併し教科に依つては幾らもさういふことが他にもございます。例へば國語でも、讀本を教へるときと書方を教へるときの段階は一樣でありませぬ。さういふことは他の教科にも幾らも見えますが、併しそれは一向差支ないと思ひます。兎も角も小學校の教科と云ふものは數が澤山ある。其れを各〻其の教科に適切なる段階を定めると云ふことは煩雜である。でありますから、學校に依りましては、段階などを幾種にも分けずに一ッで極めてある所もあるかも知れませぬ。今日多く用ひられる段階は其の一ッにした所の總括的の極廣い段階である。其れは豫備、整理と云ふ作用に分かれて居ります。教授の段階と云ふものは餘程議論もあることでありますから、それは私共が彼是批評すべきでなく、各〻の教育學者が研究して居られることでありますが、兎も角もさういふ段階も矢張世の中には行はれて居るやうである。總括的段階とすれば亦其れは宜しうございます。豫備作用では何う云ふことを含むかと言ひますと、總括的段階であるから外形上の準備と、舊觀念の喚起、目的指示と云ふことが其の仕事になつて居ります。教科に依ては單に外形上の準備に留まるものもありませう。又舊觀念を喚起しなければならないものもありませう。さうして目的を指示する。それだけのことが豫備作用の中に這入つて居る。裁縫科に於てはどれでも宜いので、或は舊觀念を喚起することもあり、外形上の準備だけに留まることもあるのでありますから、其の教材に依て皆悉くしなければならないと云ふ譯ではありませぬ。唯〻段階を定めると云ふだけで、不用のものは缺いても宜いのです。

其れが提示の所では何う云ふ段階になるかと言ひますと、新教材の授與、提示せる事項の練習。新教材と云ふことは是は提示に於て示範と言ひましても矢張新教材の授與に違ひない。善良な模範を與へて其れに模倣せしむると云ふことは矢張新教材を授與することに違ひないのでありますから、それも別に異論はない。裁縫の教授に於て矢張其の通り致して居る。單に知識だけを授與することもありませうし、或は善良な模範に依て技術を授與することもありませう。さうして教授致した事項を練習させる。例へば唱歌のやうなものでは、初めに教師が歌つて聽かせる。さうして說明を與へる。次には子供が出來るか出來ないか歌はせて見る。それから次に整理の段階に行きますと、練習をする學科もあり練習しない

學科もありませうされども、整理の段は是は總括的の段階でありますからいろいろなことを入れてあるのです。學科に依つて種々になりますから、整理は何ら云ふことを含むかと言ひますと、應用、練習、復習、適用と云ふやうなことが這入るのであります。單に知識の應用のみに止めるものもありませうし、技能的教科で幾度も練習させる場合もありませうし、又復習させることもありませし、學科に依て各〻異なる譯でありますから、整理の段階では成可く廣くしてどの學科にも都合の好いやうにすれば宜いのです。さういふ風の段階でありますと極めて內容が廣いものでありますから、どの學科でも、唱歌でも裁縫でも國語でも修身でも皆此の段階の中に入れてやることが出來ます。それに斯う云ふ風に總括的段階を極めて置けばどの學科はどうしなければならないと云ふ面倒がありませぬから、或は斯う云ふ風にして居る學校もありはしないか。又現在さうでなくしても段々さういふ段階を用ひることが便利に思はれるやうになるかも知れない。裁縫科にしてもどの段階でも無論當箭まると云ふことになります。今日皆樣に教案の例を差上げてございますが、それを御覽を願ひます。

單式教授案例

尋常第四學年

第何學期第何週

一、教材　本絎　豫定時間　二時

二、目的　本絎の方法を授け、其の技能に習熟せしむるにあり。

三、教具　本絎の針づかひを擴大して示したる圖

　　並に其擴大標本

　　各兒童に貸附すべき本絎の模範標本

四、方法

第一　準備

本題の教授に必要なる用具、卽ち針箱・鯨尺・二尺五すの運針用布を出して、所定の順序によりて机上に整頓せしめ、後二回程、素縫の練習をなさしむ。

次に目的を指示して、左の問答をなす。

絎け方には幾通りありしか。

三つをりくけの仕方は如何にせしか。

又その針目のあらさは。

衍け方につき注意すべき諸項は。

第二　示範

豫ねて用意したる本衍の掛圖、及び標本を示して能く觀察せしめ、衍代の深さ、針目のあらさ、待針の打ち方、衍け始め、及び衍け終りの糸の留め方等を、これと對照しつつ説明し、次に本衍の模範標本を各兒童に配布して、更に十分觀察せしめ、尙ほ此の衍け方は如何なる處に用ふべきかを問答的に説示す。

説明

1、用布の縱の兩側を二分五厘の深さに眞直に裏の方へ折り、これを幅の中央より二つに折りて前の折り目とよく合せ、布目の歪まぬ樣に注意して、四五寸おきに待針を打ち衍け方の用意をなす。

2、用布の長さより二三寸長き糸を針に通して、一端に留め結をなし、三つをり衍の時の如く、衍目を上にして、右手の手前の方より一針逆に出し、五厘程の著せにて向ふがはと衍け合せ、手前を四分向ふを二分位の針目にて、二針程衍け、右端を掛針にて張る。

3、手前と向ふかはとを一針づつ衍け合はする毎に、針を拔きて糸をひき、ながればり、しらばり等の出來ぬ樣注意して衍け行き、終りは一針戻して著せの中にて打ち留めをなす。

第三　實習

準備したる布につき、説明の順序によりて、先づ本衍の用意をなさしめ、後配布したる模範標本に倣ひて衍け行かしむ。

此の際、教師は机間巡視をなして、其の良否を檢し、批評を加へ、或は自ら衍けて模範を示し、十分收得せしむべし。

かくて一回實習し終らば、更に他の用布にて、今一度練習せしむべし。

一同衍け終らば、姓名を附してこれを出さしめ、その成績を檢し、批評を加へて返附すべし。

教授時間の配當

第一時　説明、示例並に實習一回

第二時　前回の實習に就きて批評及び練習一回

之を御覽下されば只今申した教段を何う云ふ風に教材に適用して教授方法其の他を極めてあるかと云ふことがお分かりになると思ひます。單式の教案ですから唯一組にした時の教授の例でありますす。是は主として技能を授與する場合の例になつて居ります。知識の方のことは他の學科と餘り變りがありませぬから例をお目に懸けませぬけれども、裁縫科の裁縫科たる特色のある所の例としてお目に懸けたのであります。教材は題目と書くこともありませうし教授事項と

書くこともありませう。目的は或は要旨と書くこともありませう。それから教具は大抵の教科には要る場合が多いと思ひますが裁縫科には殊に教具が要るのであります。何う云ふものを使つて教へると云ふことが必ず要るのであります から、教具は何々を使ふと云ふことが書いてある。之は或は準備とも書きます。何う云ふことを準備すると云ふ爲めに準備と書いてあることもあります。どちらでも名は宜しい。其の次には方法です。前に教段の所で申上げましたのはつまり方法でございます。教授の方法を幾つの段階に別けると云ふやうなことになるのでありますから即ち方法です。

方法を三つに分けてあります。第一が準備、第二が示範、第三が實習と云ふことに致してあります。其の第一段の準備と云ふ所は前に申しましたやうな外形上の準備であります。第二段の示範と云ふ所は標本を示す、又其の標本に就て說明をする。說明を書きまぬと教案を見る人が困ります。どんな風に教師が說くのであるかと云ふことが分かつて居らなければなりませぬから教師の說き方の概略を書いてあります。之は教科書のやうなものがあれば、教科書の通りとか、何頁から何頁までと云ふやうなことでも宜しうございませうけれども、裁縫科には教科書がない。小學校の裁縫と云ふものはむづかしいことをする譯に行きません成可くやさしく仕事をさせることに致さなければなりませぬから、分かり切つたことでも、何う云ふ風に說くと云ふことが書いてありませぬと教案を見る人が困る。併し其の教案を見る人が、小學校の裁縫だから斯う說かなければならないと云ふまでに心を入れて直して下さる方ならば大變都合が好いのでありますけれども、御承知のやうに、多くは教案を見る人は男の方が多いので其れまでに深く氣を付けて見て下さることが少ないから困るのです。けれども教師は油斷をする譯に行かない。又成可くすべきこと丈はして置く方が宜いと思ひますから、見て下さる方は何うでも矢張書いて置く方が宜からうと思ひます。自分の他日の參考にもなります。第三段には實習であります。其の次に教授時間の配當のことが書いてございます。實習は昨日も申しましたやうに、長く時間のかゝるものは、二時間とすれば其の一時間にはどれだけの仕事、第二時間にはどれ丈けの仕事と云ふことに區分してある。さういふ風に致したいと思ふ。さうすれば教授を揃

へて參りますのに大變便利です。

第十七章　材料品

材料品と云ふことは、一體是は私が勝手に附けた名であります。唯〻教材と云ふと間違はしないかと思ふのです。教授材料と云へば教材即ち教授事項と云ふことでありますが、材料がないと言ふやうなことになつたり致します。よく材料は新らしい品物と云ふやうに考へて居りますけれども、さういふ意味でなくして、材料は即ち取扱ふ品物と云ふ意味を確に表はさうと思ひましてそれで材料と云ふことに致しました。

一體裁縫科に於きましても學級教授でなければならないから自然一齊教授になると云ふことは皆樣方もよく御了解のことと思ひます。でありますが唯〻一齊教授はいろ〳〵な便利上經濟上等の都合の爲めに出來難いと云ふことを亦多く聞きまして、實際に於て成績裁縫科の一齊教授は困難であると思ふこともありまして實際教授して居らつしやる方々に御同情することも澤山あるのでございま

す。それは何が一番困難な點であるかと言ひますと遲速を生ずると云ふことでありますが、又もう一ッは、材料品が一齊に揃はないと云ふことも實際教授者の不便とする所であるやうに思はれます。其れならば材料品を如何に取扱つたならば宜いか、即ち一齊教授を厲行して行くことが出來るか、それを考へるのであります。我國では、學校の教授を受する者は、讀本に致しましても、或は雜記帳に致しましても、大抵兒童の方で支辨すること、となつて居ります。亞米利加あたりでは小學校の生徒は學校へ身體さへ持つて行けば書物でも道具でも皆揃つて居る。州に依ては中等程度の學校に於ても皆書物抔は揃つて居る。身體さへ持つて行けば勉强が出來るやうな風になつて居るさうであります。我國のやうな貧乏國はなか〳〵さうは參りませぬ。多くは兒童の支辨でありますから、つまり材料品が整はない。持つて來いと言つても持つて來ない者があるから一齊教授は出來ない。斯う云ふことになりますが、是を救ふ方法としては何う云ふ風に致したら宜いか。成可く教師が無駄な費用を使はせないやうに材料を節減する。併ながら何うしても縫ふものがなければ縫ふ稽古は出來ないのですから、節減と言つた所

がさう小さい人形の着物のやうなものばかり縫つて居る譯には行かない。でありますから、前に述べました部分縫用布などを巧に利用すると云ふことも其の一ッであります。部分縫用布を利用しますには、尋常小學校で子供に新規に持つて來いと申しますものは、一ッ身の筒袖の單衣位の、丁度八尺か九尺位の用布があれば、それと部分縫用布とで全部教授することが出來ると思ひます。さう云ふ風に儉約して行きましたならば自由に材料品を揃へることが出來はしないか。或は雛形などを用ひれば大變利益になると云ふ說があります。例へば雛形であると凡そ三分の一位に當つて居ります。先づ一丈要るものならば三尺位で宜しいと云ふやうな風になりませう。幅も亦三分の一になりますから、一丈要るものであつても三尺でなくして一尺五寸(六分の一)位になる、或は一尺八寸位のものがあれば宜しい。單に費用の問題から言へば雛形の方が經濟になるやうであります。或は雛形教授の方が小學校の子供に適當ではないか。大きなものを小學校の兒童に取扱はせるのは無理であると云ふ議論もありますが、それは間違つて居ると思ひます。雛形を拵へてそれを實地に大きなものに應用させると云ふことはなかく〳〵むづかしい。やさしいものを應用することは出來ますけれども、裁縫の技術のやうなものは、極く小さいものであれば取扱ひが便利であるからそんなにむづかしくない。大きいものを縫ふとか、幅の廣ひ丈が長いと云ふために困難であるのです。でありますから雛形の小さいものに依て稽古した技は大きなものを取扱ふ技に格別な効力はないと思ふ。大きいものになつたときには矢張新規になつて、其の取扱ひが違ひますために亦困難を感ずるのであります。縫ひ方の稽古には雛形と云ふものは餘り効力がない。さうすると唯、經濟の一方であります。つまり廉く買へると云ふのです。併しよく考へれば、決して廉くはないのです。買ふときの値段は廉くありましても、雛形であるから實際の用に立たないと云ふことを考へますれば矢張結局は無駄になるのであります。實物であつたら古着として賣つても宜いかも知れない。稽古に使つただけで一遍も着ないのですから、賣つても多少の價になりませうし、又賣らないで自分の家で用ひるとか、或は餘所へお遣物にしても其れだけの値打を爲すのです。けれども雛形でありましたならば何も用を爲さない。さう云ふことを考へますと買ふときは廉いやうであ

りましても矢張實際は高いことになる。十錢なり十五錢なり使つても全く無駄になつて了へば高い。四十錢使つても五十錢使つても其れだけの値打を爲せば廉いと云ふことになる。さうすると經濟上から言つても餘り感心しない。技術に對して得る所もなく經濟上に於ても利益のないものであつたならば雛形と云ふものは洵につまらないものである。そこど雛形の物差を使はないと云ふことになつて居ります。三分の一の從來の雛形では無論いけませぬ。マア裁ち方ならば二分の一でも宜しいけれども、實際の雛形として其れに依て稽古するには、成可くは二分の一などと云ふものでなく、二分の一位に相當した小さい衣服があるのでありますから、さういふものに依て教へて行くやうに致したい。さういふ風に考へますと、雛形教授と云ふことは一向用を爲さないやうに思はれます。

用布を巧に利用すると云ふことゝ、もう一ッは、一ッ身の一枚位の材料があれば宜しい。用布と云つても、六枚一度に備へる必要はない。三年に一枚、又四年に行つて一枚と云ふ風にして、追々に六枚揃へるのです。さうしますと小學校に於て裁縫の材料のために使ふお金は僅かなもので濟むと思ふのであります。前に申上げましたやうに、六枚の部分縫用布と言つても、それは着物の古いものでも宜いのでありますし、或は丈が短ければ繼足しても構はないのでありますから、格別な費用を要さない。八尺か九尺位の用布は、それは縞でも宜ければ形附でも宜い、或は無地でも宜いと思ひます。無地でありましたならば、後にそれが不用になつたときに、幅の狹い所は接ぐとか短い所は足すと云ふことにして肌襦袢などにすることも出來ませう。其の價は僅なものです。例へば晒木綿とすれば、八尺買ひましても十七八錢から二十錢位なものです。尋常小學校に參りますものでも、大抵讀本は二冊づつ要る。修身の本も買はなければならないと云ふやうな譯で、皆其れ〴〵の教科に於て十錢や二十錢のお金は使ふのです。裁縫に於きましても材料品の爲めに十錢二十錢を使ふのは仕方がないと思ひます。又さういふことで稽古が出來ると致しますれば、材料品が揃はないために裁縫の一齊教授がむづかしいと云ふ論は何うしても立たないやうに思はれます。若し其れさへも出來ないと云ふやうな民度の低い土地に於きましては、學校で多少の校費を以て用意して置くと云ふことも必要ではないかと思ひます。學校では何の教科でも多少の

設備を要する。理科に致しましても、歴史に致しましても、必ず多少の設備は要するのであります。獨り裁縫科が何等の設備なくして十分に教授が出來ると云ふことは無論出來ない。女子のためには裁縫が一番大切であるのでございますから、裁縫科のためには多少の費用を與へて下さつても宜いと思ふ。例へば他の學科の設備のために毎年十圓づゝの豫算を組むならば、裁縫科のためには十圓なり十二圓なりの豫算を組んでお貰ひ申しても宜くはないかと思ふ。衣服の洗濯を教へるとか、解き方を教へるとか、或は保存方法を教へると云ふ場合には矢張いろいろの衣服が要ります。又常の教授の時でも、實物と對照しで教へるときには矢張いろいろの衣服が必要です。其の度毎に教師が自分の着物を持つて來て教へる譯にも參りませぬから、何うしても學校に備へて置いて、材料品のない者は其れを以つて皆と一緒に縫はせることに致したら宜からうと思ひます。又時には標本に用ひることもありませうし、保存方法を教へるために實際の取扱方とか疊み方を教へることもありませう。又解き方を教へることもありませう。それだけの衣服がありますれば教授の上にいろ〳〵利用して大層な便利を得るのであります。それは一度に用意することも出來ませぬから、毎年五枚づゝ用意するとか十枚づゝ用意すると云ふことに致せば結構であります。一度に百枚も用意なさいと言つたら學校でも困りませうけれども、さういふことは決して望まない。兎も角も校費を以て多少の用意をして下さいと云ふことは決して學校に向つて無理を申す次第ではないと思ひます。よく先生方が、何うも學校で何等の用意をして呉れませぬから私は自腹を切つて是れだけのことを致しましたと云ふやうなことを伺ひますけれども、其れよりも矢張裁縫教授と云ふものは斯かるものであると云ふことを熱心にお話なさる方が宜からうと思ふのです。私が知つて居りまする或る中等學校の教師は、學校にミシンが欲しいから豫算に組んで貰ひたいと言つた所が、縣廳では何うしても組まないので、其れから縣廳へ行つて泣いた。餘りの熱心に感心してミシンを二臺買つて下さつたと云ふ話ですが、さういふ風に矢張熱心にした方が得のやうですネ。私は是がなければ教授が非常に不便である、僅か五十圓や六十圓のお金が出來ないかと言つて、縣廳へ二度も三度も行つて泣く。夫れは惡るいこともない。それだけの熱心があると云ふのは感心なん

です。そんな譯で、學校で用意して貰ふと云ふことも一ッの方法であります。又民度が低いと言つても、十錢や二十錢のお金のないと云ふ者が村中皆揃つて居る譯でもありますまいが、兎も角も學校で備へて置くと云ふことが亦必要でございます。

只今部分縫用布を利用して、其の外に一つ身の單衣だけの材料があれば尋常小學校の裁縫教授が出來ると申しましたが、さういふことを言つても嘘だと仰しやるかも知れませぬから、お手許に差上げてある教材に依つて調べて見ませう。

尋常三年では主として基本的の技術を授けるのでありますから、無論要りませぬ。運針用布があれば十分であります。尋常四年に參りまして第一學期の所で糠袋及風呂敷と云ふ教材が要ります。糠袋は何所でも使ひますから、大抵な家庭には其の材料品はありませう。又買つても僅なものです。風呂敷は是も大抵の家にはありませう。極く貧乏な百姓家なんぞでは無いかも知れませぬが、先づ大抵はある。運針用布を二枚合せても宜からうと思ひます。二枚合せて眞中を縫つて三つ折にさせると云ふやうなことに致しますれば、風呂敷がなければ持つて來なくてもよい。有る家庭の子供は持つて來る。それから雑巾ですが、之れも大抵な家庭にはある。却て襤褸ばかり多い家庭であつたら雑巾の材料品は餘計ある。次に二學期に參つては前掛を縫ひます。前掛も二尺五寸の運針用布で間に合ひます。一尺五寸のものを二枚接いで縫はせると云ふことにしても、少しは長いですけれども間に合ひます。形は少し惡くつても方法を教へるのですから別に障りにはならないと思ひます。それから一ッ身の襦袢の部分縫ひは之も部分縫用布で出來ます。次に第三學期に參りまして一つ身の襦袢の仕立方を教へる。其の時には半身づゝ二度に縫はせることに致したら宜からうと思ひます。上前を先きに縫はせて、それから家庭で解いて來させて下前を更に縫はせると云ふことに致したら宜からうと思ふ。次には尋常五年に參りまして本裁ちの襦袢を教へます。本裁ちの襦袢も矢張一ッ身の襦袢と同じやうな用布の使ひ方で宜しい。夫れから肌襦袢の練習と云ふことがあります。肌襦袢は袖などを附けないで宜いのです。是は矢張家庭に有る者は持つて來たら宜いでありませうが、無い者は前に縫つた襦袢を解いで矢張半身づゝ縫はしても宜いと思ひます。第二學期に

參りまして一ッ身の單衣があります。それは濶袖と筒袖とありますが、筒袖の分だけ持つて來れば宜い、即ち八尺位持つて來れば宜い。濶袖の方は二尺三寸の半幅の用布があるからそれで濟みます、一ッ身の稽古は無論出來ます。一ッ身であれば尺が短くつて宜いのです。いつも半身づゝ縫はせると云ふことは事實に於ては餘り出來ませぬが、裁縫は左右の前を揃へるとか、幅を揃へるとか、衿下の長さを揃へると云ふやうに、左右を見て縫ふと云ふ必要もあります。其所で偶には全身を縫はして、丈は何う云ふ風に較べるもの、幅は何ういふ風に較べるものと云ふやうなことも教へなければなりませぬから、茲に一ッ身の單衣の全身だけを買はせるのです。それから次には子供帶の仕立方と云ふのがあります。子供帶は矢張二尺五寸の運針用布を二枚接いで縫はせる。子供の帶であるから何れ丸帶のやうになりませうさうして二尺三寸の半幅のものを心にする。それは一枚心のことも二枚心のこともありませうけれども、布が餘計ないのでから一枚心として教へる。斯樣なことに致しますれば子供帶仕立方も矢張運針用布で出來るのです。次には第三學期に於きまして三ッ身の單衣があります。三ッ身の單衣も矢張部分縫ひ用布で半身づゝ教へるのてありますが二尺五寸の布一枚を袖と致しまして、さうして二尺三寸の半幅の布と二尺五寸のもう一枚の布とを肩の山で接ぎまして、さうして是は三ッ身で山て縫つてありますから衽を附けるときには前が眞直になる。其の具合などを教へたいから肩で少し接いで其所へ衽を附けることを教へる。又もう一枚の二尺三寸の布がありますから、それを衽として、さうして一尺八寸の半幅の布を縫に二枚接いで丁度裏衿を附けることを教へる。斯う云ふ風に致せば三ッ身の單衣の半身が立派に出來ます。さうして初めに上前を縫はせて、更にそれを解いて今度は下前を縫はせると云ふことに致します。次に尋常六年に參りまして四ッ身の單衣があります。四ッ身の單衣も用布の使ひ方は前と同樣にして宜しいのてす。さうして矢張半身づゝ縫はせる。其れから第二學期ては一ッ身の袷と云ふことになります。之は濶袖を縫はせる。袷てすから何うしても裏がなければならない。そこて前に教へた一ッ身の單衣を背から切つて表裏に使ひまして、濶袖にしやうと云ふならば二尺三寸の半幅の用布を二枚袖の分として使つて、さうして袷の半身づゝを拵へると云ふ風に致します。

次には一ッ身の綿入てあります。是も濶袖にする。其の時には袷を解いて使ふ。綿は何うしても買はなければなりませぬ。

さう云ふ風に致しますれば、先づ尋常小學校では一ッ身の單衣の一枚分と部分縫ひ用布とがあれば宜いと云ふことになりますが、高等科に參りますと何うしても餘り困窮な家庭の者が居りませぬから餘程樂になります。唯〻尋常科と云ふ即ち義務教育だけが一番困難なのです。義務教育では材料品を儉約することが手數だと云ふやうなことは成可く言ひたくないと思ひます。いろ〳〵手數を掛けると云ふことがなくして出來れば宜いかも知れませぬけれども、困難なものは手數を掛けていろ〳〵すると云ふことが宜い、又さうしなければならない。お金持の人は新らしいものをドン〳〵拵へるでありませうけれども、然うばかりは參りませぬ。學校では手數を掛けずにスラ〳〵とすると云ふ譯には行きませぬ。矢張家庭の困窮なもので材料品を纏めることの出來ないと云ふものは、さういふ手數を掛けて勉强をし又覺えて行くと云ふことにしなければならないと思ひますから、さういふ風にさせるが宜からうと思ひます。併し是は據所ない場合でありまして、さういふことがなければ無論普通にして宜いのでございます。據所なければ斯う云ふ風に材料品を儉約してでも教授は十分に出來ると云ふことを申上げたのみでありまして、何でも是が一番好い方法だと申上げた譯ではありませぬ。

第十八章　教案の必要と其の種類

教案とは何う云ふものであるかと云ふことは無論御承知でありませうが、一ッの事項を教授するには其の教材の事項即ち何う云ふことを教へると云ふ事柄、或は其の教へやうとすることの順序方法などを前以て書いて置く。唯〻腹案ばかりでなく書いて置く。其れを教案と云ふのです。教案には精案と略案との別があります。さう云ふ區別を生ずると云ふのは一ッは教師の熟練の度如何に依る。つまり熟練な人と不熟練な人とある。初めて教授をしやうと云ふ人は無論不熟練であるし、三年も四年も教授をして居る人は熟練である。其の熟練の深淺に依り、又もう一ッは教材に依て精案を拵へなければならないものもありませうし或は略案で宜いものもありませう。教材の性質とか或は教材の種類とに依て皆取

扱方が同様と云ふ譯でありませぬから、隨て精案略案の區別が生ずる。成可くは精案を作くる方が宜しいのでありますが、裁縫の專科の先生として多くの學級を受持つて居らつしやる人はなか〳〵忙しいから、さう日々に精案も作ると云ふことは時間の上からも容易に許さないことではないか。教授の實際に於ては前に作つたら宜いかも知れませぬが、それは容易なことでない。又餘り案が精しきに過ぎますと却て教授の敏活を缺く場合もありませう。そこで教授に熟練しない人即ち學校を卒業して初めて教壇に立つやうな人に矢張精案を作つて置た方が宜いけれども、さもなければ略案て宜いと思ふ。御參考に御手許に差上げました のは精案です。必ずしも斯樣に毎時間くわしく案を立てなければならないと云ふことはないので、極くザッとしたもので宜からうと思ふ。私がもう一人の友達と一緒に拵へました「裁縫教本」と云ふものがあります。餘り略すぎて御參考にならないかも知れませぬが御覽を願ひたい。決して書物の廣告に申上げました譯ではありませぬが、ザッと書いてあります。其の例に據つたのでありますが、斯樣に極くザッとしたものでも宜しいと思ふのです。兎も角も案は立てゝ置かなければなりませぬ。

第十九章　教案調製上の注意

注意と言つても大したことはございませぬが、精案略案に拘はらず、順序方法を明かに書き、且つ方便物を記載して置きます。多くの教授が必ず方便物を要しますから、方便物の記載即ち何う云ふものを使ふと云ふことは必らず忘れないやうに書いて置いた方が宜い。例へば三年、四年、五年、六年と云ふやうに澤山の級を受持つて居ると、さう悉く記憶して居る譯に參りませぬから、帳面にでも書いて置きませぬと、是も忘れて來た、あれも控室に置いて來たと云ふことも生じますから、方便物の用意と云ふことは必ず必要でありませう。教授には必ずどれだけのものを準備すると云ふことを書いて置くのです。一體教案と云ふものは來週の分を今週拵へて管理者の檢閲を受けると云ふことは何れの地方でも普通でございます。けれども裁縫の教案などは毎週變るものでない。變る場合もありませうけれども變らぬ場合が多い。變るときには無論毎週立てなければならない。けれ

ども前にも申上げましたやうに、長い教材になりまして三週にも五週にも亘るや場合に置きましては、第三週から第六週までとか、或は第六週から第十週までと云うなふ風にして一度に案を立てゝ置て、つまり一教材の分を一度に立てゝ置ても宜いかと思ふのであります。教授の變化があつたときは教案と云ふものを必ず立てなければならないけれども、始終變化のないものを、毎週同じことを繰返して教案を書くと云ふやうな、そんな形式的な無駄な骨折は教師に望まない方が宜いと思ふのです。でありますから矢張一教材を一單元として教案を拵へる。唯、其場合には、前にも申上げましたやうに幾つかに區分しなければなりませぬ。下級の生徒は細かく區分する、上級の生徒は粗く區分する。其の區分したものを小單元にしたと云ふのでない。單元と云へば相當の概念を含んで居なければなりませぬか。ら、唯、どこからどこまで縫ふと云ふには一概念で縫ふと云ふことは出來ない。唯、區分を付けるのです。單衣なら單衣について、裁ち方とか縫ひ方とか、單衣と云ふ大きい單元によつて、或は標の附け方とか縫ひ方と云ふことの單元の附け方がありませうけれども、半分縫つてそれが一單元、もう半分縫つて一單元であると云ふやうなものではありませぬ。是もよく御承知でありませうけれども、教授の單元と云ふものはさう云ふものでない。でありますから一單元を終るまでは、時間が大變長くかゝるものでありました時には、其の一單元の全體を教案に書いて宜しいと思ひます、唯、其の句切をするだけの話であります。

さうして教案を作りまして、それから教授後の設備を書いて置くと云ふことも必要であると思ひます。併しながら教案は所謂豫定である。細目も豫定であるが教案も亦豫定である。必ず豫定の通り教授が進行するかどうか分からない。豫定を外れることがある。殊に裁縫のやうなものは實現をするものであるから、或は教師の思ふ通りに子供の手が運ばなかつたりして豫定の狂ふことが幾らもあります。それが何う云ふ原因で狂つたか。斯う云ふことを亦教授後に注意して教案に附加へて書いて置くのも必要かと思ひます。凡て人は何をしても日々のことを反省すると云ふことが肝要であります。家庭に居る人でも、自分の毎日したことを反省して、出來得るだけ德を積まうと云ふやうな考を起こすのが當然でありませうが、學校の教授に於きましても無論其の通りでありまして、今日の教

授が旨くいつたかどうか、或は豫定が狂つたか、何う云ふ原因で狂つたか、自分の問答が長過ぎて其のために時間を費やしたとか、或は説明の仕方が悪かつた爲めであるか、又標本の數が少なくつて皆に廻はらないで子供に分からなかつたか、と云ふやうなことを反省することが肝要であります。さうして反省して、此の學年には標本が不十分であるとか、或は又自分が教授に慣れなかつたかと云ふことを書いて置きますと來學期の參考になりますから、成るべくさういふ風にして、つまり如何にして自分の仕事を十分爲し遂げることが出來るかと云ふ念慮は始終有つて居なければならないと思ふのです。唯、學校に日々出る、荷物のやうに身體を運んで、同じ仕事を繰返して來たと云ふだけでは教育者としての値打は少ない。私共も常にさう云ふことを感じて居りますが、皆樣はまだお若く居らつしやいますからどうぞさう云ふことがなく、日々に反省して、昨日の教授より今日の方が進んで居り、去年の教授より今年の教授の方が尙巧みに行くと云ふやうなことになりたいと思ひます。それには何うしても教授後の反省と云ふことが肝要ではないかと思ふのであります。夫れだけのことが教案調製上の注意であります。

それから複式のことです。合級とか單級とか云ひますが、一體合級と云ふのは單級のことで、合級と云ふ名は要らないのでありますが、昔から合級とか單級と云ふことを言ひ來つて居る。二ッ組合はせたときは合級と言つて居る。三ッも四ッも組合せる時は單級と言つて居る。同じく複式の中であるからさういふ區別をしないでも宜いのでありますが、先づ昔から合級單級と云ふことを言つて居ります。さういふ場合に於きましては、矢張細目を調製するときにも教授作業の効が交互によく交代して教授力の進み方が何うか、平らに行つたか、或る級に餘計力を注いで或る級には無頓着であつたかと云ふことを注意しなければいけませぬ。複式教授がむづかしいと云ふのは其の爲めである。單式の教授は仕易いが、複式の教授はむづかしい。であるから複式の方の教師は餘程教授に熟練した者でなければ、なか〳〵三ッも四ッも平らに教へて行くと云ふことはむづかしいと思ひます。單式の教授の例は前に申上げた通りでありますが、複式の教案例をお話致します。

複式と申しましても、合級であつたならば裁縫の方では洵に教授の方法がやさ

しいのです。此所にあるのはどれも例に過ぎませぬ。子供は練習する時間が多いのですから唯〻二ッを組合せたと云ふ時ならば、一方に練習を課したときに他の一方には説明をすれば宜いのです。極めてやさしいのです。唯〻三ッ或は四ッを合せたときが困難である。尋常科の單級と申しますとつまり四ッを合せるのでありますが、細目は四ッの組を三ッにして了つて拵へる。でありますから、矢張教案も三組として三ッの組に教へるやうに拵へて置く。市内の學校では單級學校などと云ふのはございませぬ。單級どころではない、兒童數が多くつて困るのですから市内の學校にはさういふものはありますまいが、或は郡部などには此の單級學校がございませうと思ひます。單級學校に於ては何が一番違ふかと申しますと、教授の方法と言ひましても教段などを分けて順序正しく教へると云ふ譯には參りませぬのです。三ッも四ッも一時に教へるのでありますから、必ずどの級も一樣にして、第一に皆豫備作用を施す、次には皆提示作用を施す、次には皆應用作用を施すと云ふやうなことは到底一人の先生であるから出來る譯のものではございませぬ。

尋常小學校單級裁縫科教案

第何學期　第何週

組	題目	方法	納具
丙組	針の持ち方 運び方 姿勢 豫定時間一時	目的を指示し次に裁縫用具の名稱を問答し尚ほ針の持ち方につき兒童の知れる處を問ひ掛圖及び教師の示範によりてその持ち方を十分了得せしめ後指貫の筬め方針め	針の持ち方 指貫の筬め方 針めどの通し方 實地練習	次に針の運び方即ち左右の手及び指の動かし方、布の張り方、姿勢の取り方等につき、掛圖、及び示範によりて、よく説明し、後用布につきて實習せしむ。	針の運び方、實地練習、 机間巡視

尋常科第三

學年		乙組	
	どの通し方等を授けてこれを實習せしむ	各種縫ひ方 ふくろぬひ 豫定時間一時	運針 用布にて本縫を練習せしむ
		合せ縫ひの仕方を問答して目的を指示し、袋縫の掛圖及び標本を示して能く觀察せしめ、その縫ひ方、及び用處を詳しく説明し、次に各兒童に模範標本を配布し之れに倣ひて先づ布の表よ	
		一分の縫代にて合せ縫實習 机間巡視	
		次に裏を出して、布の撚れぬ樣、處々に待針を打ち、二分五厘の縫代にて袋縫ひをなさしめ、並みの著せにて手前に折りをつけしむ。	袋縫實習 机間巡視
		實地縫ひ方の批正 方法の復演 納具	

年		甲組	
		車裁襦袢 仕立上げ寸法 標附け方 豫定時間一時	車裁襦袢の仕立上げ寸法を記したる小黑板を揭げ、各自の裁縫帳を出して筆記せしむ。
	り一分の縫代にて合せ縫をなさしむ	車裁襦袢仕立上げの圖、若くは標本を示して其の寸法と對照しつつ説明して了解せしめ、後標附け方の順序及び圖解を筆記せしむ。尙ほ時間に餘裕あらば、寸法を復習記憶せしむ	
		車裁襦袢 標附け方の順序 並に圖解筆記 寸法復習	
		筆記ひしめたる標附の順序、及び圖解につき、更に詳しく説明して一つ身襦袢と異る所を了得せしめ、後その要點を問答して知識を確かならしむ。 右終りて、板上に標附けの圖を書し、兒童をして其の順序を記入せしむ。	
		標附けの順序記入 納具	

備考　表中の▬▬は五分間づつの印にして、太き黑線は直接教授をなすべき場合を示したるものなり。

此の案をよく御覽下さると分かりますが、黑い線の下は教師が直接教授をするやうになつて居るのであります。それから縱に黑い線と白い線で區別してありますのは五分間づゝ標てあります。九つありますからつまり四十五分間の標てあります。四十五分間に三ッの組に對して教師が直接教授を交互にする。何う云ふ風にして行くかと言ひますと、先づ甲乙丙と三つの組に分けまして、丙組は尋常三年に相當する。乙組は尋常四年に相當する。甲組は尋常五年六年に相當する。さういふ風に別けて置きまして、さうして尋常三年の丙組の一番下の所は第一の黑い線になつて居ります。一番下の組は一番小さい子供であつて、教師が默つて居る譯に行かない、勝手に練習させることも出來ませぬから、此の組から初めるのです。其の間乙の組は自分で出來ることをする即ち運針の練習などをする。先づ教師は丙の組に對して五分間直接教授をして、自分で練習することが出來るやうにして置きまして、それを十分間練習させる。其の間の五分間で乙組に直接教授をする。さうして乙組に十五分間練習させる。其の間に今度は甲組に對して五分間直接教授をする。然う致しますと丁度丙組の方が最早十分間自習をして此の上は又教師が直接教授を仕なければ仕事が無いと云ふことになる。其所で又丙組に十分間直接教授をする。さうしてあと十五分間は自習をさせます。其の中の五分間を乙組に直接教授をして、さうして、後の五分間は又甲組に直接教授をすると云ふことになつて居ります。さうすると丁度五分間殘つて居ります、それは道具を仕舞はせるのです。尋常三年の子供などはまだ初めのことですからなか〳〵手早く參りませぬ。五分間位はかゝります。

次に乙組の方が袋縫の實習をしたら教師が見て歩かなければなりませぬ。實地縫方の姿勢等もよく見まして、さうして方法の復演などをする。初めに何をしました。それから合せ縫をした。それから何うしましたか。裏を返して更にもう一度縫ふと云ふやうな即ち方法の復演です。次に甲組の方は教師が乙組に對して復演などをして居る間に標附け方の順序を帳面に記入させる。單級のやうなものは成可く黑板や何かを利用して順序などは書きながら教へるのでありませうけれども、複式であつたならばなか〳〵そんな時間はありませぬから、前以て書いて置きまして、それを掲げてお寫しなさいと云ふやうなことにしなければ仕方が

ないのです。

さういふ風に三つの組を一度に教へなければならないと云ふやうな時には、前以て教案を拵へて置かなければなりませぬ。單級の教案は大抵其の時毎に拵へる。教師の直接教授を向ける時間を的としなければなりませぬ。さうでありませぬと何うしても教授に拔けた所が出來ます。或る級は大變に餘計に遊んで居る、或る級は餘計勉强したと云ふことになる。知識の教授に於きましても、二組の時には大したことはありませぬが三組以上になりますと無論案を作つて順序を明かにして置かなければなりませぬ。先づ斯う云ふやうに教案を作つて置くのでありますけれども、是は申すまでもなく複式の時間などの時は別でありますが、單式の教授の時分には一々教案を見て初めて教授をするものではない。併し案と云ふものは必ず教師が持つて居なければならないものになつて居る。案を見ても見ないでも必ず備へて置くのです。併し教授することは暗んじて居りまして、成可く寸法でも何でも記憶して居るやうでなければ實際に於て教授の體裁が見苦しいから、さういふことのない樣にしなければなりませぬ。其れなら教案は要りさうもないと云ふでありませうけれども、偶には小さい數などは記憶しないことがある。記憶して居やうと思つても忘れる場合がある。矢張案を備へて置かなければなりませぬ。

單級は複式でございまして尋常三年から致しますと四學年に亘る譯であります。尤も三年と四年は一週の時間が五年六年と違ひますから、時間毎に三組が一緒になると云ふ譯ではございませぬけれども、先づ四組一緒になつた場合もありますから、さういふ場合が一番教授が仕難い譯でございます。さういふ場合には何ういふ風に組を分けたら宜からうかと考へますと、何うしても四組一緒の教授と云ふことは餘程困難でありますから、それを三粗に分けて、甲の組と云ふのは五年六年を一緒に致す。三年四年は裁縫の極く初步を學んで居るのでありまして時間も違ひますから一緒にすることは出來ませぬが、五年六年は共に一週三時間であります。裁縫を兎も角も二箇年間學んで參りましたから、運針とか各種縫方の大要は既に心得て居ります。でありますから三組に分けてさうして五年六年を一緒にして此の細目を作つてあるのです。四段になつて居りますけれども五

年六年が一緒でありますから、本年は上を習つて行き、來年は下の方を習つて行く。六年になつてから上段を習ふ。斯う云ふことになります。つまり二箇年分の教材を一ッの組に配當した譯であります。斯う云ふ風に致しました時は、五年六年であるからと云つて程度をひどく違はせる譯に參りませぬ。一年間縮んで居るから、單式の場合には無論程度が違ひます。本年五年になつたものは宜いけれども、來年五年に來たものは六年の所を習つて行く譯でありますから四年間一度分の程度はさう違はせる譯に參りませぬ。先づ斯う云ふ風に教材を組替へて拵へなければならないと思ひます。

第二十章　裁縫教授上の諸注意

是はいろ〳〵の注意があります。何と云ふ格別纏つたことはないが種々の事柄を集めて置きました。

(一)裁縫科と他學科との關係。裁縫科と他の學科とは何う云ふ關係を有するか。

御承知のやうに小學校の教科は種々な教科目から成立つて居りますが、其の間互に相聯絡して居るのです。聯絡の餘計あるものも少ないものもありますが、餘計あるものは尙更のこと、又聯絡の少ないものでも、矢張出來得るだけ其の聯絡をつけて、斷片的の知識が子供の頭腦に這入らないやうにして成可く思想の統一を圖るやうに力めなければなりませぬ。裁縫は他の教科と餘り關係がない獨立のものであると云ふ風に考へて居りましたのは昔の時代でありまして、今日ではさう云ふ風に考へて居らつしやる方は無論ありますまいが兎も角も出來得るだけ關係をつけて教授することが肝要であると思ひます。それでありますから他の學科の參觀などもし教案抔もよく御覽になつて其等の教授の實際を知ると云ふことが必要であります。

第一に何ふ云ふものが關係があるか。關係の深い方から言へばいろ〳〵ありますが、學科の順序から言ひますと、修身科などは裁縫科と餘り關係はないやうに思はれますけれども、私は矢張關係があると思ふ。知識の上には大した關係はありますまいが、裁縫科で說く所の事柄は無論修身科でも常に說いて居ることがあります。勤勉におしなさいとか、儉約をなさいとか云ふことは皆修身科で說く所

の德目でありますけれども、唯〻其の實行と云ふ段になりますと裁縫科が最効力がある。修身で教へた德目を實行させると云ふ上から言へば裁縫科の方が遙に効力がある。毎日其實行を見ることが出來る。でありますから修身科で何う云ふ風に德目を說いたかと云ふことを矢張裁縫の先生が知つて居つて其の通り實行させるやうにする。訓育の上から言ひますと裁縫科は最も適當した教科でありますから、矢張修身なども參酌しなければなりませぬ。修身は唯〻心得を說くのであります。修身の道は心得だけでは何にもならない、實行が肝要でありますが其の實行のよく現はれる教科に於て十分に實行を促し、他の教科で說かれた通り實行させることに力めるが宜からうと思ひます。作法なども然うであります。作法と言へば唯〻お客樣にお茶を出すとかお菓子を出すときの作法のことの樣に心得て居る者がありますけれども、決して然うでない。日常自分が獨りて居るときの作法と云ふものが矢張作法の一ッである。獨りて居るときには獨りて居るときの作法がある。仕事をするときには仕事をする時の作法がある。裁縫などに於て自分の道具を使ふ上にも矢張作法がある。殊に學校の共同用の道具を使ふのても、恭謙の德と云ふやうなことを修身で習つて居て其れを實行する。人を先にして己れを後にすると云ふやうなことを實行させなければならない。又學校の道具は何う云ふ風に扱ふか。己れの道具よりも學校の道具は一層大切に扱はなければならない。動もすれば共同用の道具なれば粗末に扱ふと云ふやうな弊がありはしないか。大勢で使用するのであるから誰れが損じたか分からないと云ふ考で好い加減に扱ふことがありはしないかと云ふことを私共時々考へます。そこでさういふことの決してない樣に、自分の鋏なら一年で壞れたけれども學校の鋏は二年も三年も使つたと言ふことになりたいと思ふ。

第二には算術です。算術科と裁縫科と聯絡あることは皆樣方も御承知でありませう。實際に算術のことを應用して裁ち方などをさせて居らつしやるのでありますから、無論裁ち方とか積り方は算術科に聯絡を付けなければならない。前にも申しました樣に、算術は分數を敎へたとか或は比例を敎へたと云ふやうなことを考へて、裁縫科に應用の出來るやうな問題を出すと云ふことになるのです。まだ分數も習はない比例も習はないと云ふ場合に分數の問題を出すことは出來

ない。又括弧用法も習はない時分に綜合式などを教へるやうなことはいけませぬ。矢張括弧用法を習つてから綜合式を教へるやうにする。さういふものを習はないうちは、袖なら袖の計算の仕方、袴なら袴の計算の仕方を教へて、それを全體加へて全體の計算を出すと云ふことに仕なければならない。でありますから算術と聯絡をつけることは常にやつて居らなければなりませぬ。尙裁縫は單にさういふことばかりでなく、いろ〳〵工夫したりする。足らないものを大きく裁つとか、いろ〳〵工夫する場合がある。其れには數の考が十分であればあるだけ其の工夫が巧に行く譯であります。又積り方の計算をさせるばかりでなく、費用の問題なども面白いだらうと思ふのです。衣服を一枚拵へるに何程の費用がかかるか。例へば單衣を一枚拵へると言つても、表を一反と云ふだけでなく、矢張肩當も要る、尻當も要る、裏衿も居る、縫ふためには糸も要る。又裕や綿入になると裾廻しも要れば袖口も要ると云ふやうに、種々なものが要る。さうすると表一反で着物が出來るのでなくして、其れに附屬するところのいろ〳〵の費用がかゝる。子供はさう云ふ細かい計算は知りませぬから、動もすれば家の阿父さんは着物を買つて呉れないとか、阿母さんは好い着物を拵へて呉れないとか言ひますけれども、斯う云ふやうに總ての計算を知らせると、なか〳〵の費用がかゝるから、然う十分でない家庭では澤山なものは出來ないと云ふことが分かるのです。子供にそれが分らないから自分の家の生活の程度も知らず、唯好い着物を着たいと云ふやうな考も起ると思ふ。婦人の虛榮なんと云ふことを世間で申しますが、つまり小さい時から經濟上の思想が乏しく、唯見て美しいとか綺麗だと云ふやうなことばかりに憧れる所から來るのでありませう。でありますから小さい時分から經濟上の思想を入れることが肝要であります。殊に我國の現狀から申しますと、なかなか虛榮どころではない。一生懸命に働いても貧乏な國であるのですから矢張學校教育に於ても其の心を教師が有つて居て、極く眞面目な人間を拵へると云ふことを考へなければなりませぬ。それが爲めには材料品などでも新らしいものを持つて來ると餘り讃めないで、古いものを持つて來ると却て教師が喜んでやる。是は結構だと言ひませぬでも既に教師の態度で分かります。子供と云ふものは、ボンヤリして居るやうでもなか〳〵鋭敏であるのです。古いものを持つて行く

と先生が喜んで、新しいものを持つて行くと先生が厭な顔をする抔と云ふことを直きに見て取ります。でありますから却て古いものや或は繼いだり接だりしたものを持つて來ると喜んでやると云ふ風に致しますと自然子供はさういふ方に向いて行くだらうと思ひます。

第三には圖畫です。圖畫と裁縫とは是亦密接な關係があります。殊に圖畫は凡ての工藝の基本となるものでありまして、形狀の好い惡いとか或は色取りとか或は模樣などの擇び方とか云ふやうなことを圖畫科で最も好く敎へる。それが圖畫科の目的であります。でありますから圖畫を能く習つて居りますと、それを裁縫に應用して衣服を一枚拵へるにも、同じ費用でありましたならばそれは好い色取りをした方がよいと思ひます。例へば黑い着物に黑い裾廻しをかけたり赤い裾廻はしをかけたりしたらおかしい。いろ〳〵配合もありませう。或は羽織と着物の色の配合もありませう。其の通りしやうと云ふのではないけれども、さうすれば美的であるとか、綺麗に見えると云ふことを敎へて置くのも宜からうと思ふ。さういふことの爲めには圖畫と云ふものは裁縫の基礎になる材料を與へるものであります。でありますから、さういふ聯絡をつけて敎へたらば大變に利益ではないかと思ひます。

次に地理とか理科とか云ふやうな學科は是は裁縫と緣の遠い學科のやうに思はれる。成程圖畫とか算術は緣が近いが、地理や理科と云ふやうな學科になりますと是は多くは頭腦に屬する學科でありまして技能の敎科に關係ないやうに思はれますけれども、決して然うでない。裁縫科の內容を考へて見ますと地理や理科に關係を有つて居るものが幾らもあります。例へば服地の名稱とか產地のやうなことです。尋常科の子供の取扱つて居る所の服地は多くは木綿であるが、其の木綿は何處で出來るか。或は絣は何處から出るか、或は薩摩絣と云ふのは高價であるが何故に夫れが高價であるかと云ふやうなことを知る爲めには矢張地理の方の知識が必要だと思ひます。單に木綿物でも然うでありますが、絹物とか毛織物などになりますと尙範圍が廣うございます。日本國內ばかりでなく外國からも這入つて來る。毛織物などは成可く奬勵したくないのです。其れは先日申上げたやうな理由であります。原料として這入るか加工品として這入るか、何れ

も外國から這入つて來るものでありますから、多くの人が成可くさういうものを用ひないで出來得るだけ國内のもので間に合せるやうに致したい。其れでなくても外國から輸入しなければならないものは澤山あるのです。國を維持する爲めになくてならないもの即ち軍艦に使ふ材料であるとか云ふものは仕方がない。近頃は軍艦などでも我國で出來ますけれども、以前は外國に注文をした。さういふ風に國を維持するために必要なものがある。外國に金を出したくはないけれども、何うしても出さなければならないものが澤山ある。さういふものは仕方がありませぬけれども、女子の服裝や或は飾り物などのために我國の大切なお金を外國に出すなんと云ふのは大變な間違であると思ふ。でありますから出來得るだけ加工品などは使はない方がよい。原料として這入つて來るものはまだ廉いけれども、加工品として這入つて來るものは非常に高い。斯う云ふことも學校教育に於て能く心得さして置きまして外國品の贅澤なものなどは買はぬやうにさせた方が宜いと思ふのです。個人の經濟としても毛織物などは隨分好いこともありますから吾々の生活の上から之を取除くことは無論出來ませぬが、併し毛織物でも、成可くは内地で出來たものを用ひたい。軍人の服とか何とか、なくてならないものは據所ありませぬが、女子の服裝などには外國のものを成可く使はないやうに致したい。例へばセルと言つても日本で出來るセルが澤山あるから成可く舶來のセルは使はない。カシメヤと云つても矢張同じことです。舶來のものは光澤があるとか、しなやかであるとか云ふやうに好い點は澤山ありませうけれども、國の爲めを考へれば成可く日本のものを使ふと云ふことになりたい。さういふことを考へますと、一體羅紗は我國に何程這入つて來るか。更紗などはどれほど輸入があるか。其れが爲めにどれだけ我國のお金を外國に拂つて居るかと云ふやうなことを教へたい。我國では毎年々々輸入超過をして居る。新聞を御覽になつても分かりますけれども、あゝ云ふ風でありましたならば我國ではどんなに働らいても追付かない、益〻貧乏な國になつて了ふだらうと思ひます。其れから理科でありますが、理科に於ては矢張衣服の性質を知る、衣服はいろ〳〵の原料を用ひて拵へるのでありますが、其等の原料の性質を知る。動植物も多少關係がありませうし、或は物理化學等も最も關係が深い。洗濯とか保存の仕方と云ふや

うなことは物理化學に最も關係があります。或は色揚げをするとか、或は簡單な染物をするとか言つても皆理科に多少の關係があります。兎も角もさういふことをよく知らせなければなりませぬ。高等師範の技藝科などは理科の時間が隨分澤山あります。

次に手工にも無論關係があります。裁縫は矢張一種の手工なんです。我國では裁縫教授を手工と別にして居りますけれども無論手工の一部分であります。手工の目的は、簡易なる物品を拵へる、實業の觀念を養ふと云ふことが目的になつて居りますが我國の裁縫も其の目的は變りませぬ。其目的の上から言ひましても、又課する所の教材の上から言ひましても、裁縫と手工とは密接な關係があるものでありますから、或は教材の上に於て、是れは手工で教へるから裁縫で省くと云ふこともありませうし、裁縫で主として教へるから手工で省くと云ふこともありませうから、手工の教材と裁縫の教材とは相談して教へなければならないと云ふ程に關係が深いと思ひます。

第二十一章　器具の整理に關する注意

前にも申しました樣に、他の學科に於きましては道具の數も少いし、整理と云つても雜作もありませぬが、裁縫科では教授用としても種々の道具があり、又學習用としてもいろ〳〵の道具を使ひますから、先づ道具整理すると云ふことを教師は考へなければなりませぬ、又兒童にも良い習慣を付けさせなければなりませぬ。教師の側から言ひますと教室を整理することが第一であります。教室を常に清潔にして置くとか、或は窓の開閉などに氣を付けて室内の空氣を新鮮にするとか、或は教授用の道具を能く整理してそれ〴〵適當の場處に置くとか、裁縫の教室は這入れば直ぐに心持が好いと云ふやうに整頓することが必要であります。さう云ふ風に教師自ら整理し、又自分の容儀も正しくして、隨つて子供に良い感化を與へることが出來るものです。殊に授業をする場合に學校では廣い場所を取らせることが出來ない。家庭では疊一疊も二疊も場處を取つて致して居りますけれども、學校ではさう云ふ譯に參りませぬ。僅二尺が二尺五寸位の場處で數々の道

具を出して都合好く裁縫をして行かなければならないのでありますから、課業中には何う云ふ風に道具を整理させると云ふことも亦一定して置いた方が宜くはないかと思ひます。

課業中の道具の整理の仕方は、皆樣方は實際に遊ばして居らつしやるからいろ〳〵方法もありませうし、既に或方法を定めて教へて居らつしやるでありませうが、先づ縫ひ方の初には針箱の蓋を取つて實と重ねると云ふことが第一の仕事であります。よく見ることですが、針箱の實が此處にあつて、蓋はこつちの方は斜かけになつてゐる。さなきだに狹くつて困るのです。机の上であるから實と蓋を別々に散亂して置くなんと云ふことは大變に困りますが、隨分さう云ふことも澤山ある。針箱と申しましても、大變大きな菓子折か何か持つて來る者もあれば、また極く小さいシャボン箱の空を持つて來ると云ふやうな風で區々です。而も絲卷でも鋏でも針差でも、其置き方が誠に不規則であると云ふやうなことがありますが、兎も角も子供は未だ其等の始末を知らぬものでありますから、教師がたびたび其ことを言はなければ自然にさう云ふ風になると思ひます。一度や二度言つたばかりではいけない、始終氣を着けなければならない。又餘り口で言ふのも隨分うるさいものですから、時には側へ行つて實際にして見せる。蓋と實と別々になつて居たら之を重ねてやるとか、絲卷などをチャンと揃へてやると云ふ風にして、口で言はないでも手でして見せる。指貫は必ず箝めさせるやうにする。小學校の子供などはまだ指も柔かいのですから、指貫を箝めなければ其れだけ手の働きが不十分になる。運針も十分に出來ない。物差は何處に置いても宜しいでございませうが、やはり横の方に置く。用布を眞中に置いて、それから愈々始めやうと云ふ處で針を數へる。

尤も針の數は豫め約束して置かなければなりませぬ。針は最も鄭重に取扱ふ習慣を養ふことが肝要であります。申す迄もなく、裁縫の道具の中では針が最も危ない。いろ〳〵道具もありますけれども、針ほど危ないものはございませぬから、針は極めて鄭重に取扱ふ習慣を養はなければいけませぬ。私共大きな生徒を取扱つて居りますが、大きな生徒でも矢張り針を粗末にする。何うしたら鄭重に取扱ふ習慣が付けられるかと云ふことを始終考へて居りますけれども、未だに好

い方法が見當りませぬ。針は何う云ふ風に取扱ひますかと聞くと、始終數へて居りますとか、札を附けて置きますとか、口では言ふけれども其實行が出來ないので困つて居ります。是れは何うしても小學校の時代から、針は極めて大切に取扱ふと云ふ習慣を植ゑるより仕方がない。針が一本でも足りなければ心持が惡くつて寢ても深く寢られないと云ふ位の習慣を付けて置くと云ふことが肝要であります。それより仕方がない。唯、教師がやかましく言ふから大事にすると云ふだけであつては、教師がやかましく言はなければ忽ち粗末にすると云ふことになる。で、豫め針の數を約束して置くことが肝要であります。まだ小學校では針の數は極く少い。絹針は要りませぬから木綿針で宜しい。絎針と縫針の二種類と、それから待針と云ふやうなことで宜しいのです。尋常三年などは絎針二本と縫針二本とあれば宜しい。針は折れたり針孔が缺けたりすることがありますから、代へ針のつもりで各二本づゝ持たして置く。尋常四年になると多少待針が要ります から、初は待針五本も持たせる。それから段々上級に行つて複雜なものを縫ふやうになつて待針を澤山使ふときに更に五本增して十本持たせる。と云ふやうなことにして、針の數を約束して置く。さうして是れから授業を始めると云ふ時に必ず針を數へさせる。子供は詐りを申しませぬけれども、時には無いと言つては先生に叱かれると思つて、四本しかないものを五本と云ふかも知れませぬ。それには隣の者と交換して數へさせる。或は教師が數へるも宜いが、殘らずの人の針を教師が數へる譯に參りませぬから、二三人の針を數へる。さうして必ず針は一定の數だけなければならないと云ふことに致すのです。それから今度は授業が終はつて道具を仕舞ふと云ふ時に、又針を第一番に數へさせる。それからいろ〳〵針箱の中の道具を仕舞ひ、それから縫物を疊み、風呂敷なら風呂敷に包むと云ふ順序にさせる。なぜ第一番に針を數へさせるかと言ひますと、先きに縫物を疊みますと、時に依ると待針などを附けたまゝで居るかも知れませぬ。さう致しますと折角疊んだものを又解いて見なければなりませぬ。子供は疊むと云つても二分も三分も或は五分も掛かる。それで折角疊んだものを若し針が一本足らないならば又すつかり解いて見なければならない。さう云ふ手數になりますから、第一に針が極り通りあるかと云ふことを數へて、それで數があると云ふ處で、安心して、

それ〴〵畳だり包んだりすると云ふことに致したいと思ふのです。學校のみならず、家庭に於てもさう致したい。それは家庭までも教師の目が屆かないから據所ありませぬけれども、常にさう云ふ風に教へて置きたいと思ひます。

家庭に於て多くの人の裁縫して居る處を見ますと云ふと、鋏が何處に行つたか、或は物差が見えないと云つて、自分が立つたり、縫物を振つたりして搜がし居ることがありますが、矢張り道具を整理する習慣が常に付いて居ないからさう云ふことになるのであると思ひます。さうして詰らなく時間を費し又勞力を費やすと云ふことになります。さう云ふ無駄なことは致したくないのです。人間は何時も働いてばかり居る譯に參りませぬで、いろ〳〵娯樂の爲めに時間を費やす必要もありませうけれども、それは又娯樂の時間として費やして宜いのですが、唯く無駄に時間を費やすと云ふことが一番不經濟なのです。常に良い習慣が付いて居ないとか、或は不注意の爲めに詰らぬ時間を費やすと云ふことは矢張りお金を無駄に使ふと同じことでありますから、小さい時分から良い習慣を付けなければなりませぬ。それには何うしても小學校時代に於て夫れ等の良習慣を造ることに致したいと思ふのです。

序でに針の長さと云ふことに付て一寸御話を致したいと思ひます。子供に使はせる針の長さと云ふものは、市内の小學校では何う云ふ風にお極めになつて居ますか、極く近いことは私は存じませぬが、兎に角針は成可く短いのを使はせたい。子供の手に適ふやうな短い針を使はせたいのです。指貫に針孔を當てゝ持つて其針尖が凡そどの位出れば宜いか。やはりそれは一分か一分五厘位も出れば宜しいと思ひます。所が尋常三年の子供などはまだ身體も少さいし指も隨て短い。それを若し大人と同じ針を用ひるならば、大變に身體の大さに合はないものと云はなければなりませぬ。普通大人の使ふ針で一番短いのは「三、とめ」と云ひまして、是れが八分五厘あります。次に「三の一」と云ふのが八分七厘。木綿と縫と云ふ間に「こちやぼ」と云ふのがあつて、それが九分あります。先づ此等の針を大抵お使ひになつて居らつしやるでありませうが、此等はみな子供の手には合はないのです。大人でも指の長い人と短い人とありますから斯く云ふ風に針に一分や一分五厘の差があるのでございますが、子供は、大きい子供と云つた所が大人より小さいに

極まつて居る。でありますから尋常三年位の子供は先づ七分位で宜くないかと思ふのです。尤も子供でも指の長さは一様でありませぬから、きつかり申す譯に往きませぬけれども、先づ七分位が宜い。それから尋常四年では七分五厘位、尋常五六年では八分位。さう云ふ風に考へますと、市中にある針では「三とめ」が八分五厘で最も短いのでありますが、尋常科の生徒には長過ぎて困る。五六年あたりの大きい子供では何うか間に合ふかも知れませぬけれども、其以下の小さい子供でありますれば、迚も八分五厘では手に合はない。此處に小學校の子供の爲めに特に拵へた針を見本として持つて參りました。七分と、七分五厘と、八分とあります。斯う云ふものを使はせるやうにして、成可く短かい針で運針を仕易くするやうに致したいと思ふのです。他日大きくなりましてからば無論大人の針を使つて宜うございますが、小學校の中は級に依つて針の長さを極めて置くことが必要であると思ひます。

尙序でに申上げて置きたいと思ひますのは、折れ針などの始末です。錆びたり折れたりして、いろ〳〵不用の針が出來る。それを一々教師の許に持つて來るやうになつて居りますけれども、大勢でございますから、或は持つて行くのを怠つたり、或は時間の終りに持つて行かうと思つて忘れたりすることがある。それで嘗て斯う云ふ箱を拵へたことがあります。是れは一つの例でありますけれども、燐寸の空箱です。之に千代紙などを貼つて、銘々に針箱の中に入れて居きまして、折れたり錆びたりした針を始末する。これは七八年も前に致したのでありますが、私が少し世話をして居りました所の或私立の高等女學校では矢張り使つて居ります。それで斯う云ふ箱を貼つたり致します爲めに一時間位は費やします。けれどもそれは宜いと思ふのです。初に準備の爲めに、斯う云ふ箱に千代紙を貼るとか、或は針差を直す。買つた針差は中に何が這つて居るか分りませぬから、それと脫脂綿に取替へるとか、或は運針用布に名前を縫付けるとか、つまり道具の準備の爲めに一時間や二時間を費やしますが、併しそれは物を整理すると云ふ習慣を造るためには宜しいと思ふのです。それから又近頃斯う云ふものがございます。(針入器の實物供覽)。斯う云ふものは皆樣はよく御承知でありませうが、是れには運針とか、絹針とか、絎針とか、或は折れ針とか云ふ風に、それ〳〵名が付けてありま

して、さうして此處に劍がある。此劍を縫針の處へ廻せば縫針が出て來る。絎針の處へ廻せば絎針が出て來ると云ふやうな風に拵へてあるのです。斯う云ふやうなものを生徒が銘々に買つて持つて居るとすれば尙ほ結構でありますが、併し是れは矢張り十錢とか十二錢掛かりますから、强ち斯う云ふものを買はなくつても、今申した樣に、自分の手で出來るもので始末すると云ふことも宜くはないかと思つて居ります。

第二十二章　姿勢に關する注意

何れの教科でも姿勢を正しくすると云ふことは等しく大事なことであります。けれども裁縫と云ふ學科は學科の性質上特に姿勢が惡くなりがちでございます。それは學科の特質でございます。併し學科の特質であるから姿勢が惡るくつても仕方がないぢやないかと言つて許して置く譯には參りませぬ。殊に健康に害のあること、又は身體の形の醜くなることは、それは特質だから仕方がないと言つて許して置く譯には往きませぬ。御存知の通り刺繍などをする職人は、眼の養生のためにどんなに惡いか知れませぬ。それは商賣であるから據所ない譯でございますけれども、學校教育としてはさう云ふことを許しては置かれない。學科の特質でもあるし、又さう遠くへ離して裁縫すると云ふことは出來ませぬが、併し出來るだけ工夫して姿勢を正しくするやうに、健康に害のない樣にすると云ふことを教育者は力めなければなりませぬ。でありますから、縫ひ方をする時でも、何う云ふ風にすれば宜いかと云ふことを先づ極めます。腰を掛けて居りましても、脊中を曲げないやうに、身體を眞直にする。私はどうも脊中が曲がつて困ります。私自身にもさう思ひまして尙ほ氣を着けるのでありますが、机と腰掛と離れない樣にすることが肝要であります。机と離れますと縫物を自然膝の上に置くことになる。姿勢が惡くなると云ふのは多くは膝の上でするからであります。家庭でも大抵膝の上で致して居りますが、兎に角机と腰掛とくつつける樣にして、離れやうと思つても離れない樣にして置く。さうして裁縫をすれば自然に姿勢は眞直になると思ふのです。机の高さなども餘程注意しなければなりませぬ。餘り高過ぎましても困ります。普通の机より一寸か一寸五分位低くして置く方が宜

いのです。それは身長の高い者も低い者もあるから困ると言ふが全く然うでございます。低い人と高い人とは大變違ひます。それから身體を眞直にする爲めには多少胸を張るやうな姿勢にするのであると云ふことを敎へる。わざ〳〵胸を張出す譯でもありませぬけれども、多少張る位にしなければ身體は眞直にならない。それから用布と眼との間は八寸か九寸位離れるやうにする。習字などはもう少し離しても宜いが、裁縫はもう少し近くしなければ細かいものであるから出來ないやうでございます。それから兩方の臂を離して、運針の時には成可く右の手も左の手も同じ樣に動かす。さう致しませぬと、針が斜めに通りますから、前にも申しました樣に縫つた跡がきたなくなつて困る。そこで針を眞直に通す爲めには兩方の手を同じ樣に動かさせる。運針の姿勢をさう云ふ風に極めて居ります。初の內は兩手の間を澤山離すと云ふ譯に行きませぬが、段々離して五寸六寸或は八寸位まで離すやうにして了ふ。尋常六年では四五寸位なもんでせうが、高等二年位にになれば大人と同じ樣に運針は上手になります。子供と云ひましても、運針などは大人とさう特別に違ふ譯ではない。練習しなければ無論いけませぬけれども、尋常三年から斷えず練習して居る子供でございましたならば大人と競爭が出來る位に上手になります。其位になると八寸位離しても宜しいのです。朴澤の學校では初等敎授を早くから考へたと云ふので文部省からいろ〳〵表彰されたり御褒美を戴いたりして居りますが、彼處では運針の稽古を非常に奬勵しまして、運針はなか〳〵上手に出來ます。參觀すると大抵運針をさせて見せる。一尺どころではありませぬ。二尺位も離して縫つて居ります。早く縫ふには其位にしなければなりませぬが、見て居りますと、身體が縱になつたり橫になつたりして縫つて居ります。さう云ふことは宜しくはありますまいけれども、技藝學校ですから別に惡いとは思はない。技藝を成可く早くしやうと云ふ目的でさう云ふ風にするのでありませうけれども、之を普通敎育の上から考へますと、運針を早くする爲めに姿勢はどんなに惡くつても宜いとは言へない。近頃舞蹈病と云ふ病氣がありますが、さう云ふ風にしても何でも早いが宜いかと云ふと、私はさう云ふことは普通敎育に於ては面白くないと思ふのです。職人になる人は別でありませうが、普通の者は、行儀が惡くつても姿勢が惡くつても構はないといふこ

とは言へない。其等のことは先生方が常識で考へて下さらなければならないのです。今申した朴澤學校は技藝學校でありますから別でありまして其仕方が惡いと言つて批評した譯ではないのですよ。

其外まだ教授上の注意はいろ〳〵ありますが、さう一々細かいことはお話し申上げませぬ。唯、私が皆樣方にさうしてお貰ひ申したいと思ふことだけを申上げたら宜いと思ふのです。卒業致します時分になつたならば、おさらひしてやることが必要であると思ひます。尋常六年でも高等二年でも、前に習つたことをズッとおさらひして、さうして寸法の表などを拵へることが必要ではないかと思ふのです。寸法の表を拵へるのは大變に値打があると云ふ譯ではないのですけれども、おさらひをすると云ふことに就いて値打があるのです。尋常三年から學んで居るのですから、假に高等二年の卒業とすれば其間六ヶ年でありますが、なか〳〵六ヶ年間のことをさう記憶して居る譯はない。種々の學科を學ぶのでありますし、殊に寸法のやうな數に關することは尙更記憶しない。さうかと云つて五年前の帳面或は三年前の帳面を一々繰返して見て仕事をすると云ふことも實際上適切ではないのでありますから卒業をする時分には一つの表を拵へてそれを針箱の底にでも入れて置いて始終參考にすることが出來るやうにしてやりたいと思ふのです。寸法は一番忘れ易い。一ッ身は何う、三ッ身は何うと云ふ樣に寸法をさらふのでありますが、其さらふと同時に、裁ち方の要點とか、縫ひ方の要點をおさらひする。つまり五年間或は六年間に於ける裁縫の總練習をして是れまで與へて居つた所の觀念を明かにしてやりたいのです。でありますから、卒業する時の、即ち第三學期の細目と云ふものは、其等の爲めに八時間や十時間位は費やすのです。さう云ふ標準を見て居いて全體を概括してやると云ふことに致したいと思ふ。無論一教材毎にさう云ふことをして居るのです。皆樣方もさうでありませうが、例へば或教材を終はつたとすれば、其間に部分縫も裁ち方もいろ〳〵ありまして實習をする。實習が出來た所で前の一教材の裁ち方とか、縫ひ方とか、順序とか、方法とか云ふものを一度復演して其觀念を確實にしてやる。併しそれは一教材毎にしてやりますのですから、卒業する間際に至つては又全體をさらはなければなりませぬ。

それから初にも申しました樣に、小學校の裁縫は成可く簡易にしてやりたい。それに就いては多分市橋先生からお話があつたでございませうが、簡單にするには、例へば袷を縫ふ。衿下などは中から縫ふと云ふことは子供にはむづかしいから、躾を掛けて紵けると云ふことにする。羽織にしても、大人ならば衿を四ッ縫にするのであるけれども子供は四ッ縫でなくても宜しい。袷羽織でも四ッ縫にしなくても宜しい。やはり單羽織の樣に縫つて衿の裏の方で紵けて綿入羽織と同樣の仕方をしても惡くはないと思ふ。さう云ふ風に凡て出來るだけ簡易にしてやる。四ッ縫にしないから羽織でないと云ふことはない。四ッ縫を敎へて出來るだけの程度に進んで居れば必しも四ッ縫を敎へて出來るだけの程度に進んで居れば必しも四ッ縫にしなくても宜いのですから、敎へなければならないと思ふ場合には、前に綿入羽織を敎へて後に袷羽織を敎へるのであるから、綿入羽織の通りに附けさせても宜い。さう云ふ點から成可くむづかしい處は型を使はせたいと思ふ。例へば袖の圓形の型とか、褄の型とか、さう云ふやうな型を使つて簡單に出來る部分があれば成可く型を使はせる。小學校の裁縫と云ふものは餘りむづかしく敎へる爲めに却て益も取らず蜂も取らないで了はると申します。兎も角も成可くやさしくしてやつた方が宜いと存じます。

それから裁縫の時間は出來得る丈二時間づゝ續けたいと思ふ。尋常三年や四年はさう長くすると云ふことは困難でありませうから、一時間宛で宜いが、五年六年から高等科に至りましては出來得る丈は二時間にしたい。同じ敎科を長く續けることは精神を餘計疲勞させると云ふことを申しますけれども、裁縫は精神身體共に働かせるので、精神ばかり過勞すると云ふ敎科でないから、二時間づゝ課しても大した差支はないと思ひます。時間を短くして置いては、それが爲めに生徒の出入や道具の出し入れに時間を費やすことになるから無駄なことであります。二時間と云つても中程で十分間位は遊ばしても宜しいが、一時間宛にして置くことはいけない。道具の出し入れと云つても三分か五分でありませうが、それが一回ではない。時間を成可く經濟に使はうと云ふことから考へれば二時間宛にして置きたいと思ふのです。斯う云ふことはずつと落着いて二時間なら二時間にするといふと非常に技術も進みます。今二十分した、今三十分したと云ふ樣なこ

とては何をしたか分らないから容易に結果が見えない。唱歌のやうなものであれば十分宛てもそれだけ上手になるかも知れませぬが、裁縫はさうは行かない。其處を能く考へなければなりませぬ

第二十三章　教科書と筆記帳

それから裁縫の教科書とか筆記帳を使ふことに付ての問題であります。裁縫は技術のものであると云つても、矢張り知識に關係することが澤山あるので、全く筆記も何も無しで記憶すると云ふことが出來るか出來ないか、それを思ふのでございます。昔の樣に裁縫ばかりを朝から晩までして居る時代にはさう忘れも致しますまいけれども、今日の學校では種々の教科を學ぶので、子供の方でも頭腦(アタマ)がいろ〳〵になつて居りますから若し忘れた時に見るものが何もなかつたならば復習も出來はしないかと思ふのです。でありますから記憶せしめる事柄は要點だけでも多少筆記させなければならないと思ひます。所が子供の筆記と云ふものは、皆樣方も御經驗がおありでございませうが、時間も長く掛かり又誤り易い。

子供に筆記させたならば必ず其帳面を取つて御覽にならなければならない。それには何も手數を厭ふ譯ではありませぬけれども、澤山の帳面を一々見てやると云ふことは隨分困難であらうと思ふのです。併し教師が見てやらなければ、隨分間違ひを生ずる。そこで矢張極くザッとしたことだけ筆記させるか、或は簡單に述べてある筆記帳の樣なものもいろ〳〵ありますから、さう云ふものを使はせると云ふことも一つの方法ではないかと思ふ。從來は小學校の裁縫教科書のことに就ては文部省で何とも申しませぬでしたが、八九年前でございましたか、訓令が出まして、小學校に於て裁縫の教科書を使はせることは出來ないことになりました。隨て近頃は筆記帳と云ふものが出來て居りますから、さう云ふものゝ中で是れが宜いと思召したものを御採用になつて使はせる樣に遊ばしたら宜からうと思ひます。又宜いと思召すものがなかつたならば學校の方で銘々御拵へになつたら如何かと思ふのです。無論子供の方では幾らかで買はなければなりませぬが、さう云ふものを御拵へになつても宜からうと存じます。何か小學校の子供には復習に便利なやうにしてやらなければいけませぬ。裁縫は技術だからと云つ

て、まるで帳面なしで總てを記憶させやうとしても無理でございます。現在は文部省の訓令がありますから教科書は使はないことになつて居りますが、併し必要があるとすれば或は其訓令を取消されるかも知れませぬ。中等教育の方では隨分裁縫や何かは澤山の時間があるし、又詳しく教へなければなりませぬから、書物を使ふことも宜からうと思ふ。現在多く使つて居りますが、初等教育では使つてならないと云ふことになつて居りますから無論使へませぬ。使へませぬが、教科書でなくても、それに代はるべき筆記帳などが幾らもありませうから廣く御覽になつたら宜からうと思ひます。

次には復習です。子供はおさらひと云ふことが何の教科でも肝要であります から、裁縫も矢張りおさらひをさせる方が宜しい。毎日一時間宛と云ふ譯にも參りますまいが、一週に三時間とか四時間はおさらひをさせる樣に致したら宜くはないかと思ふのです。唯、知識に屬することばかり復習するのでなく技術に關係することも矢張り復習した方が宜いと思ひます。或高等女學校で斯う云ふことをして居ります。例へば學校で一ッ身を一ッ教へたならば家庭でも矢張りそれと同樣なものを用意させて置く。家庭で一枚、學校で一枚と云ふことにして置く。さうして學校で今週に袖を二つ縫つたならば家庭に於ても矢張り袖を縫ふ。其次の週間に衽を附けたならば亦其通り家庭でさせる。家庭では先へ進むことはしない唯、學校で習つた通りをする。さう云ふ方法を施して居る處がありますが、それも一つの方法であります。丁度他の學科に於て、例へば讀本を一章習つたら家庭へ歸つて矢張り其處を二遍も三遍も四遍も繰返す。それと同じ樣な方法であります。又其外の學校では斯う云ふことを致して居ります。さう裁縫のやうなものを學校で習つた丈け復習させると云ふことも困難であるから、冬の休とか夏の休みとか云ふ間に、つまり一學期で習つたことを復習させる。三枚なら三枚悉くでなくつても、其の中のどれを一枚縫つて來いとか二枚縫つて來いと云ふやうな風にして、前に習つたものを必ず休み中に縫つて持つて來させる。さうして技術並に知識が何處まで應用されて居るかと云ふことを見てやる。さう云ふ方法も一つであると思ひます。兎も角も家庭で多少のおさらひをさせると云ふことは他の教科と同樣に肝要ではないか、斯う思ふのでございます。學校の裁縫は

割合に好く出來ないと云ふのは矢張り家庭でおさらひすることが不十分であるのに因るかも知れませぬ。他の教科は大抵豫習とか復習とか云ふことが伴ひますが、裁縫も、學校だけで習ふと云ふことであつては何うしても不十分であると云ふことになります。でありますから、矢張り宿題などを與へて、さうして必しも澤山でなくても、一ヶ年に二枚させるとか三枚させるとか云ふことにした方が宜からうと存じます。其時は皆か揃はなくつても宜い。三ッ身なら三ッ身と云ふ風に揃はなくつても宜い。既に習つたものでなければ無論いけませぬが、習つたものゝ中で、襦袢なら襦袢、三ッ身なら三つ身を、家庭に有合はしたものを縫つて來いと云ふことに致しても宜からうかと存じます。

第二十四章　裁縫科に關する設備

裁縫科に關する設備は大體に於て何うであるかと云ふことを考へますと、現在の處では何うしても十分だと申上げる譯には何れの學校でも參りませぬ樣であります。それは別に先生方が不熱心だからと云ふ譯ではなくつて、つまり從來の習慣或はいろ〳〵の都合などがありまして、學校として裁縫科を視ることが割合に輕いので自然其設備なども十分でないと云ふことになつて居るのであらうと思ひます。でありますから何れの地方に參りましても裁縫科の設備が十分と云ふ處はないのです。私共が常に奉職して居る學校に於きましても、矢張り裁縫科の設備は比較的不十分であります。時々請求致しますけれども、なか〳〵思ふ通りに夫れを求めて貰ふことが出來ませぬ。皆樣方も矢張り御同樣で始終不自由で居らつしやるだらうと思ひますが、さう云ふ次第で大體はどちらの學校に於きましても裁縫科の設備は割合に不完全であります。

併し設備が不完全であれば教授がしにくいが設備が完全であれば教授が立派に出來るかと云ふと、さう云ふことは言へない。教授と云ふことには教師の熱心と云ふことが一番力がある。それは皆樣御承知のことでありまして、私が申上げるまでもございませぬが、教師の熱心ほど教授に有力なものはないと思ひます。それは最も大事であると思ひますけれども、亦教師の熱心を助けるのに、設備が完全であれば尙ほ一層都合が好いと思ふのでございます。でありますから、若し設

備が不完全であれば其結果が何うなるかと申しますと、矢張り其不完全の結果損をするのは生徒である。設備が不十分であつたからと云ふても、學校或は教師には格別な不利益はありますまいけれども、一番多く不利益を受ける者は生徒である。教師は何の爲めに毎日學校に出て來るかと云ひますと、生徒或は兒童を教育しやうといふ爲めに出て來るのでありまして、それが職務でありますから、其不利益が兒童生徒に行かないやうに力めると云ふことが教師の教師たる職務であります。でありますから、出來得るだけ生徒に不利益の行かないやうに、成可く設備を完全にして貰ふやうに學校に向つて御要求になることが宜からうと思ひます。昨日もお話し申しました樣に「ミシン」を買つて呉れないと云ふので縣廳に行つて泣いたと云ふのも、決して其人に利益はないので、唯〻生徒に損をさせたくないからさう云ふことになるのであります。兎に角請求をした方が宜しいのです。出來ないと言はれゝばそれでも無理にと云ふことは言へないから遠慮致して居りますけれども、餘りまた遠慮に過ぎると教授の結果が惡くなりますから、其邊に氣を着けなければならないと思ひます。

教室

設備の中で主なるものは教室でありますが、御承知の通り裁縫教室と云ふものは特別教室であります。尋常小學校等に於きましては、或は現在の處では特別教室のない學校が澤山ありませうと思ひます。東京市あたりでは、特別教室どころではない。さなきだに生徒が澤山あつて普通學科の教室さへも間に合はない位でありますから、特に特別教室を設けるなんと云ふやうな贅澤は或は出來ないと仰しやるかも知れませぬ。併し尋常小學校では裁縫の時間も少いし、唯今申したやうな理由で特別教室はなくつても宜いかも知れませぬが、高等小學を併置してあるやうな學校に於きましては、他の學科は兎も角も、裁縫科の學科だけは何ういしても特別教室が欲しいと思ふのです。教室は普通には腰掛と机とありますのですが、或は學校の經濟上の都合其他の都合で疊敷の教室を使つて居る處もございます。それは經濟上の都合などであれば據所ない。なぜかと申しますと、机と腰掛と云ふやうな風に致しますと、一人の子供の取る面積が餘程廣くなります。疊敷であれば割合に狹くつて宜しいのです。でありますから、教室の大さから言

ひましても、狹くつて宜ければ夫れ丈利益であります。それから、机や腰掛を設備する爲めには亦なか〳〵の費用を要するのであります。机は裁縫科に於きましては二人用の方が便利でありますから、先づ二人用と致して其の机の大さを考へますと、一人に付て長が二尺五寸位、幅も矢張り二尺四寸位なものを要するのでありますから、つまり二人用と致しますと、長が五尺幅が二尺四五寸位の机を要する。そこへ腰掛を入れますから、其の間も幾分か空いてゐなければならないと云ふやうなことになります。丁度一人が腰掛と机で取る面積が三尺五寸平方位に當ります。又此教科の特質として机間巡視をよくしなければいけませぬ。他の教科であつたならば間は狹くつても足ることがありますけれども、裁縫科はさうは行きませぬ。教師が彼方へも此方へも行つて見てやらなければなりませぬから何うしても教師が自由に歩けるやうに空いてゐなければならない。其の上に又御承知の樣に、火鉢とか鏝とか、共同用の道具などが要りますから、夫れ等のものを載せて置く臺とか棚と云ふものがなければならない。それも矢張り外へやつて置く譯には參りませぬので、教室内に置かなければなりませぬのですから、裁縫の特別教室とすると餘程大きな教室を要するのであります。畳敷に致しますと、それは道具の這入ることは同じでありますが、腰掛の分だけが要らない。膝が這入るだけですから、生徒一人に要する面積の上から言ひますと、何うしても一人に付て五寸位づゝ減つて行く、隨て教室も幾分か狹くつて濟む。もう一つは作法教室を兼ねることです。小學校では普通の家庭に於て用ひる作法を多く教へませう。やはり立つたり坐つたりする座敷の畳の上の作法を教へるでありませう。でありますから自然其教室が學校内に一つ位欲しいと云ふ所から、作法の稽古に裁縫の教室を使はうと云ふやうなこともあります。さう云ふ風に教室を利用すれば亦其方面の經濟は出來る譯でありますから、そんな都合上から畳敷にすることは是れは別問題でありますが、單に衛生上とか、教授とか、便不便と云ふことを考へれば普通學科の教室の通り机腰掛と云ふ設備にして其上で仕事をすると云ふことが、無論最も宜しいのでございます。

先程裁縫科は二時間宛の方が時間割として宜いと云ふことを申しましたが、子供は一時間も坐つて居ることがなか〳〵困難です。大人でも然うでございます。

私共立ち商賣の者は長く坐つて居ると痺が切れる。皆樣も矢張りさう云ふことがございませうが、それを子供に二時間も坐つて居れと云ふことは無理である。又長く坐つて居れば汗が出るとか、いろ〳〵不便もあり、衛生上宜しくないことも明かであります。又教授の上から言ひましても、やはり教授の敏活を缺くやうになる。一齊教授と云ひましても矢張り個人的の注意を拂はなければならない。それには疊敷であれば一々立つたり坐つたりしなければなりませぬから、隨て敏活に行きませぬ。さう云ふ風でありますから、疊敷と云ふものは衛生上管理上或は教授上凡て不便なものであります。又教師ばかりでなく、生徒の方から言ひましても、矢張り腰を掛けて居る方が宜しいのです。裁縫と云ふものはチャンと坐つてばかり居ては出來ませぬ。いろ〳〵火熨斗を掛けたり鏝を使つたりしなければなりませぬから、坐つてばかりは居られませぬ。何うも裁縫教室と云ふものは一寸參觀などをされると洵に體裁がわるいのです。如何にも教室が紊れて居るやうに見える。それは裁縫教室の特質なんです。話でもして彼方を向いたり此方を向いたりして居ればそれは紊れて居ると云はれても仕方がありませぬが、せつせと能く働いて居るのが丁度教授の紊れて居る樣な風に見える。さうばかり思ふ人もありますまいが、若し然う思つたら間違ひです。兎に角さう云ふ風でありまして、いろ〳〵動作をしなければならない性質の教科であります。でありますから生徒の方から言ひましても、矢張り腰を掛けて居る方がズッと便利であります。或は家庭では疊の上に坐つて裁縫するから學校でも裁縫は矢張り坐つてしなければならないと言ふ人がある。そんなことは最も謂はれのない取るに足らない說でありますが、よく男の方などはさう云ふことを申されます。家内も娘も皆家庭で坐つてして居る、學校で腰を掛けさせるのはいかぬと言ひますけれども、それは取るに足らないお話です。やはり其奥さんでも娘さんでも、學校に居る時分には讀方や習字を腰を掛けてなさつたのでありませう。何もさう裁縫ばかりが坐らなければならないと云ふ理由はない。唯さう云ふ習慣ですネ。初からさう云ふ風にするものだと思へば譯はない。別に奇妙に思はないのです。教室の種類から言ひますと、さう云ふ風でありますから、矢張り腰を掛ける方が宜いのです。從來あるのは仕方がありませぬが、新規に裁縫室を造ると云ふやうな場

合には、今申した理由から、面積を廣くしてお貰ひすることゝ、それから疊敷でない方にしてお貰ひすることに、經濟が許すならば致したいと思ふのでございます。

それから申す迄もなく教室は光線が十分に這入らなければいけませぬ。何の教科でも室の暗いのは兒童の視力を弱めて困りますが、裁縫は殊に細かい仕事を致しますから、他の教室よりも一層明るくなければいけませぬ。何うしても二方明りでなければなりませぬ。一方明りは無論いけない。二方明りと云ひますれば、大抵は左右から光線が這入るのでございますが、それも成可くは左から餘計に光線を取るやうに致したいと思ひます。左右から取れないときには、前面から取ると云ふことは要りませぬから、背ろと左の方とか云ふやうな風でも仕方がありませぬ。それから教室の溫度を適宜にすると云ふことが必要であります。是れは教室の造り方ではないかも知れませぬ、けれども、冬寒くつて手が凍えて十分に裁縫が出來ないと云ふやうなことであつてはいけませぬ。他の精神的の學科であつたならば、如何に寒いと云つても頭は凍えないから宜しいが、手先の仕事は何うしても手が凍える樣では十分に出來ない、器用に手先が働かない。それではどの位の溫度以下であると手先の働きが不器用になるかと云へば、先づ五十度以下ですネ。五十度以下四十度なんと云ふ迄に下がると手先が凍えて軟かに働けませぬ。體操のやうな粗ッぽい仕事なら働けば溫くなると云ふこともありますが裁縫は細かい手先の仕事ですからなか〳〵運針をしたから急に溫くなると云ふ譯のものでございませぬ。でありますから溫度を適宜にすると云ふことを特に裁縫教室に置きましては注意しなければいけませぬ。溫度を適宜にすると云へば、矢張り寒い時に暖室法を宜くするより仕方がないのです。隙間があつて風が吹通ると云ふことは無論教室の構造に關係することで、さういふ粗末なものもございますまいが、普通他の教室と同じ樣でありましても、他教室なら火鉢やストーブを焚かなくつても宜いが裁縫科の教室なら火鉢を入れるとかストーブを焚いて室内を相當に溫めると云ふ必要はあると思ふのです。多くは火鉢をお使ひになるのでありませうが、火鉢を使ひましても、教師が餘程氣を着けて、朝などは授業前三十分位から火を入れて貰はなければ何にもならない。今授業が始まるから直ぐにと云つても、それでは室内は溫まらない。出來得るならば矢張りストーブ

の方が暖を取るには宜しいのであります。ストーブを使ひますときには、石炭では、どうも風の吹返しなどが來ますと油煙が散つて用布などを汚すことがあるから矢張り薪を焚かなければいけませぬ。薪ならば灰になつて了ひますから黒い油煙が散ると云ふことはない。最も宜しいのは何かと云ひますと、是れは普通には行はれないかと思ひますが、スチームを焚くのが一番宜しいのです。併しスチームが宜いと云ふことは唯、理想として言へるだけのことでありまして、現今我國の民度ではそれを無理に要求することは出來ませぬ。火鉢は灰が飛ぶし又御承知の通り酸化炭素も澤山出て空氣を不潔にする。ストーブは火鉢よりも稍、宜しいが、今申す通り油煙が飛ぶので困る。一番宜しいのはスチームである。併し實行がむづかしい。唯、理想として一番何が宜からうとお尋ねになれば、それはスチームが宜いと申上げるより外仕方がない。それから夏の極く暑い時には休業するから宜しうございますけれども、其前に、七月一杯位は大抵の小學は授業を致します。七月も丁度半ば頃からはなか〳〵暑くなります。暑いから直ぐ休むと云ふ譯には無論參りませぬから、成可く暑い時に教室を涼くする工夫をして置かなければなりませぬ。涼しくするには無論涼氣を送ると云ふことが好い方法でありませうけれども、それは費用の掛かる問題で、到底實際に行はれない。そこで窓のある處は日覆を拵へるとか、或は桐の樣な大きな葉の擴がる樹を植ゑて置いて、暑になつたら日を遮つて室内を涼しくすると云ふ方法もありませう。先づさう云ふことにして、成可く夏は涼しく冬は暖かにして教授をするやうに致したいと思ふのです。

特別教室のない、即ち今申すやうな裁縫教室のない處では、机の上に何か板を敷くとか、或はボール紙の厚いのを敷くやうに致したら宜からうと思ひます。普通教室の机はいろ〳〵な用をする處で、汚ごれても居りますし、又おもに臺に使ふのですから、篦などをするに不適當でございます。近頃カサイと云ふ人が拵へたものので、ボール紙を厚く固めた樣なもので三つなり四つなりに折れるカサイ板と云ふのがありますが、あゝいふのも宜からうと思ふのです。さう云ふものは生徒に教へて自身に銘々拵へさせても宜いかも知れませぬが、それが出來なければ矢張り學校の設備として校費で買つて貰ひたい。それは餘り値段の高いものではな

い。二人用として擴げて使ふ位のもので七八十錢位でありませうと思ひます。一年や二年でいたむものでない、五年やそこらは使へますから、さう高價と云ふ程でない。あゝいふものを使つて、尋常小學校などでは普通の手工室でやつても宜からうと存じます。

第二十五章　教授用備品

教授用の道具は大抵御承知でございませうが、唯〻利害を少しばかりお話し申上げたいと思ひます。裁縫の教室には動もすれば黒板がない。裁縫は縫ふことだけ教へると云ふやうな考で、黒板などがなかつたり、或は有つても小さい、普通の半分位のものを出してありますけれども、あれは間違つて居るのでございます。裁縫は技術のものでありますから、縫ひ方などを文字で示したり、標本は小さいから擴大して說明するとか、又は裁ち方の圖を描くとか、長い大きい黒板を要することが始終あるのです。でありますから裁縫教室の黒板であるからと云つて特に小さい短いのを掛けるのは間違ひであります。却て黒板を使ふことが澤山あるのです。成可く大きい長い黒板を掛けるやうにしてお貰ひ致したい。それから机とか腰掛と云ふものが入用でありますが、特別教室であつて机を新たに拵へると云ふならば寸法に注意することが肝要です。其等のことは今細かにお話致しませぬでも、私の「裁縫教授」と云ふ本に詳しく書いてありますから、寸法などは、さう云ふ書物に依つて御參考下さつても宜からうと思ひます。机の面は何う云ふ材質が宜いかと言ひますと、樅とか或は杉と云ふやうなものを多く用ひるのでありますけれども、裁縫科の机は樅や杉では柔くつていけませぬから朴を使ふ。併し朴と云ふものはなか〳〵高價なものです。前に申しました樣な二尺四五寸もある机(二人用)を朴で拵へやうとすると、少くとも五六圓は掛かるのです。なか〳〵高いのです。そこで若し朴は價が高くつて到底出來ないと云ふなら、柳とか鴨脚樹とか云ふやうな朴に似た材質のものを使ふ。なぜ幅を廣くするかと云ひますと、それは生徒が縫物をする爲めに都合が好いやうにと云ふのでなくして、何うしても篦付の實習をする時は、褥などは布副が二枚載らなければならない。大抵九寸から九寸五分が布副ですから、曲尺に直すと何うしても二尺四寸なければなりま

せぬ。縫ふのにも廣い方が無論宜いのでありますけれども、併し三寸や五寸狹くても出來ないことはないが、篦付は狹くつては出來ない。何うしても副を廣くしなければならないことになるのです。それは尋常小學校では大變困るだらうと云ふやうに御考へになるかも知れませぬけれども、尋常小學校では縫ふものが小さい、副も狹い。一ッ身でいへば篦付をすると云つても狹くつて濟む。小さいものを多く縫ふのでありますから、尋常小學校では普通教室で篦臺を置いてした方が宜からうと思ひます。それから又棚と云ふことが必要であります。棚も深いと中に埃が溜まつていけませぬから淺く造る。例へば二尺五寸の副でありまして も、棚は一尺五寸位の深さで宜い。そんなら抽匣は何うかと云ふと、費用の上から言へば、抽匣を附けると一圓も二圓も高くなります。また費用の方は構はないでも矢張り棚の方が宜いと思ふのです。いろ〳〵な級が這入つて來る教室ですから、何か忘れ物でもしたときには棚の方が直ぐ見えて宜からうと思ふ。

それから腰掛ですが、腰掛は矢張り二人掛のものが宜いのです。小學校などに於きましては腰掛は机の下に入れることが出來るやうに致したい。つまり机の足より中へ這入るのですから、少し短くするのです。さうして篦付などをする時には、腰掛を机の下に入れて兩方に立つてするのです。腰掛の長さが机と同じであれば下に入れることが出來ませぬから、兩方に立つて篦付をすることが出來ませぬ、又教師が廻つて歩くことも出來なくなつて了ひますから、何うしても机より少し短くして下へ這入るやうにしなければいけませぬ。全體腰掛と云ふものは一人掛が宜いのですけれども、費用が多く掛かります。それに棚もなく棚匣もないときには何か餘計なものは何處へ置くかと云ふと、二人掛の腰掛であれば隣の人と自分との間に置くことが出來ますけれども、一人掛であつてはさう云ふことが出來ない。それで小學校や普通の高等女學校などに於きましては二人掛が宜しいと思ふのです。小學校でなしに、補習學校とか、主として技藝を教へる場合には、いつも隣の人と自分と同じ動作をすると云ふ譯ではない。一方が縫物をしてゐても一方は鏝を掛けて居るかも知れない。さう云ふ處から言へば無論一人掛が宜しいのです。各自の作業が違ひ姿勢も違ひますから一人掛の方が便利でありますが、小學校や高等女學校の普通教育に於きましては二人掛でも餘り不便は

ない、又學校の經濟上から申しましても餘程都合が好からうと思ひます。

それから教師用の机は成可く大きくしなければなりませぬ。いろ〳〵標本を載せたり致しますので、唯、普通科の樣に、教師の本を置くとか帳面を置くと云ふ事務用に使ふのみではないから大くなければいけませぬ、或は蓋を起こして生徒の方に向けられる樣に拵へて、標本などを生徒に示すに都合の好い樣にして置くのも好い方法と思ひます。無論教師用の机は抽匣がなければいけませぬ。

其外には戸棚とか或は掛圖とか標本でありますが、戸棚は生徒の道具を仕舞ふ爲めに何うしても必要です。又生徒の成績などを一緒に集めて置く必要があるから、教師用の戸棚も無論なければならない。又標本を入れて置く戸棚も無論有る方が宜いと思ふ。さうして例へば尋常三年ではどれだけの仕事をする、四年には何う、五年六年に行けば是れだけの仕事をする、即ち尋常科を終はる迄には凡て是れだけのことが出來るのであると云ふことを常に兒童に目擊させて樂んで稽古をする樣に致したい。でありますから標本などは成可く多く拵へて、其學校にある丈の數を揃へて置くやうに致したいと思ふのです。時には參考になるものを置くのも宜しいでございませうし、或は細目以外のものでありましても、多少子供に出來る位の程度のものは矢張り揃へて置く方が宜い。必しも細目のみでなくつても、時間の餘つた時には斯う云ふものをさせやうと思ふものも置いて宜からうと存じます。戸棚の造り方などでも前に申上げた本に書いてございますから、其れに就いて御覽を願ひます。其中にあるのは、兒童用の戸棚は兩方へ開く樣にしてあります。つまり觀音開きにしてある。なぜさうするかと申しますと間口を廣くする爲めです。引戸であると、物を出入する時に、こちらへ引いたり、あちらへ引いたりして隨分面倒です。おまけに間口が半分しかない。觀音開きになつて居りますれば一遍で間口が廣く開くから物の出し入れには大變都合が好いのです。でありますから外の戸棚は皆引戸でありますけれども、兒童用の戸棚だけは觀音開きにする方が宜いと思ひます。

次には掛圖と標本であります。掛圖の造り方はいろ〳〵ございますが、其種類としては、衣服の名稱の圖、裁ち方の圖、標附け方の圖、各種の部分縫の圖と云ふやうなものが入用であります。此等の圖は矢張り前以つて掛圖に拵へて置いた方が

宜しうございます。餘り不恰好なものを黒板に描いたりしては子供がおかしくなつて、却て教授が滑稽になつて了ひます。旨く黒板の上に描けるものは掛圖にする必要はありませぬが、少しむづかしいものは掛圖を拵へて置く方が宜しうございます。茲に一例を御目に懸けやうと思つて掛圖を持つて參りました。

糸の結び方掛圖(省略)

是れは糸の結び方とか或は繼ぎ方とか云ふことの順序を教へるのです。それには彼れ是れと色を違へて示した方が明瞭に分つて宜からうと思ひます。堅く結んでは順序が分りませぬから緩く結んで順序の形を示すのです。

衣服名稱の掛圖(省略)

凡て衣服の名稱を教へるばかりでなく、寸法を教へるときに、斯う云ふ掛圖と實物とを對照して教へるが宜いと思ひます。前と背ろとを示す。斯う云ふことは學校で等閑に致しますけれども、それを等閑にしないやうにする。肩上げを附けるとか、附紐を附けるとか云ふやうなことは、纏まつたことは出來なくとも、隨分小さい子供でも入用な場合が幾らもあります。之を等閑にして置きますと、ちよつと妹の附紐がとれても付けてやることが出來ないと云ふ樣なことになりますから面白くないのです。

單衣の掛圖(省略)

これは單衣の名稱です。單衣の名稱はいろ〳〵ありますが、袷を教へる時にも矢張り單衣と同じ部分があります。袵先とか袷裏とかいろ〳〵ある。唯、是れは袵先である袷裏であると云ふことばかりでなしに、裁ち方の時にも、其袷裏は何う云ふ風に付ける、裾廻しと同じものを附けるのであると云ふやうなことを教へる。それから褄や八ツ口などは小さく描いては遠くから見えませぬから特に大く描くのです。

裁ち方掛圖(省略)

是れは裁ち方です。これは比例を誤るといふことを致しますと兒童の觀念を誤りますから、成可く實物と違はない樣に致したい。でありますが、何分にも日本の衣服は本裁のものであつたならば二丈八尺ですから、まるで實物と同じ寸法を掛圖に表はすと云ふことは出來ない。半分にしても一丈四尺で

す。併し長くなければ表はせない點は唯〻綜合圖だけです。袖とか襟とか衽とかを綜合した處は長くなければいけませぬか、一部分づゝを示すには小いさくつても宜しいのです。綜合圖は必ず二分の(一丈四尺)位の大さでなければ子供の觀念をつくることが出來ないと云ひますと、さう云ふ譯でもないと思ふのです。極く細かいものでありましたなら別ですけれども、日本の衣服は極くザッとした裁ち方でありまして、其樣に細かい圖を引かなければならないと云ふ必要はありませぬから、凡そ十分の一位の大さにする。さうして各部の關係を敎へる。袖を取つてから襟を取るとか云ふ樣なことを敎へるのです。

次に實習をするときにはそれ〴〵計算して其計算通り間違ひないかと云ふことを初に布を折つて見なければなりませぬ。それには第一に袖の折方をあらはす。それから襟の折方をあらはす。又衽下りを折る。さうして過不足なくチャーンと計算に合つたならばそれは間違ひないと云ふことになる。さう云ふ風に折つて見て、計算の間違ひがないと云ふことが分つて、そこで安心して袖と襟の堺を裁るとか云ふやうな順序で敎へるのです。裁ち方を綜合し、折方を綜合して、さうして裁ち切つたときには斯う云ふ風なことになると云ふ樣に敎へるのであります。

標附方の掛圖(省略)

次に標の附け方を敎へる。袖には圓い袖もありますから其圓いのも敎へる。先づ斯う云ふ順序で敎へて行つたら宜からうと思ひます。皆樣方も斯う云ふ掛圖を拵へてある方もありませうけれども、大體に於て斯う云ふ順序で子供に一つ〴〵に考を入れて行きましたなら割合に判然と分ると思ひます。前にもお話致しましたが、唯〻綜合圖だけを出して寫してお置きなさいと云ふことだけではいけませぬから、今申す通り細かく分けて敎へて行く方が宜からうと思ひます。

掛圖は斯う云ふ風な掛物の樣にするのは一番費用が高く掛かります。斯う云ふのを拵へるのには大抵二十五錢位掛かるのです。よく歴史畫などは普通ボール紙に貼つて糸を附けて掛ける樣になつて居る。あれなら十錢か十五錢で出來ます。あゝ云ふのでも宜しうございますが、唯〻卷くことが出來ませぬから汚ごれ

ます。巻いて置けば汚ごれないと云ふことは確にありますが、併し拵へ方は何ら云ふのであつても宜しいのです。

次には標本でございます。是れは既に市橋講師からいろ〳〵お話しなされたことであらうと存じますから、別に私は詳しくは申上げませぬが、兎に角標本を拵へて置くことは無論必要です。特に部分縫の標本は兒童の御手本でありますから必ず拵へて置かなければなりませぬ。又毛糸の様な太い糸で大きく表はすと云ふことも必要であります。』

尙この標本に付きましては、取外づしの出來るものを竹早町の師範學校から博覽會に出されてあります。よく御氣を着けて御覽下されたら宜からうと思ひます。衣服の形になつて居りまして、それが袖、衿なる衿を取外づしたり附けたりすることが出來る様になつて居るのです。あゝいふものも宜からうかと思ひます。

それから學校の教授の道具と云ふものは教師ばかりでなく、多くの兒童が使ふのでありますから、夫れ等のものは成可く衛生的であることが肝要であります。學校と云ふものは多くの兒童が集まつて居るのですから、不衛生なるものは一切避けなければなりませぬ。例へば霧吹のやうなものでも、從來市中に賣つて居りますブリキ製のものがございますが、それよりも斯う云ふもので（實物供覽）霧を吹く様に致したい。さう始終使ふ譯でありませぬから教室に一ッか二ッあれば宜しいのです。成可く口で吹いたりしないものを使ひたい。それから火熨の臺なども石綿を張ると云ふことを遊ばして居る學校も澤山ありませうけれども、どうしてもさう云ふことに致した方が宜からうと思ひます。御承知の様に、火熨斗は木の上へ置けば焦げるし、ブリキでも張つてある臺の上に置けば火熨斗の面が損じる。火熨斗の面を損じない様に焦げない様するには矢張り石綿のやうなものを張つて臺にする。さう云ふ風にいろ〳〵の注意を致さなければなりませぬ。學校の道具は家庭で一人や二人が使ふものと違ひますから、それには何う云ふものが宜からうと云ふことを始終考へなければなりませぬ。』

それから設備すべき道具の改良のお話を申上げればいろ〳〵ございますがどうも時間がありませぬから十分にお話を仕切れませぬが、兒童用として從來使つて居る鋏を私は斯う云ふ（實物供覽）に改めたいと思ふのです。是れは種ヶ島の鋏

ですが、從來の普通の鋏では大變に力に損があります。此事はたび〳〵講習の時にお話申上げるのでありますが、どうも實際に使つて下さる方が少い。竹早町の師範學校では幸に私の說を採用して下されたのですか之を使つて居ります。道具は多少づゝ進步改良したものを使つて行くやうに敎師は試みることが肝要であります。三十年前とか、五十年前とか、或は三百年も五百年も前のものを使つてそれを最も好い便利な道具と考へて居るのは間違ひである。力が損なもの、衛生上危險なもの、經濟上損なものと云ふことが明かに分つて居るのに尙夫れを用ひて居るのは敎育的でないのであります。から段々改良した便利な道具を用ひるやうに試みて載きたい。夫れからマア是れは高等女學校などでなければ入用がありますまいが、孔を穿けますのに斯う云ふ鋏があります(實物供覽)。從來は圓い錐を持つて來たり鑿を持つて來たりしてやらなければならなかつたが、斯う云ふ鋏が一挺あれば孔を穿けることは容易に出來ます。斯う云ふものを使へば、さう數くのものを運ばないでも宜いのです。火熨斗の內部に眞鑄や亞鉛(トタン)の入籠(イレコ)をしてあるのがございますが、あゝ云ふものでありますと火が大變に經濟です。やはり學校の經濟のことも無論敎師は考へなければいけませぬ。裁縫科では火鉢の火を澤山おこす。夏などは暑くつて困りますけれども、何うしても鏝などを使ふから火を澤山おこします。でありますから成可く火が少しで火勢が能く用ひられるものを擇ばなければならないと思ひます。

第二十六章　設備上の注意

設備上の注意と云ふことも、前の處で、大抵含めてお話して了ひましたが、第一に衛生上の利害を考へる、第二には、學校の經濟上のことを考へる、且つ堅牢なものでなければならない。子供と云ふものは、さう取扱ひ方などを鄭寧にばかりはしませぬ。且つ大勢の子供に使はせるのですから成可く丈夫なものでなければいけない。それから、使ふ際に餘り手數の掛かるものは矢張りいけない。手數の掛からないものを擇ぶ。道具は如何に整頓して好くありましても、手數が掛かつて子供が使ひにくいものはいけない。鏝などでも近頃は柄を差したり外づしたりする樣になつて居るのがあります。火にかけて置く時には柄を外づして置いて、いよ

いよ鏝を使ふ時に柄を差して使ふ。併しさう云ふ風に、使ふ時に柄を差すと云ふのは大變子供には手數なんです。理窟の上から言へば、柄を外づして火にかけて置いて使ふ時に差した方が宜いけれども、實際使つて見るとなか〳〵一々柄を差して使ふと云ふことは面倒です。或は旨い具合に行かないで、熱い鏝が足の上に落ちると云ふことがないとも云へない。それが爲めに矢張り使ひにくい。それから兩手鏝なんと云ふものが廣告されて居ります。霧を吹きながら鏝をかける。いかにも理窟は好いが弱いのです。マア改良して、丈夫に出來るかも知れませぬが、兎に角弱くつて仕方がない、長く使用に耐へない。それから自生火熱鏝と云ひまして、火の氣がなくして自分で鏝を熱めながら使ふと云ふものがあります。それはアルコールを燃やして熱めるのです。灰などが飛ばないで綺麗だと云ふ。成程綺麗ですけれども、併しアルコールを使ふと云ふことは日々の費用が大變です。理窟は好くつても經濟上毎日消費する所の分量が多いから學校などには不適當かと思ひます。

其他改良された道具もいろ〳〵ありますから發明館あたりに行つて御覽下さるやうに願ひたいと思ひますが、たゞ改良されたものを使ふことは、今申し上げました樣に必要ではございますけれども、其利害得失と云ふことを考へなければいけませぬ。それから學校の道具でありましても、形の餘り醜いものは面白くないと思ひます。出來得るならば、ひどく形の醜くないもので、さうして矢張り不揃ひでないものを備へて置くやうにする。例へば戸棚を拵へるならば、使用の目的から云つても、教師用と、兒童用と、標本用と、此三ッを何うしても拵へなければいけませぬが、それには、成可く對のものを拵へる。兒童用とすれば五組なら五組拵へるやうにする。一般の家庭でも各〻違つた火鉢が三つも四つもあつては面白くないから矢張り對の火鉢を拵へると云ふやうな譯ですが、學校の道具も矢張りさう云ふ點を多少考へた方が宜いと思ひます。それから多少にても進歩的のものを擇ぶ。いつでも從來の儘と云ふことは面白くない。さう云ふことを注意して道具を設備するのであります。

尙ほ餘論として申上げたいことゝ、それから歐米に於ける女子手工科教授の方法と云ふことを時間がありましたらお話し申し上げたいと思ひましたが、時間が

足りませぬので、何うしてもお話が出來ませぬでございます。併し、教授の方法と申しましても特別に斬新なことはないのでございます。私共が裁縫教授法についていろ〳〵と困難して考へて居る所と餘り違つたことはありませぬ。唯、亞米利加あたりで近頃教材の撰擇て餘程注意して居ると云ふことが稍〻違つた點であります。併し夫れ等のことをお話し申上げる時間がございませぬから是れで御免を蒙ります。

裁縫教授法終

大正四年六月一日印刷
大正四年六月四日發行

不許複製

著作兼發行者　裁縫科教授法研究會
代表者　東京市神田區錦町一丁目二番地　廣瀬幸十郎
東京市神田區錦町一丁目二十番地（神田橋外）

印刷者　高桑基次
東京市京橋區西紺屋町二十七番地

印刷所　株式會社秀英舍
東京市京橋區西紺屋町二十七番地

263,1
III

終